

SIOS Protection Suite for Linux

メッセージカタログ

v9.2.2

[Core メッセージ](#)

[DataKeeper メッセージ](#)

[DB2 Kit メッセージ](#)

[DMMP Kit メッセージ](#)

[EC2 Kit メッセージ](#)

[ファイルシステムキット メッセージ](#)

[Gen/App Kit メッセージ](#)

[IP Kit メッセージ](#)

[Oracle Kit メッセージ](#)

[Oracle Listener Kit メッセージ](#)

[QSP Kit メッセージ](#)

[SCSI Kit メッセージ](#)

総合メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
000200	ERROR	pam_start() failed	
000201	ERROR	pam_authenticate failed (user %s, retval %d	
000202	ERROR	pam_end() failed?!?!	
000203	ERROR	Did not find expected group 'lkguest'	
000204	ERROR	Did not find expected group 'lkoper'	
000205	ERROR	Did not find expected group 'lkadmin'	
000902	ERROR	Error removing system name from loopback address line in /etc/hosts file. You must do this manually before starting the GUI server.	<p>原因: システム名が /etc/hosts ファイルから削除されています。</p> <p>処置: システム名を手動で削除し、GUI サーバを再起動して、次のコマンドを入力します: run <action name></p>
000918	ERROR	LifeKeeper GUI Server error during Startup	<p>原因: 異常な状態により、GUI サーバが終了しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
001052	FATAL	Template resource "%s" on server "%s" does not exist	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p>
001053	ERROR	Cannot access canextend script "%s" on server "%s"	<p>原因: {server} でスクリプト CANEXTEND が見つからなかったため、LifeKeeper は拡張前のチェックを実行できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
001054	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。
001055	ERROR	Cannot access extend script "%s" on server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でスクリプト EXTEND が見つからなかったため、リソース階層を拡張できませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。
001057	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。
001059	ERROR	Resource with tag "%s" already exists	原因: リソースで指定した名前はすでに使用中です。 処置: リソースに別の名前を選択するか、既存のリソースを使用してください。
001060	ERROR	Resource with either matching tag "%s" or id "%s" already exists on server "%s" for App "%s" and Type "%s"	原因: リソースで指定した名前または ID はすでに使用中です。 処置: リソースに別の名前または ID を選択するか、既存のリソースを使用してください。
001061	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	原因: リソースの作成中に予期しない障害が発生しました。 処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。
001081	WARN	IP address \"%\$ip\" is neither v4 nor v6	原因: 指定した IP アドレスは IPv4 アドレスでも IPv6 アドレスでもありません。 処置: 指定した名前またはアドレスを確認し、再試行してください。名前を指定している場合は、名前の解決が有効な IP アドレスを返していることを確認してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004024	ERROR		<p>原因: LCD はリソースのリカバリ中にリソースID {id} のリソース情報のフェッチに失敗しました。</p> <p>処置: 入力リソースIDを確認し、リカバリ操作を再試行してください。</p>
004028	ERROR	%s occurred to resource \"%s\"	<p>原因: リソース {resource} のローカルリカバリが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004055	ERROR	attempt to remote-remove resource \"%s\" that can't be found	<p>原因: タグ名 {tag} によるリソースの検索中に、リモートによるサービスからのリソース削除に失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を確認し、リカバリ操作を再試行してください。</p>
004056	ERROR	attempt to remote-remove resource \"%s\" that is not a shared resource	<p>原因: タグ名 {tag} が共有リソースでない場合に、リモートによるサービスからのリソース削除に失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を確認し、リカバリ操作を再試行してください。</p>
004060	ERROR	attempt to transfer-restore resource \"%s\" that can't be found	<p>原因: タグ名 {tag} を指定したサービスリソースのリモート転送に失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を確認し、リカバリ操作を再試行してください。</p>
004061	ERROR	attempt to transfer-restore resource \"%s\" that is not a shared resource with machine \"%s\"	<p>原因: LifeKeeper は、リモート {machine} からサービスのリソースをリモート転送する際に、{tag} 名による共有リソースの検出に失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を確認し、リカバリ操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004089	ERROR	ERROR:Parallel recovery initialization failed.\n	<p>原因: 並行リカバリは、階層内にあるリソースのリストの初期化に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004093	ERROR	ERROR: reserve failed. continuing to next resource\n	<p>原因: 並行リカバリは、集合階層から単一のリソースのリザーブに失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004096	ERROR	ERROR: clone %d is hung, attempting to kill it\n	<p>原因: リソースリカバリの単一のサブプロセスが、リソース階層全体の並行リカバリの際にハングしました。</p> <p>処置: ハングしているサブプロセスが自動的に停止します。</p>
004097	ERROR	ERROR:Could not kill clone %d\n	<p>原因: ハングしているサブプロセスの停止に失敗しました。</p>
004116	ERROR	%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、中間フォルダを作成しようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、中間フォルダが作成されていない理由を判別してください。</p>
004117	ERROR	open(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、一時ファイルを開こうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルを開くことができない理由を判別してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004118	ERROR	write(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、一時ファイルに書き込もうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルの書き込みに失敗した理由を判別してください。</p>
004119	ERROR	fsync(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、一時ファイルにfsyncを実行しようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、「fsync」が失敗した理由を特定してください。</p>
004120	ERROR	close(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、一時ファイルを閉じようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルのクローズに失敗した理由を判別してください。</p>
004121	ERROR	rename(%s, %s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、一時ファイル{file}の名前を元のファイル{file}に変更しようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルの名前変更に失敗した理由を判別してください。</p>
004122	ERROR	open(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、中間ディレクトリ{directory}を開こうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ディレクトリのオープンに失敗した理由を判別してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004123	ERROR	fsync(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、中間ディレクトリ{directory}にfsyncを実行しようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ディレクトリの「fsync」に失敗した理由を特定してください。</p>
004124	ERROR	close(%s	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、中間ディレクトリ{directory}を閉じようとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ディレクトリのクローズに失敗した理由を判別してください。</p>
004125	ERROR	wrote only %d bytes of requested %d\n	<p>原因: メモリ内データオブジェクトのオンディスクバージョンを書き込む際に、書き込まれるデータの最終的なサイズ{size}バイトが要求バイト数{number}を下回っているため、書き込み操作が失敗しました。</p> <p>処置: ログで関連エラー情報を確認し、データの書き込みに失敗した理由を判別してください。</p>
004126	ERROR	open(%s	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファに読み取っている間に、データファイルを開こうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルのオープンに失敗した理由を判別してください。</p>
004127	ERROR	open(%s	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファに読み取っている間に、一時データファイルを開こうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルのオープンに失敗した理由を判別してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004128	ERROR	read(%s	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファにロードしている間に、データファイルを読み取ろうとして失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルの読み取りに失敗した理由を判別してください。</p>
004129	ERROR	read buffer overflow (MAX=%d)\n	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファに読み取ろうとしている間に、読み取りバッファの制限 {max} に達しました。</p> <p>処置: LifeKeeper 設定を確認し、LifeKeeper を再起動してください。</p>
004130	ERROR	close(%s	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファに読み取っている間に、データファイルのクローズに失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルのクローズに失敗した理由を判別してください。</p>
004131	ERROR	rename(%s, %s	<p>原因: データオブジェクトのオンディスクバージョンをバッファに読み取っている間に、一時データファイルの名前変更に失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ファイルの名前変更に失敗した理由を判別してください。</p>
004132	ERROR	Can't open %s :%s	<p>原因: アプリケーションとリソースタイプ情報のオンディスクバージョンをバッファに読み取っている間にエラー {error} でディレクトリ {directory} のオープンに失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認し、ディレクトリのオープンに失敗した理由を判別してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004133	ERROR	path argument may not be NULL	<p>原因: 入力ソースパスが見つからないので、ファイルコピー中にコマンド「lcdrp」が失敗しました。</p> <p>処置: 入力ソースパスを確認し、「lcdrp」を再実行してください。</p>
004134	ERROR	destination path argument may not be NULL	<p>原因: 入力ディステーションパスが見つからないので、ファイルコピー中にコマンド「lcdrp」が失敗しました。</p> <p>処置: 入力ディステーションパスを確認し、「lcdrp」を再実行してください。</p>
004135	ERROR	destination path can't be zero length string	<p>原因: 「lcdrp」によるファイルコピー中に、入力ディステーションパスが空でした。</p> <p>処置: 入力ディステーションパスを確認し、「lcdrp」を再実行してください。</p>
004136	ERROR	open(%s	<p>原因: 「lcdrp」によるファイルコピー中に、ソースファイルパスのオープンに失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 入力ソースパスがあるかどうか、および使用可能かどうかを確認し、「lcdrp」を再実行します。また、関連ログで詳細なエラー情報を確認してください。</p>
004137	ERROR	fstat(%s	<p>原因: 「lcdrp」によるファイルコピー中に、「fstat」を使用したファイル属性のフェッチに失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: ログで詳細なエラー情報を確認してください。</p>
004138	ERROR	file \"%s\" is not an ordinary file (mode=0%o	<p>原因: 「lcdrp」によるファイルコピー中に、通常のものではないファイルとしてソースファイルが検出されました。</p> <p>処置: 入力ソースファイルパスを確認し、「lcdrp」を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004152	ERROR	having \"%s\" depend on \"%s\" would produce a loop	<p>原因: 要求された依存関係を追加すると、依存関係がループします。</p> <p>処置: 要求された依存関係を修正し、依存関係の作成を再試行してください。</p>
004164	ERROR	Priority mismatch between resources %s and %s. Dependency creation failed.	<p>原因: {resource1} と {resource2} のプロパティが一致しません。</p> <p>処置: リソースプロパティは一致している必要があります。どちらか一方または両方のプロパティを同じ値に変更し、依存関係の作成を再試行してください。</p>
004176	ERROR	%s	<p>原因: コマンド「doabort」がコアファイルを書き込むための {directory} の作成に失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004190	ERROR	%s:::receive(%d) did not receive message within %d seconds on incoming_mailbox %s	<p>原因: 関数 {function} で、受信メールボックス {mailbox} でタイムアウト {timeout} 秒以内にメッセージを受信しようとしたところ、失敗しました。</p> <p>処置: クラスタ内の接続の状態を確認し、プロセスを再試行してください。</p>
004205	ERROR	destination system \"%s\" is unknown	<p>原因: 不明なディスティネーションシステム名 {system} のため、メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004206	ERROR	destination mailbox \"%s\" at system \"%s\" is unknown	<p>原因: 不明なディスティネーションシステム名 {system} のため、メッセージの送信に失敗しました。このエラーは、LCD が完全に初期化される前にメッセージを送信することで発生します。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再試行してください。</p>
004208	ERROR	destination system \"%s\" is alive but the mailbox process is not listening.	<p>原因: メッセージの送信に失敗しました。ディスティネーションシステム {system} へのネットワーク接続は稼働中ですが、ディスティネーションメールボックスとの通信は失われました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再試行してください。</p>
004209	ERROR	destination system \"%s\" is dead.	<p>原因: ディスティネーションシステム {system} との接続が失われたため、メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再試行してください。</p>
004211	ERROR	can't send to destination \"%s\" error=%d	<p>原因: 内部エラー {error} のため、ディスティネーションシステム {system} へのメッセージ送信に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004217	ERROR	destination system \"%s\" is out of service.	<p>原因: ディスティネーションシステム {system} との接続が失われたため、メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004221	ERROR	destination system \"%s\" went out of service.	<p>原因: ディスティネーションシステム {system} との接続が失われたため、メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、関連エラーをログで確認してください。システムが完全に初期化されたら、同じプロセスを再実行してください。</p>
004228	ERROR	Can't get host name from getaddrinfo(<p>原因: 「getaddrinfo()」を使用してホスト名を取得しているときに障害が発生したため、ネットワークオブジェクトの作成に失敗しました。</p> <p>処置: システムの設定と状態を確認し、同じプロセスを再実行してください。</p>
004234	ERROR	IP address pair %s already in use	<p>原因: TCPコミュニケーションパスで IP アドレスペア {pair} がすでに使用中のため、ネットワークオブジェクトの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 入力 IP アドレスペアを確認し、ネットワークの作成を再実行してください。</p>
004258	WARN	Communication to %s by %s FAILED	<p>原因: コミュニケーションパス {path} によるシステム {system} への通信に失敗しました。</p> <p>処置: システム設定とネットワーク接続を確認してください。</p>
004261	WARN	COMMUNICATIONS failover from system \"%s\" will be started.	<p>原因: すべてのコミュニケーションパスがダウンしたため、システム {system} からのフェイルオーバーが開始されます。</p> <p>処置: システム設定とネットワーク接続の状態を確認してください。フェイルオーバーが完了したら、システムの状態を確認してください。</p>
004292	ERROR	resource \"%s\" %s	<p>原因: 現在の状態が不明なため、リソースを in service にできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004293	ERROR	resource \"%s\" %s	<p>原因: 現在の状態により許可されていないため、リソースを in service にできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004294	ERROR	resource \"%s\" requires a license (for Kit %s/%s) but none is installed	<p>原因: リソースの関連リカバリキットにはライセンスが必要です。</p> <p>処置: リソースを in service にするサーバに、リカバリキットのライセンスをインストールしてください。</p>
004297	ERROR	secondary remote resource \"%s\" on machine \"%s\" is already in-service, so resource \"%s\" on machine \"%s\" can't be brought in-service.	<p>原因: セカンダリリモートリソース {resource} がマシン {machine} ですでに in service になっているため、リソース {resource} をマシン {machine} で in service にできませんでした。</p> <p>処置: リモートリソースを手動で out of service に変更し、ローカルリソースで再び in service にしてください</p>
004300	ERROR	restore of resource \"%s\" has failed	<p>原因: リソースを in service にできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004311	ERROR	can't perform \"remove\" action on resources in state \"%s\"	<p>原因: 現在の状態が {state} のため、リソースを out of service にできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004313	ERROR	remove of resource \"%s\" has failed	<p>原因: リソース {resource} をサービス休止にできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004318	ERROR	%s,priv_globact(%d,%s): script %s FAILED returning %d	<p>原因: 指定したエラーコードでグローバルアクションスクリプトが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004332	ERROR	action \"%s\" has failed on resource \"%s\"	<p>原因: リソースアクションが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004351	ERROR	a \"%s\" equivalency must have one remote resource	<p>原因: 同じシステムに2つの入力タグ名が存在しているため、イクイバレンシ {eqvtype} の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 入力リソースタグ名を修正し、同じプロセスを再実行してください。</p>
004376	FATAL	wait period of %u seconds for LCM to become available has been exceeded (lock file \"%s\" not removed)	<p>原因: 適切な時間内にLCM デモンが使用可能になりませんでした。LCD は LCM なしでは操作できません。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004386	ERROR	initlcdMalloc;shmget	<p>原因: 共有メモリセグメントを初期化できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。製品ドキュメントを参照し、サーバが最低要件を満たしていること、およびオペレーティングシステムが適切に設定されていることを確認してください。</p>
004444	WARN	License key (for Kit %s/%s) has EXPIRED	<p>原因: ライセンスが期限切れです。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004445	WARN	License key (for Kit %s/%s) will expire at midnight in %ld days	<p>原因: ライセンスが間もなく期限切れです。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
004466	ERROR	system \"%s\" not defined on machine \"%s\".	<p>原因: 指定したシステム名が不明です。</p> <p>処置: システム名を確認し、操作を再試行してください。</p>
004467	ERROR	system \"%s\" unknown on machine \"%s\"	<p>原因: 指定したシステム名が認識されません。</p> <p>処置: システム名を確認し、操作を再試行してください。</p>
004494	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004495	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004496	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004497	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004498	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004499	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004500	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004501	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004502	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004503	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004504	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004505	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004506	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004507	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004508	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004509	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004510	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004511	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: アクションまたはイベントスクリプトが予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004512	ERROR		<p>原因: リモートマシンでエラーが発生しました。</p> <p>処置: リモートマシンのログを確認し、詳細を確認してください。</p>
004565	ERROR	can't set resource state type to ILLSTATE	<p>原因: リソースを不正な状態に配置しようとしてしました。</p> <p>処置: リソースを不正な状態で配置しないでください。</p>
004567	ERROR	resource \"%s\" can't be changed to \"%s\" state because it is a primary resource of a SHARED equivalency to resource \"%s\" on machine \"%s\" which is in state \"%s\"	<p>原因: マシン {machine} の SHARED イクイバレンシのプライマリリソース {resource} が {state} という状態にあるため、リソース {resource} を {state} という状態に変更できませんでした。</p> <p>処置: 入力を確認するか、プライマリリソースを手動でサービス休止にしてから、同じプロセスを再試行してください。</p>
004607	ERROR	no resource instance has tag \"%s\"	<p>原因: 指定したタグのリソースが存在しません。</p> <p>処置: 有効なタグを指定するか、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004608	ERROR	no resource instance has identifier \"%s\"	<p>原因: 指定した識別子のリソースが存在しません。</p> <p>処置: 有効な識別子を指定するか、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004619	ERROR	resource with tag \"%s\" already exists with identifier \"%s\"	<p>原因: 指定したタグ名はすでに存在します。</p> <p>処置: 別のタグ名を選択してください。</p>
004620	ERROR	resource with identifier \"%s\" already exists with tag \"%s\"	<p>原因: 指定した識別子はすでに存在します。</p> <p>処置: このリソースで使用する別の識別子を選択してください。</p>
004643	ERROR	Instance tag name is too long.It must be shorter than %d characters.	<p>原因: タグ名が長すぎます。</p> <p>処置: 256文字未満のタグ名を指定してください。</p>
004646	ERROR	Tag name contains illegal characters	<p>原因: タグ名に不正な文字が含まれています。</p> <p>処置: 次の文字を含まないタグ名を指定してください: _-./</p>
004691	ERROR	can't set both tag and identifier at same time	<p>原因: タグと識別子が両方指定されました。</p> <p>処置: タグまたは識別子の一方のみを指定してください。</p>
004745	ERROR	failed to access lkexterlog path=%s	<p>原因: システム情報を収集するユーティリティ「lkexterlog」にアクセスできません。</p> <p>処置: パッケージ「steeleye-ik」がインストールされていること、およびユーティリティ「lkexterlog」がアクセス可能であることを確認してください。</p>
004746	ERROR	lkexterlog failed runret=%d cmdline=%s	<p>原因: システム情報の収集時に、ユーティリティ「lkexterlog」が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004782	ERROR	Resource \"%s\" was in state \"%s\" before event occurred - recovery will not be attempted	<p>原因: リソースはすでに in service です。リカバリは実行されません。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004783	ERROR	Resource \"%s\" was already in state \"%s\" before event occurred	<p>原因: リソースはリカバリを許可するために適切な状態にありませんでした。</p> <p>処置: リカバリが必要な場合は、リソースをISP状態にしてください。</p>
004786	ERROR	%s on failing resource \"%s\"	<p>原因: リソースを復旧しようとしているときにエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004788	EMERG	failed to remove resource '%s'.SYSTEM HALTED.	<p>原因: エラーが発生し、リカバリ中にリソースをサービス休止にできませんでした。リソースが2つのシステムでアクティブにならないように、システムが再起動されました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004793	ERROR	lcdsendremote transfer resource \"%s\" to \"%s\" on machine \"%s\" failed (rt=%d	<p>原因: リソースとその依存関係を別のシステムへ転送中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。関連エラーがないかどうか、もう一方のシステムのログを確認してください。</p>
004797	ERROR	Restore of SHARED resource \"%s\" has failed	<p>原因: リソースのリストア中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
004806	ERROR	Restore in parallel of resource \"%s\" has failed; will re-try serially	<p>原因: 並行リカバリが失敗しました。関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。システムはシリアル形式でリカバリを続行します。リカバリが失敗した場合は、復旧できなかったリソースに関連するエラーメッセージを確認し、対応策を探してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004819	ERROR	read_temporal_recovery_log(): failed to fopen file:%s. fopen() %s.	<p>原因: メモリにロードするために一時リカバリログファイル {file} を開こうとしたところ、エラー {error} で失敗しました。</p> <p>処置: システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004820	ERROR	read_temporal_recovery_log(): failed to malloc initial buf for temporal_recovery_stamp.	<p>原因: ログ情報を格納するためのメモリを取得しようとしている際に、一時リカバリログ情報のメモリへのロードに失敗しました。</p> <p>処置: システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004821	ERROR	read_temporal_recovery_log(): failed to reallocate buffer for temporal_recovery_stamp.	<p>原因: ログ情報の格納に必要なメモリサイズを増やそうとしている際に、一時リカバリログ情報のメモリへのロードに失敗しました。</p> <p>処置: システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004822	ERROR	write_temporal_recovery_log(): failed to open file:%s.	<p>原因: 一時ファイル {temporary name} のオープンに失敗したため、一時リカバリログファイルの更新が終了しました。</p> <p>処置: システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004823	ERROR	rename(%s, %s) failed.	<p>原因: 一時ファイル {temporary name} を実際のログファイル {real name} に名称変更できなかったため、一時リカバリログファイルの更新が終了しました。</p> <p>処置: システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004829	FATAL	err=%s line=%d Semid=%d numops=%zd perror=%s	<p>原因: セマフォ ID {semaphore} の変更がエラー {err} およびエラーメッセージの説明 {perror} で失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004860	ERROR	restore ftok failed for resource %s with path %s	<p>原因: パス {path} を使用するリソース {resource} のセマフォ操作で使用する IPC キーの生成に失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004861	ERROR	semget failed with error %d	<p>原因: インスタンスファイルに関連付けられたセマフォ識別の取得に失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004862	ERROR	semctl SEMSET failed with error %d	<p>原因: リカバリプロセス中に使用されるセマフォの作成と初期化がエラー {error number} で失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>
004863	ERROR	semop failed with error %d	<p>原因: リカバリプロセス中に使用されるセマフォの設定がエラー {error number} で失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
004864	ERROR	semctl SEMSET failed with error %d	<p>原因: リカバリプロセス中に使用されるセマフォの解放がエラー {error number} で失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。また、システムログファイルを確認し、レポートされているエラーを修正してから、操作を再実行してください。</p>
004865	ERROR	restore action failed for resource %s	<p>原因: リソース {tag} を In Service にする操作が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正し、操作を再実行してください。</p>
004872	ERROR	Remote remove of resource \"%s\" on machine \"%s\" failed (rt=%d	<p>原因: ローカルシステムに転送するために {server} でリソース {tag} をサービス休止にする要求が失敗しました。</p> <p>処置: ローカルシステムで、隣接するログメッセージから詳細を確認してください。また、リソースを削除するには、{server} のログメッセージで障害に関する詳細を確認してください。</p>
004875	ERROR	remote remove of resource \"%s\" on machine \"%s\" failed	<p>原因: ローカルシステムに転送するために {server} でリソース {tag} をサービス休止にする要求が失敗しました。</p> <p>処置: ローカルシステムで、隣接するログメッセージから詳細を確認してください。また、リソースを削除するには、{server} のログメッセージで障害に関する詳細を確認してください。</p>
004876	ERROR	remote remove of resource \"%s\" on machine \"%s\" failed	<p>原因: ローカルシステムに転送するために {server} でリソース {tag} をサービス休止にする要求が失敗しました。</p> <p>処置: ローカルシステムで、隣接するログメッセージから詳細を確認してください。また、リソースを削除するには、{server} のログメッセージで障害に関する詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
005045	ERROR	tli_fdget_i::execute unable to establish a listener port	<p>原因: ネットワーク接続を適切に設定できませんでした。</p> <p>処置: すべてのネットワークハードウェアおよびドライバが適切に設定されていることを確認してください。それでもこのメッセージが表示され、リソースを in service にできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
005055	ERROR	tli_fdget_o::execute - async connect failure	<p>原因: ネットワーク接続を適切に設定できませんでした。</p> <p>処置: すべてのネットワークハードウェアおよびドライバが適切に設定されていることを確認してください。それでもこのメッセージが表示され、リソースを in service にできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
005061	ERROR	tli_fdget_o::execute - bind socket	<p>原因: ネットワーク接続を適切に設定できませんでした。</p> <p>処置: すべてのネットワークハードウェアおよびドライバが適切に設定されていることを確認してください。それでもこのメッセージが表示され、リソースを in service にできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
005145	ERROR	opening the file	<p>原因: パイプを開く、または作成することができませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
005225	WARN	so_driver::handle_error: sending/receiving data message errno %d:%s	<p>原因: メッセージの送受信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もありますが、このエラーが続き、サーバが通信できない場合は、サーバのネットワーク設定を確認してください。</p>
006012	ERROR	quickCheck script '%s' failed to exit after %u seconds. Forcibly terminated. Please examine the script or adjust the LKCHECKINTERVAL parameter in %s.	<p>原因: quickCheck スクリプトの処理に時間がかかりすぎているか、スクリプトがハングしています。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
006102	ERROR	COMMAND OUTPUT:\$LKROOT/bin/sendevent	<p>原因: これは、「sendevent」(イベント生成)コマンドの結果です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
006103	ERROR	COMMAND OUTPUT:\$LKROOT/bin/sendevent	<p>原因: これは、「sendevent」(イベント生成)コマンドの結果です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
006104	ERROR	COMMAND OUTPUT:\$LKROOT/bin/sendevent	<p>原因: これは、「sendevent」(イベント生成)コマンドの結果です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
007058	ERROR	%s:%s failed on '%s', result:%d, Sense Key = %d.	<p>原因: SCSI デバイスをリザーブできませんでした。またはデバイスに確認済みの状態があります。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースが適切に処理されていることを確認してください。</p>
007059	ERROR	%s:%s failed on '%s', result:%d.	<p>原因: SCSI デバイスをリザーブできませんでした。またはデバイスに確認済みの状態があります。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースが適切に処理されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
007060	EMERG	%s: failure on device '%s'.SYSTEM HALTED.	<p>原因: SCSI デバイスをリザーブできませんでした。またはデバイスに確認済みの状態があります。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。サーバはリブート/停止されます。</p> <p>処置: ストレージが適切に動作していることを確認し、適切に動作している場合は、リソースが適切に処理されており、別のサーバで in service になっていることを確認してください。</p>
007072	ERROR	%s: failed to open SCSI device '%s', initiate recovery. errno=0x%x, retry count=%d.	<p>原因: 保護された SCSI デバイスを開くことができませんでした。デバイスに障害が発生しているか、システムからデバイスが削除されている可能性があります。</p> <p>処置: システムが停止されるか、バックアップノードへのフェイルオーバーが開始されます。この場合のデフォルトアクションはフェイルオーバーですが、SCSIERROR の設定で変更可能です。</p>
007073	ERROR	%s: failed to open SCSI device '%s', RETRY. errno=%d, retry count=%d.	<p>原因: 保護された SCSI デバイスを開くことができませんでした。デバイスに障害が発生しているか、システムからデバイスが削除されている可能性があります。</p> <p>処置: このエラーは致命的なものではありません。操作は5秒以内で再試行されます。問題が続行する場合、システムは停止またはリソースのフェイルオーバーを実行します。</p>
007075	ERROR	%s:RESERVATION CONFLICT on SCSI device '%s'. ret=%d, errno=0x%x, retry count=%d.	<p>原因: 別のサーバと競合しているため、SCSI デバイスをリザーブできませんでした。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースが適切に処理されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
007077	ERROR	%s:DEVICE FAILURE on SCSI device '%s', initiate recovery. ret=%d, errno=0x%x, retry count=%d.	<p>原因: SCSI デバイスをリザーブできませんでした。またはデバイスに確認済みの状態があります。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースが適切に処理されていることを確認してください。</p>
007078	ERROR	%s:DEVICE FAILURE on SCSI device '%s', RETRY. ret=%d, errno=0x%x, retry count=%d.	<p>原因: SCSI デバイスをリザーブできませんでした。またはデバイスに確認済みの状態があります。これは、ストレージが誤動作しているか、ディスクが別のサーバによってリザーブされているためです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースが適切に処理されていることを確認してください。</p>
010002	WARN	flag \$flag not present, send message again.	<p>原因: このメッセージは、再試行される未完のプロセスを示します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで、繰り返されているエラーを確認してください。</p>
010003	ERROR	COMMAND OUTPUT:\$LKBIN/ins_remove	<p>原因: このメッセージは「ins_remove」コマンドの結果の一部です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは実際にはエラーではない可能性もあります。</p>
010004	EMERG	Cannot find the \$LKROOT/config/lkstart-hook file.You must install the LifeKeeper Distribution Enabling package before starting \$PRODUCT.	<p>原因: このエラーは、直接 rpm を使用して LifeKeeper をインストールするか、不注意で rpm をシステムから削除することで発生します。</p> <p>処置: インストールメディアの「setup」スクリプトを使用して LifeKeeper を再インストールしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010006	WARN	fig_list -d \$i took more than \$pswait seconds to complete...	<p>原因: サーバのフラグリスト処理の時間が予想以上にかかりました。別のサーバとの接続に問題が発生している可能性もあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
010007	ERROR	flag \$flag not present, switchovers may occur.	<p>原因: クラスタ内のいずれかのサーバに、現在のサーバからのフェイルオーバー操作の不許可を指示できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、クラスタで予期しない動作を監視してください。</p>
010008	WARN	flag \$flag not present, send message again.	<p>原因: プロセスは不完全ですが、再試行されます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、繰り返されている警告/エラーをチェックしてください。</p>
010023	FATAL	LifeKeeper failed to initialize properly.	<p>原因: LifeKeeperを起動しようとしている間に、致命的なエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
010025	ERROR	`printf 'Unable to get a unique tag name on server "%s" for template resource "%s" \$MACH \$DISK`	<p>原因: ストレージリソースの作成プロセスで適合するタグを自動的に生成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。他のエラーがない場合は、操作を再試行してください。</p>
010034	FATAL	Unable to start lcm.	<p>原因: ソフトウェアのコアコンポーネントを開始できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010038	WARN	Waiting for LifeKeeper core components to initialize has exceeded 10 seconds.Continuing anyway, check logs for further details.	<p>原因: ソフトウェアの一部が、予想よりも起動に時間がかかっています。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
010039	WARN	Waiting for LifeKeeper core components to initialize has exceeded 10 seconds.Continuing anyway, check logs for further details.	<p>原因: ソフトウェアの一部が、予想よりも起動に時間がかかっています。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
010046	ERROR	The dependency creation failed on server \$SERVER:``cat \$TEMP_FILE`	<p>原因: 所定のサーバで依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010063	ERROR	\$REMSH error	<p>原因: 別のサーバからデータをバックアップする要求が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010085	ERROR	lkswitchback(\$MACH):Automatic switchback of \"\${loctag}\" failed	<p>原因: リソースが予想どおりにスイッチバックされませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010102	ERROR	admin machine not specified	<p>原因: 「getlocks」操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010107	WARN	Lock for \$m is ignored because system is OOS	<p>原因: ロックが作成されたシステムがアクティブではないため、ロックは無視されました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認してください。これは無害なエラーの可能性もあります。</p>
010108	ERROR	lock acquisition timeout	<p>原因: ロックの取得に予想よりも時間がかかりました。または許容時間を超えました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010109	ERROR	could not get admin locks."`cat /tmp/ER\$\$`	<p>原因: ソフトウェアは、リソースの管理に必要なロックの取得に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010112	ERROR	lcdrp failed with error no:\$LCDRPCRES	<p>原因: ファイルを別のサーバにコピーできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010116	ERROR	unable to set !lkstop flag	<p>原因: サーバがユーザの要求によって停止されていることを示すためのフラグを設定できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010121	ERROR	Extended logs aborted due to a failure in opening \$destination.(\$syserrmsg	<p>原因: 拡張ログファイルを開くときに、ユーティリティ「lkxterrlog」が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010132	ERROR	Unable to retrieve reservation id from "%s".Error:"%s".Attempting to regenerate.	<p>原因: SCSI 3 Persistent Reservations に使用する一意の ID の取得元のファイル /opt/LifeKeeper/config/.reservation_id を開くことができません。</p> <p>処置: なしID の再生成とファイルの更新が試行されます。</p>
010133	ERROR	No reservation ID exists in "%s".A new ID must be generated by running "%s/bin/genresid -g" on "%s".	<p>原因: 一意のリザベーション ID が定義されていません。</p> <p>処置: このノードのすべてのリソースを out of service にしてから、「/opt/LifeKeeper/bin/genresid -g」を実行して一意のリザベーション ID を生成してください。</p>
010134	ERROR	LifeKeeper does not appear to be running.Unable to determine the uniqueness of the reservation ID within the cluster.	<p>原因: リザベーション ID が一意かどうかを確認する試行の実行時に、LifeKeeper が動作していませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper を起動し、「/opt/LifeKeeper/bin/genresid -v」を実行して一意性の確認を再実行してください。</p>
010135	ERROR	The current reservation ID of "%s" is not unique within the cluster.A new ID must be generated by running "%s/bin/genresid -g" on "%s".	<p>原因: システムに定義されたリザベーション ID は、クラスタ内で一意でないため、使用できません。</p> <p>処置: このノードのすべてのリソースを out of service にしてから、「/opt/LifeKeeper/bin/genresid -g」を実行して一意のリザベーション ID を生成してください。</p>
010136	ERROR	Unable to store reservation id in "%s".Error:"%s"	<p>原因: SCSI 3 Persistent Reservations に使用する一意の ID の保存先のファイル /opt/LifeKeeper/config.reservation_id を開くことができません。</p> <p>処置: ファイルを開くことに失敗した理由としてリストされているエラーを修正し、このノードのすべてのリソースを out of service にしてから、「/opt/LifeKeeper/bin/genresid -g」を実行して新しい一意のリザベーション ID を生成してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010137	ERROR	Failed to generate a reservation ID that is unique within the cluster.	<p>原因: 生成したリザーベーション ID はすでにクラスタ内の別のノードに定義されています。リザーベーション ID はクラスタ内で一意である必要があります。</p> <p>処置: このノードのすべてのリソースを out of service にしてから、「/opt/LifeKeeper/bin/genresid -g」を実行して新しい一意のリザーベーション ID を生成してください。</p>
010222	ERROR	scsifree(%s):LKSCSI_Release(%s) unsuccessful	<p>原因: リザーブされていると思われる SCSI デバイスは予想どおりに解放されませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。システムが正常に機能している場合、このエラーは無害な可能性があります。</p>
010231	ERROR	scsiplock(%s): reserve failed.	<p>原因: SCSI デバイスでリザーブを取得できませんでした)</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010250	ERROR	Failed to exec command '%s'	<p>原因: 「lklogmsg」ツールがサブコマンド {command} の実行に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。サブコマンドが存在しており、有効なコマンドまたはプログラムであることを確認してください。通常の操作でこのメッセージが表示された場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
010402	EMERG	local recovery failure on resource \$opts{'N'}, trigger VMware HA...	<p>原因: LifeKeeper Single Server Protection の動作中に、リソースを復旧できませんでした。(VMware-HA が有効になっている場合は) 障害を処理するために VMware-HA が間もなくトリガされます。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。VMware が障害を処理します。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010413	ERROR	COMMAND OUTPUT: cat /tmp/err\$\$	<p>原因: これは、失敗した可能性がある「snmptrap」コマンドの結果です。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010420	EMERG	local recovery failure on resource \$opts{'N'}, trigger reboot...	<p>原因: LifeKeeper Single Server Protection の動作中に、リソースを復旧できませんでした。障害を処理するために再起動が間もなくトリガされます。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。</p>
010440	ERROR	[\$SUBJECT event] mail returned \$err	<p>原因: これは、通知電子メールを「mail」コマンドで送信できなかったことを示します。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010443	ERROR	COMMAND OUTPUT: cat /tmp/err\$\$	<p>原因: これは、失敗した可能性がある「mail」コマンドの結果です。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010445	ERROR	COMMAND OUTPUT: cat /tmp/err\$\$	<p>原因: これは、失敗した可能性がある「mail」コマンドの結果です。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
010463	ERROR	LifeKeeper: name of machine is not specified, ARGS=\$ARGS	<p>原因: 「comm_down」イベントで無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: LifeKeeper 設定を確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010471	ERROR	COMM_DOWN:Attempt to obtain local comm_down lock flag failed	<p>原因: 別のノードとの通信障害の処理中に、ローカルロックを取得できませんでした。これにより、フェイルオーバーの処理が中断されます。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。フェイルオーバーが正常に実行されない場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
010482	ERROR	LifeKeeper: name of machine is not specified, ARGS=\$ARGS	<p>原因: 「comm_up」イベントで無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: LifeKeeper 設定を確認し、操作を再試行してください。</p>
010484	WARN	flg_list -d \$MACH check timed-out (\$delay seconds).	<p>原因: 「flg_list」コマンドがタイムアウト値 {delay} 秒に達しました。</p>
010487	WARN	flg_list -d \$MACH check timed-out, unintended switchovers may occur.	<p>原因: 「flg_list」コマンドがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: 意図しないスイッチオーバーが発生した場合は、リソースツリーをスイッチバックします。</p>
010492	WARN	\$m	<p>原因: 他のサーバのいずれかが、このサーバ {server} には稼働していないように見えますが、Witness サーバが承諾していません。</p> <p>処置: 他のサーバが稼働していないことを確認し、リソースを手動でスイッチオーバーしてください。</p>
010494	ERROR	LifeKeeper:COMM_UP to machine \$MACH completed with errors.	<p>原因: 「COMM_UP」イベントの間に、予期しない障害が発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
010503	ERROR	lcdrecover hung or returned error, attempting kill of process \$FPID	<p>原因: 「lcdrecover」の処理に時間がかかりすぎているか、エラーアウトしています。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
010506	ERROR	Intelligent Switchback Check Failed	原因: 「Icdrecover」を5回実行し、いずれも失敗しました。 処置: リソースツリーを手動でスイッチオーバーしてください。
010508	ERROR	[\$SUBJECT] sent to \$LK_NOTIFY_ALIAS	原因: このメッセージは情報提供の目的でのみ表示されま す。
010600	ERROR	removing hierarchy remnants	
010627	WARN	Equivalency Trim: does not have a full complement of equivalencies.Hierarchy will be unextended from	
010629	WARN	Your hierarchy exists on only one server.Your application has no protection until you extend it to at least one other server.	
010712	ERROR	Unextend hierarchy failed	原因: サーバからリソース階層を拡張できませんでした。 処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問 題を解決してください。
010746	ERROR	\$ERRMSG Target machine \" \$TARGET_MACH\" does not have an active LifeKeeper communication path to machine \" \$aMach\" in the hierarchy.\">&2	原因: ターゲットサーバがクラスタ内の他のサーバと適切に通 信していないため、階層を拡張できません。 処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問 題を解決してください。すべてのサーバが相互にコミュニケー ションパスを持っていることを確認してください。
011000	ERROR	appremote: unknown command type %d('%c')\n	原因: 内部エラー。 処置: 製品を再起動してください。
011001	ERROR	depreremote: unknown command type %d('%c')\n	原因: 内部エラー。 処置: 製品を再起動してください。
011002	ERROR	eqvremote: unknown command type %d('%c')\n	原因: 内部エラー。 処置: 製品を再起動してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011003	ERROR	flgremote: unknown command type %d('%c')\n	<p>原因: 内部エラー。</p> <p>処置: 製品を再起動してください。</p>
011004	WARN	Illegal creation of resource	<p>原因: これは、通常の状態では発生しません。</p>
011011	FATAL	%s	<p>原因: LifeKeeper は IPC キーを取得できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
011012	FATAL	semget(%s,%c	<p>原因: LifeKeeper はセマフォ設定 ID を取得できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
011013	FATAL	shmget(%s,%c	<p>原因: システムは共有メモリセグメントを割り当てるできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
011014	FATAL	prefix_lkroot("out"	<p>原因: /opt/LifeKeeper/out にアクセス中に、システムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/out にアクセスできない理由を特定してください。</p>
011015	ERROR	DEMO_UPGRADE_MSG	<p>原因: デモライセンスを実行しています。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011016	ERROR	lic_single_node_msg	<p>原因: LifeKeeper Single Server Protection のライセンスがありますが、LifeKeeper Single Server Protection がインストールされていません。</p> <p>処置: LifeKeeper Single Server Protection をインストールするか、実行している製品に適合するライセンスを入手してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011017	ERROR	lic_init_fail_msg, "flex_init failed"	原因: ライセンスマネージャの初期化に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
011018	ERROR	lic_init_fail_msg, lc_errstring(lm_job	原因: ライセンスマネージャの初期化に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
011019	EMERG	lic_init_fail_msg, "flex_init failed"	原因: ライセンスマネージャの初期化に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
011020	EMERG	lic_init_fail_msg, lc_errstring(lm_job	原因: ライセンスマネージャの初期化に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
011021	EMERG	lic_error_msg, lc_errstring(lm_job	原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011022	EMERG	lic_error_msg, lc_errstring(lm_job	原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011023	EMERG	lic_no_rest_suite, ""	原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011024	EMERG	lic_error_msg, lc_errstring(lm_job	原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011025	EMERG	lic_no_license, ""	<p>原因: LifeKeeper は有効なライセンスキーを見つけられませんでした。</p> <p>処置: ライセンスキーがサーバに対して有効であることを確認し、操作を再試行してください。</p>
011026	EMERG	lic_error_msg, lc_errstring(lm_job	<p>原因: ライセンスに不明な問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011027	EMERG	lic_no_license, ""	<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011028	ERROR	lang_error_msg	<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011029	FATAL	can't set reply system	<p>原因: メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もあります。</p>
011030	FATAL	can't set reply mailbox	<p>原因: メッセージの送信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もあります。</p>
011031	ERROR	Failure reading output of '%s' on behalf of %s	<p>原因: 一時ファイル /tmp/OUT.{pid} にアクセスしている際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/OUT.{pid} にアクセスできない理由を特定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011032	ERROR	Failure reading output of '%s'	<p>原因: 一時ファイル/tmp/ERR.{pid}にアクセスしている際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/ERR.{pid}にアクセスできない理由を特定してください。</p>
011033	ERROR	event \"%s,%s\" already posted for resource with id \"%s\"	<p>原因: このメッセージは情報提供の目的でのみ表示されません。</p>
011034	ERROR	no resource has id of \"%s\"	<p>原因: LifeKeeper は {id} リソースを見つけられませんでした。</p> <p>処置: パラメータを確認し、「sendevent」操作を再試行してください。</p>
011044	ERROR	flagcleanup:fopen(%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/flgを読み取っている際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/flgを読み取ることができない理由を特定してください。</p>
011045	ERROR	flagcleanup:fopen(%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/flgを書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/flgを書き込むことができない理由を特定してください。</p>
011046	ERROR	flagcleanup:fputs(%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/flgを書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/flgを書き込むことができない理由を特定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011047	ERROR	flagcleanup:rename(%s,%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/.flg to /opt/LifeKeeper/config/flg の名前を変更している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/flg の名前を変更できない理由を特定してください。</p>
011048	ERROR	flagcleanup:chmod(%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/flg の権限を変更している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: LifeKeeper が /opt/LifeKeeper/config/flg の権限を変更できない理由を特定してください。</p>
011049	ERROR	License check failed with error code %d	<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011051	ERROR	lcdinit: clearing Disk Reserve file failed	<p>原因: /opt/LifeKeeper/subsys/scsi/resources/disk/disk.reserve を書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/subsys/scsi/resources/disk/disk.reserve を書き込むことができない理由を特定してください。</p>
011052	FATAL	malloc() failed	<p>原因: システムは LifeKeeper 用にメモリを割り当てられませんでした。</p> <p>処置: データセグメントのプロセスの上限を増やしてください。</p>
011053	FATAL	lcm_is_unavail	<p>原因: /tmp/LK_IS_UNAVAIL を書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/LK_IS_UNAVAIL を書き込むことができない理由を特定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011054	FATAL	lk_is_unavail	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/LK_IS_ON を書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/LK_IS_ON を書き込むことができない理由を特定してください。</p>
011055	FATAL	usr_alarm_config_LK_IS_ON	<p>原因: /tmp/LCM_IS_UNAVAI を書き込んでいる際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/LCM_IS_UNAVAI を書き込むことができない理由を特定してください。</p>
011056	ERROR	License check failed with error code %d	<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011057	ERROR	lcdremote: unknown command type %d('%c')\n	<p>原因: メッセージの受信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もありますが、このエラーが続き、サーバが通信できない場合は、サーバのネットワーク設定を確認してください。</p>
011059	FATAL	Could not write to:%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper/config/LK_START_TIME にアクセスしている際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper/config/LK_START_TIME にアクセスできない理由を特定してください。</p>
011060	FATAL	received NULL message	<p>原因: メッセージの受信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もありますが、このエラーが続き、サーバが通信できない場合は、サーバのネットワーク設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011061	ERROR	unknown data type %d('%c') on machine \"%s\"\\n	<p>原因: メッセージの受信に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。これは一時的なエラーの可能性もありますが、このエラーが続き、サーバが通信できない場合は、サーバのネットワーク設定を確認してください。</p>
011062	WARN	LifeKeeper shutdown in progress.Unable to perform failover recovery processing for %s\\n	<p>原因: LifeKeeper はシャットダウン中に所定のリソースをフェイルオーバーできませんでした。</p> <p>処置: リソースツリーを別のサーバに手動でスイッチオーバーしてください。</p>
011063	WARN	LifeKeeper resource initialization in progress.Unable to perform failover recovery processing for %s\\n	<p>原因: LifeKeeper は起動中に所定のリソースをフェイルオーバーできませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper が起動したら、リソースツリーを手動でスイッチオーバーしてください。</p>
011068	ERROR	ERROR on command %s	<p>原因: 「rlslocks」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するメッセージで詳細を確認してください。</p>
011070	ERROR	ERROR on command %s	<p>原因: 「getlocks」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
011081	FATAL	Failed to ask ksh to run:%s	<p>原因: ksh の呼び出し中にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: pdksh (v8.0 以前) または steeleye-pdksh (v81 以降) のパッケージがインストールされていることを確認してください。</p>
011082	ERROR	Failed to remove:%s	<p>原因: /tmp/LCM_IS_UNAVAIL を削除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/LCM_IS_UNAVAIL を削除できない理由を特定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011083	ERROR	Failed to remove:%s	<p>原因: /tmp/LK_IS_UNAVAIL をリンク解除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /tmp/LK_IS_UNAVAIL をリンク解除できない理由を特定してください。</p>
011084	FATAL	Failed to generate an IPC key based on:%s	<p>原因: /opt/LifeKeeper にアクセス中に、システムエラーが発生しました。</p> <p>処置: /opt/LifeKeeper にアクセスできない理由を特定してください。</p>
011085	ERROR	semget(%s,%c) failed	<p>原因: セマフォを削除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: セマフォを手動で削除してください。</p>
011086	ERROR	shmget(%s,%c) failed	<p>原因: 共有メモリセグメントを削除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: 共有メモリセグメントを手動で削除してください。</p>
011087	ERROR	semctl(IPC_RMID) failed	<p>原因: セマフォを削除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: セマフォを手動で削除してください。</p>
011088	ERROR	shmctl(IPC_RMID) failed	<p>原因: 共有メモリセグメントを削除している際にシステムエラーが発生しました。</p> <p>処置: 共有メモリセグメントを手動で削除してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011089	FATAL	Execution of lcdstatus on remote system <%s> failed\n	<p>原因: リモート {node} がダウンし、ネットワークからアクセスできません。または、リモートノードで別のシステムに問題が発生しています。</p> <p>処置: リモートノードをオンラインにするか、隣接するメッセージで詳細を確認するか、リモートノードのログで詳細を確認してください。</p>
011091	WARN		<p>原因: これは、通常の状態では発生しません。</p>
011092	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
011093	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
011094	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
011095	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
011096	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011097	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011098	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011099	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011100	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011101	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011102	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011103	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011104	FATAL		原因: ライセンスに問題があります。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011105	FATAL		<p>原因: ライセンスに問題があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
011111	ERROR	action \"%s\" on resource with tag \"%s\" has failed	<p>原因: リソース {tag} のアクション {action} に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するメッセージで詳細を確認してください。</p>
011112	ERROR		<p>原因: LifeKeeper はネットワークデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
011117	ERROR	sysremote: system \"%s\" not found on \"%s\"	<p>原因: 無効なシステム名が指定されました。</p> <p>処置: システム名を再確認し、コマンドを再実行してください。</p>
011129	ERROR	Failure during run of '%s' on behalf of %s	<p>原因: コマンドの実行に失敗しました。</p> <p>処置: メッセージで詳細を確認し、問題を特定してください。</p>
011130	ERROR	%s	<p>原因: コマンド {command} が予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 隣接するエラーメッセージの内容に従って処置を実行してください。</p>
011131	EMERG	demo_update_msg	<p>原因: デモライセンスに問題があります。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011132	EMERG	demo_tamper_msg	<p>原因: デモライセンスで、時間の改ざんが検出されました。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011133	EMERG	demo_tamper_msg	<p>原因: デモライセンスで、時間の改ざんが検出されました。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011134	EMERG	demo_expire_msg	<p>原因: この製品のデモライセンスが期限切れです。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011135	EMERG	demo_tamper_msg	<p>原因: デモライセンスで、時間の改ざんが検出されました。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011136	EMERG	buf	<p>原因: デモライセンスを実行しています。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011138	EMERG	buf	<p>原因: デモライセンスを実行しています。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011142	WARN	LifeKeeper Recovery Kit %s license key NOT FOUND	<p>原因: {kit} の Application Recovery Kit のライセンスが見つかりませんでした。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。</p>
011150	ERROR	COMMAND OUTPUT:%s	<p>原因: コマンド「eventslicm」が予期しない結果になりました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011151	EMERG	&localebuf[3]	原因: このバージョンの LifeKeeper Core パッケージは、中華人民共和国内または日本国内での使用に限られています。
011152	EMERG	Localized license failure	原因: お客様のロケールと製品ライセンスが作成されたロケールが一致していません。 処置: サポートに問い合わせ、お客様のロケールに合った新しいライセンスを入手してください。
011154	EMERG	Single Node flag check failed.	原因: LifeKeeper Single Server Protection のライセンスがありますが、LifeKeeper Single Server Protection がインストールされていません。 処置: LifeKeeper Single Server Protection をインストールするか、実行している製品に適合するライセンスを入手してください。
011155	EMERG	lic_master_exp_msg, ""	原因: この製品のライセンスキーが期限切れです。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011162	EMERG	lic_restricted_exp_msg, ""	原因: この製品のライセンスキーが期限切れです。 処置: サポートに問い合わせ、新しいライセンスを入手してください。
011163	EMERG	Single Node license check failed	原因: LifeKeeper Single Server Protection のライセンスがありますが、LifeKeeper Single Server Protection がインストールされていません。 処置: LifeKeeper Single Server Protection をインストールするか、実行している製品に適合するライセンスを入手してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
011164	EMERG	demo_expire_msg, DEMO_UPGRADE_MSG	<p>原因: この製品のライセンスキーが期限切れです。</p> <p>処置: サポートに問い合わせ、製品のパーマネントライセンスキーを入手してください。</p>
015000	ERROR	COMMAND OUTPUT:/opt/LifeKeeper/sbin/steeleye-lighttpd	<p>原因: 「steeleye-lighttpd」プロセスでエラーが発生しました。エラーの詳細は実際のログメッセージに記載されています。</p> <p>処置: 設定を修正すると、「steeleye-lighttpd」が自動的に再起動します。</p>
103001	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: db2nodes.cfg にサーバ名が含まれていません。</p> <p>処置: db2nodes.cfg が有効であることを確認してください。</p>
103002	ERROR	LifeKeeper was unable to get the version for the requested instance "%s"	<p>原因: 「db2level」コマンドがDB2のバージョンを返しませんでした。</p> <p>処置: DB2の設定を確認してください。</p>
103003	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2の設定を確認してください。</p>
103004	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	<p>原因: リソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103005	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	<p>原因: リソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103006	ERROR	Unable to get the instance information for resource "%s"	<p>原因: インスタンス情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103007	ERROR	Unable to get the instance home directory information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスのホームディレクトリのパスの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103008	ERROR	Unable to get the instance type information for resource "%s"	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、無効なインスタンスタイプを見つけました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103009	ERROR	LifeKeeper has encountered an error while trying to get the database configuration parameters for database \"\$DB\"	<p>原因: 「db2 get db cfg for \$DB」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103012	ERROR	LifeKeeper was unable to start the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」操作を再試行してください。</p>
103013	ERROR	LifeKeeper was unable to start the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」操作を再試行してください。</p>
103015	ERROR	An entry for the home directory "%s" of instance "%s" does not exist in "/etc/fstab"	<p>原因: マルチパーティションのデータベースのインスタンスのホームディレクトリは、「/etc/fstab」に存在する必要があります。</p> <p>処置: ホームディレクトリが「/etc/fstab」に存在することを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103016	ERROR	LifeKeeper was unable to mount the home directory for the DB2 instance "%s"	<p>原因: マルチパーティションのデータベースのインスタンスのホームディレクトリをマウントできませんでした。</p> <p>処置: ホームディレクトリがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103017	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103018	ERROR	LifeKeeper was unable to start database partition server "%s" for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」操作を再試行してください。</p>
103020	ERROR	LifeKeeper was unable to stop the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「remove」操作を再試行してください。</p>
103021	ERROR	LifeKeeper was unable to stop the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「remove」操作を再試行してください。</p>
103023	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103024	ERROR	LifeKeeper was unable to stop database partition server "%s" for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「remove」操作を再試行してください。</p>
103026	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103027	FATAL	The argument for the DB2 instance is empty	<p>原因: create 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103028	FATAL	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じであることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103029	FATAL	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103030	FATAL	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103031	ERROR	The path "%s" is not on a shared filesystem	<p>原因: インスタンスのホームディレクトリは、共有ファイルシステム上になければなりません。</p> <p>処置: パスが共有ファイルシステム上にあることを確認し、create 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103032	ERROR	LifeKeeper was unable to get the DB tablespace containers for instance "%s" or the log path for one of its databases	<p>原因: LifeKeeper はデータベースのテーブルスペースコンテナの場所を特定できなかったか、コンテナがマウント済みのファイルシステム上のパスにあることを確認できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、「create」操作を再試行してください。</p>
103033	ERROR	The path "%s" is not on a shared filesystem	<p>原因: データベースのテーブルスペースコンテナのパスは、共有ファイルシステム上になければなりません。</p> <p>処置: データベースのテーブルスペースコンテナが共有ファイルシステム上にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103034	ERROR	A DB2 Hierarchy already exists for instance "%s"	<p>原因: LifeKeeper によってすでに保護されている DB2 インスタンスを保護しようとした。</p> <p>処置: 別の DB2 インスタンスを LifeKeeper の保護用に選択する必要があります。</p>
103035	ERROR	The file system resource "%s" is not in-service	<p>原因: DB2 リソースが依存するファイルシステムは in service である必要があります。</p> <p>処置: ファイルシステムリソースが in service であることを確認して、「create」操作を再試行してください。</p>
103036	ERROR	Unable to create the hierarchy for raw device "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、リソース {raw device} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
103037	ERROR	A RAW hierarchy does not exist for the tag "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、raw リソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103038	ERROR	LifeKeeper was unable to create a dependency between the DB2 hierarchy "%s" and the Raw hierarchy "%s"	<p>原因: 要求された親 DB2 リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「create」操作を再試行してください。</p>
103039	ERROR	LifeKeeper could not disable the automatic startup feature of DB2 instance "%s"	<p>原因: DB2 の設定を更新しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にインスタンスが自動で起動されないようにするために、DB2AUTOSTART を手動で更新する必要があります。</p>
103040	ERROR	DB2 version "%s" is not installed on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は DB2 のインストール場所を見つけられませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103041	ERROR	The instance owner "%s" does not exist on target server "%s"	<p>原因: 「canextend」操作または「extend」操作の間に、テンプレートサーバから DB2 インスタンスの所有者を取得できませんでした。</p> <p>処置: 指定したサーバに DB2 インスタンスの所有者が存在していることを確認してください。所有者が存在しない場合、クラスタ内のすべてのサーバで、同じ uid および gid を使用して作成する必要があります。</p>
103042	ERROR	The instance owner "%s" uids are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスの所有者 {user} のターゲットサーバ {target server} のユーザ ID が、テンプレートサーバ {template server} のユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のユーザ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。ユーザ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103043	ERROR	The instance owner "%s" gids are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスの所有者 {user} のターゲットサーバ {target server} のグループ ID が、テンプレートサーバ {template server} のユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のグループ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。グループ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>
103044	ERROR	The instance owner "%s" home directories are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} のユーザ {user} のホームディレクトリが、テンプレートサーバ {template server} の DB2 インスタンスの所有者のホームディレクトリと一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のホームディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。ディレクトリの不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>
103045	ERROR	LifeKeeper was unable to get the DB2 "SVCENAME" parameter for the DB2 instance	<p>原因: 「db2 get dbm cfg」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103046	ERROR	Unable to get the value of the DB2 "SVCENAME" parameter for the DB2 instance %s.	<p>原因: DB2 の「SVCENAME」パラメータが null に設定されています。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103047	ERROR	LifeKeeper was unable to get the contents of the "/etc/services" file on the server "%s"	<p>原因: テンプレートサーバの「/etc/services」に、DB2 インスタンスのサービス名が含まれていません。</p> <p>処置: 「/etc/services」内にある DB2 インスタンスのサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103048	ERROR	LifeKeeper was unable to get the contents of the "/etc/services" file on the server "%s"	<p>原因: ターゲットサーバの「/etc/services」に、DB2 インスタンスのサービス名が含まれていません。</p> <p>処置: 「/etc/services」内にあるDB2 インスタンスのサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>
103049	ERROR	The "/etc/services" entries for the instance "%s" are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: インスタンスの「/etc/services」エントリに不一致があります。</p> <p>処置: 「/etc/services」内にあるDB2 インスタンスのサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「canextend」操作を再試行する必要があります。</p>
103050	ERROR	The home directory "%s" for instance "%s" is not mounted on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper はマルチパーティションインスタンス用のdb2nodes.cfgを見つけられませんでした。</p> <p>処置: ホームディレクトリがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103051	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: テンプレートサーバからのリソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103052	ERROR	LifeKeeper was unable to add instance "%s" and/or its variables to the DB2 registry	<p>原因: 「db2iset」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103054	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103055	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103060	ERROR	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じであることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103061	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103062	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスの該当するノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103063	ERROR	Unable to determine the DB2 install path	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、そのインスタンスのDB2を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103065	ERROR	Invalid input provided for "%s" utility operation, characters are not allowed.	<p>原因: 「nodes」コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103066	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、リソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103067	ERROR	The DB2 instance "%s" is not a EEE or Multiple Partition instance	<p>原因: リソースタグ {tag} はシングルパーティションインスタンスです。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103069	ERROR	Node "%s" is already protected by this hierarchy	<p>原因: 「nodes」コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103070	ERROR	Node number "%s" is the last remaining node protected by resource "%s". Deleting all nodes is not allowed.	<p>原因: 「nodes」コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103071	ERROR	LifeKeeper is unable to get the equivalent instance for resource "%s"	<p>原因: 「nodes」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103072	ERROR	Unable to set NodesInfo for resource "%s" on "%s"	<p>原因: 「nodes」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103073	ERROR	Unable to set NodesInfo for resource "%s" on "%s"	<p>原因: 「nodes」コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103076	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103077	ERROR	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じであることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103078	ERROR	The database server is not running for instance "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスのプロセスチェックで、実行中のプロセスが見つかりませんでした。</p> <p>処置: DB2 インスタンスを開始してください。</p>
103079	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103080	ERROR	One or more of the database partition servers for instance "%s" is down	<p>原因: すべてのデータベースパーティションサーバが実行されている必要があります。</p> <p>処置: すべてのデータベースパーティションサーバが実行されていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103082	ERROR	Failed to create flag "%s"	<p>原因: DB2 ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
103083	ERROR	Failed to remove flag "%s"	<p>原因: DB2 ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを削除しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103084	ERROR	Unable to determine the DB2 instance \"\${Instance}\" home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じであることを確認し、操作を再試行してください。</p>
104002	FATAL	\$msg	<p>原因: このメッセージは内部ソフトウェアエラーを示します。</p> <p>処置: スタックトレースにエラーの原因が示されます。</p>
104003	FATAL	\$self->Val('Tag') ." is not an SDR resource"	<p>原因: 非データレプリケーションリソースに対してデータレプリケーションアクションが実行されました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104010	ERROR	\$self->{md}: bitmap merge failed, \$action	<p>原因: ビットマップのマージ操作に失敗しました。</p> <p>処置: ターゲットサーバにミラーや保護されたファイルシステムがマウントされている可能性があります。または、ビットマップファイルがターゲットに見つからない可能性があります。ターゲットサーバを確認してください。</p>
104022	ERROR	\$argv[1]: mdadm failed (\$ret	<p>原因: 「mdadm」コマンドによるミラーへのデバイスの追加に失敗しました。</p> <p>処置: これは通常、一時的な状態です。</p>
104023	ERROR	\$_	<p>原因: メッセージに「mdadm」コマンドの結果が含まれていません。</p>
104025	ERROR	failed to spawn monitor	<p>原因: システムは、「mdadm -F」監視プロセスの開始に失敗しました。これは、通常の状態では発生しません。</p> <p>処置: システムを再起動し、競合の可能性のあるものが解決されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104026	ERROR	cannot create \$md	<p>原因: ミラーデバイスを作成できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがまだ使用中ではないこと、およびミラー作成用の他の全パラメータが正しいことを確認してください。</p>
104027	ERROR	\$_	<p>原因: このメッセージに「mdadm」コマンドの結果が含まれています。</p>
104035	ERROR	Too many failures.Aborting resync of \$md	<p>原因: 正常範囲とは思われないほど長い時間、デバイスがビジー状態です。</p> <p>処置: システムを再起動し、デバイスがビジーではなくなっていることを確認してください。</p>
104036	ERROR	Failed to start nbd-server on \$target (error \$port	<p>原因: ターゲットサーバで nbd-server プロセスを開始できませんでした。</p> <p>処置: ターゲットディスクデバイスが使用可能であること、およびデバイス ID が変更されていないことを確認してください。</p>
104037	ERROR	Failed to start compression (error \$port	<p>原因: システムは、「バランス」トンネルプロセスを開始できませんでした。または、ネットワークに問題が発生しました。</p> <p>処置: ネットワークが正常に実行されていること、および 10000 ~ 10512 の範囲内にある TCP ポートがオープンで未使用の状態にあることを確認してください。ソフトウェアがすべてのシステムに正常にインストールされていることを確認してください。</p>
104038	ERROR	Failed to start nbd-client on \$source (error \$ret	<p>原因: nbd-client プロセスをソースサーバで開始できませんでした。</p> <p>処置: レポートされている erro 値を調べ、レポートされている問題を解決してください。たとえば、erro 値 110 は「Connection timed out」(接続のタイムアウト)を示します。これは、ネットワークかファイアウォールに問題がある可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104039	ERROR	Failed to add \$nbd to \$md on \$source	<p>原因: これは通常、一時的な状態です。</p> <p>処置: このエラーが続く場合、システムを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>
104045	ERROR	failed to stop \$self->{'md'}	<p>原因: ミラーデバイスを停止できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがビジーでないこと、またはマウントされていないことを確認してください。「mdadm --stop」を手動で実行し、デバイスを停止してください。</p>
104048	WARN	failed to kill \$proc, pid \$pid	<p>原因: プロセスをシグナル化できませんでした。これは、プロセスが終了していることを示している可能性があります。</p> <p>処置: 問題のプロセスが実行されていないことを確認し、実行されている場合は、システムを再起動して、終了できないプロセスを消去してください。</p>
104050	ERROR	Setting \$name on \$dest failed:\$ret. Please try again.	<p>原因: システムは「mirrorinfo」ファイル設定を設定できませんでした。</p> <p>処置: ネットワークとシステムを確認し、ミラー設定操作を再試行してください。</p>
104052	FATAL	Specified existing mount point "%s" is not mounted	<p>原因: マウントポイントがアンマウント状態になりました。</p> <p>処置: マウントポイントがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
104055	ERROR	Failed to set up temporary \$type access to data for \$self->{'tag'}.Error:\$ret	<p>原因: ターゲットサーバでファイルシステムまたはデバイスを使用できません。ミラーされたデータは、ミラーが一時停止してから再開されるまでターゲットサーバでは使用できません。</p> <p>処置: ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104057	ERROR	Failed to undo temporary access for \$self->{'tag'} on \$self->{'sys'}.Error:\$ret. Please verify that \$fsid is not mounted on server \$self->{'sys'}.	<p>原因: ターゲットサーバでファイルシステムをアンマウントできませんでした。</p> <p>処置: ファイルシステムおよびデバイスがターゲットサーバでビジーでないことを確認してください。ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>
104062	FATAL	Cannot find a device with unique ID "%s"	<p>原因: ターゲットディスクを識別できませんでした。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがターゲットサーバにインストールされていることを確認してください。ターゲットディスクのデバイスIDが変更されていないことを確認してください。</p>
104066	FATAL	Cannot get the hardware ID of device "%s"	<p>原因: ターゲットディスクデバイスの一意的IDが見つかりませんでした。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがターゲットサーバにインストールされていることを確認してください。ターゲットディスクのデバイスIDが変更されていないことを確認してください。</p>
104067	FATAL	Asynchronous writes cannot be enabled without a bitmap file	<p>原因: 無効なパラメータでミラーを作成しようとした。</p> <p>処置: ビットマップファイルパラメータを指定するか、同期書き込みを指定する必要があります。</p>
104068	FATAL	Failed to extend dependent resource %s to system %s.Error %s	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104070	FATAL	Unable to extend the mirror "%s" to system "%s"	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104071	ERROR	Failed to restore target device resources on \$target->{sys'}:\$err	<p>原因: ターゲットサーバで in service 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104073	EMERG	WARNING:A temporary communication failure has occurred between systems %s and %s.In order to avoid data corruption, data resynchronization will not occur.MANUAL INTERVENTION IS REQUIRED.In order to initiate data resynchronization, you should:1) Take one of the following resources out of service (this resource will become the mirror target):%s on %s or %s on %s.2) Take the other resource out of service (this resource will become the mirror source).3) Run %s/bitmap -d %s on the system that will become mirror source.4) Bring the mirror in service on the source system.A full resync will occur.	<p>原因: ソースサーバとターゲットサーバの間で、一時的な通信障害 (スプリットブレインシナリオ) が発生しました。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
104074	FATAL	Cannot get the hardware ID of device "%s"	<p>原因: ミラーに使用しようとしている基本のディスクデバイスを認識するストレージリカバリキットがありません。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがインストールされていることを確認してください。必要に応じ、 /opt/LifeKeeper/subsys/scsi/resources/DEVNAME/device_pattern ファイルにデバイス名を入れてください。</p>
104081	FATAL	Cannot make the %s filesystem on "%s" (%d)	<p>原因: 「mkfs」コマンドが失敗しました。</p> <p>処置: ディスクデバイスが書き込み可能で、エラーがないこと、および選択したファイルシステムのファイルシステムツールがインストールされていることを確認してください。</p>
104082	FATAL	%s	<p>原因: このメッセージに「mkfs」コマンドの結果が含まれていません。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104083	FATAL	Cannot create filesys hierarchy "%s"	<p>原因: リソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104086	ERROR	The "%s_data_corrupt" flag is set in "%s/subsys/scsi/resources/netraid/" on system "%s". To avoid data corruption, LifeKeeper will not restore the resource	<p>原因: 予期しないデータ破損を防ぐための警告データとして data corrupt フラグファイルが設定されています。ファイルが削除されるまで、このサーバ上のミラーをリストアできません。</p> <p>処置: 問題のサーバでデータが有効な場合、以下のいずれかを実行できます。1) ファイルを削除してミラーをリストアします。2) LifeKeeper GUI または「mirror_action force」コマンドでミラーを強制的にオンラインにします。</p>
104092	ERROR	Mirror target resource movement to system %s : status %s	<p>原因: 階層のスイッチオーバー操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104099	ERROR	Unable to unextend the mirror for resource "%s" from system "%s"	<p>原因: 階層の拡張解除に失敗しました。</p> <p>処置: ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決して、操作を再試行します。</p>
104106	ERROR	remote 'bitmap -m' command failed on \$target->{sys':}\$ranges	<p>原因: ターゲットサーバでビットマップマージコマンドが失敗しました。これには、次の2つの原因が考えられます。1) ビットマップファイルが見つからないか、破損している。2) ミラー (md) デバイスがターゲットでアクティブになっている。</p> <p>処置: ミラーおよび保護されているファイルシステムがターゲットでアクティブになっていることを確認してください。ターゲットのビットマップファイルが見つからない場合、ミラーを一時停止して再開し、ビットマップファイルを再作成してください。</p>
104107	ERROR	Asynchronous writes cannot be enabled without a bitmap file	<p>原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104108	ERROR	Local Partition not available	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104109	ERROR	Cannot get the hardware ID of device "%s"	原因: ディスクデバイスの一の ID を特定できませんでした。 処置: 適切なストレージリカバリキットがサーバにインストールされていることを確認してください。ディスクのデバイス ID が変更されていないことを確認してください。
104111	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104112	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104113	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104114	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104115	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104117	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104118	FATAL	Cannot unmount existing Mount Point "%s"	原因: マウントポイントがビジーです。 処置: ファイルシステムがビジーではないことを確認してください。ファイルシステムにアクセスする可能性があるプロセスまたはアプリケーションを停止してください。
104119	FATAL	Invalid data replication resource type requested ("%s")	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104124	EMERG	WARNING:A temporary communication failure has occurred between systems %s and %s.In order to avoid data corruption, data resynchronization will not occur.MANUAL INTERVENTION IS REQUIRED.In order to initiate data resynchronization, you should take one of the following resources out of service:%s on %s or %s on %s.The resource that is taken out of service will become the mirror target.	<p>原因: ソースサーバとターゲットサーバの間で、一時的な通信障害 (スプリットブレインシナリオ) が発生しました。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
104125	ERROR	failed to start '\$cmd \$_[2] \$user_args' on '\$_[3]'	<p>原因: 指定したコマンドが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104126	ERROR	\$_	<p>原因: このメッセージに、メッセージ 104125 で失敗したとレポートされているコマンドの結果が含まれています。</p>
104129	WARN	The replication connection for mirror "%s" (resource:"%s") is down (reason:%s)	<p>原因: ミラーへのレプリケーションの接続がダウン状態です。</p> <p>処置: ネットワークを確認してください。</p>
104130	ERROR	Mirror resize failed on %s (%s).You must successfully complete this operation before using the mirror.Please try again.	<p>原因: ミラーのサイズ変更操作で、リストされたシステム上にあるミラーのメタデータの更新に失敗しました。</p> <p>処置: ミラーを使用するには、サイズヘンコウを正常に完了する必要があります。「mirror_resize」を再実行してください (必要に応じて、強制実行する -f を使用)。</p>
104136	ERROR	Extend failed.	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104143	ERROR	Mirror resume was unsuccessful (\$ret	<p>原因: ミラーを確立できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104144	ERROR	Unable to stop the mirror access for \$self->{'md'} on system \$self->{'sys'}. Error:\$ret. Use the \"mdadm --stop \$self->{'md'}\" command to manually stop the mirror.	<p>原因: ミラーの一時停止時にターゲットノード上に作成されたミラーデバイスを停止できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがビジーでないこと、またはマウントされていないことを確認してください。「mdadm --stop」を手動で実行し、デバイスを停止してください。</p>
104156	WARN	Resynchronization of \"%s\" is in PENDING state.Current sync_action is:\"%s\"	<p>原因: md デバイスの再同期がペンディング状態であることが検出されました。</p> <p>処置: LifeKeeper は再同期を強制実行して問題の修正を試行します。関連するエラーをログで確認してください。エラーを解決した後、/proc/mdstat でペンディング状態がクリアされたこと、および datarep リソースの再同期が進行中であるか、完了したことを確認してください。</p>
122005	ERROR	Unable to \"%s\" on \"%s\"	<p>原因: 「getlocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122007	ERROR	Unable to \"%s\" on \"%s\"	<p>原因: 「rlslocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122009	ERROR	The path %s is not a valid file.	<p>原因: listener.ora ファイルがありません。</p> <p>処置: ファイルが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122010	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: 「Stat」コマンドでユーザIDを取得できませんでした。</p> <p>処置: 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122011	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: UID が passwd ファイルにありません。</p> <p>処置: UID が passwd ファイルに存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122012	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: ユーザ名 が passwd ファイルにありません。</p> <p>処置: ユーザ名 が passwd ファイルに存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122023	ERROR	The %s command failed (%d	<p>原因: このメッセージに「lsnrctl」コマンドの戻りコードが含まれています。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122024	ERROR	\$line	<p>原因: メッセージに「lsnrctl」コマンドの結果が含まれています。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122039	ERROR	Usage error	<p>原因: リストア操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122040	ERROR	Script \$cmd has hung on the restore of \"\$opt_t\".Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの restore スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_START_TIME (デフォルトでは 35 秒) がリスナーの起動に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122041	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} をリストアできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122045	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122046	ERROR	Usage error	<p>原因: リストア操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122049	ERROR	The script \$cmd has hung on remove of "\$opt_t". Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの remove スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_STOP_TIME (デフォルトでは 35 秒) がリスナーの停止に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>
122051	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122055	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} に対して quickCheck を実行できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122057	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122064	WARN	The %s level is set to %s a %s will not occur.	<p>原因: リスナーの最低限の保護レベルは起動と監視です。</p> <p>処置: リスナーを手動で起動してください。</p>
122066	ERROR	Script has hung checking \"\$tag\".Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの quickCheck スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_STATUS_TIME (デフォルトでは 15 秒) がリスナーの確認に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>
122067	ERROR	Usage error	<p>原因: quickCheck 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122069	ERROR	Usage error	<p>原因: 削除操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122072	ERROR	%s: resource "%s" not found on local server	<p>原因: リカバリ操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122074	WARN	The local recovery attempt has failed but %s level is set to %s preventing a failover to another node in the cluster.With %s recovery set all local recovery failures will exit successfully to prevent resource failovers.	<p>原因: オプションのリスナーリカバリレベルがローカルリカバリにのみ設定されています。</p> <p>処置: リソースツリーを手動でスイッチオーバーしてください。</p>
122078	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を復旧できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122082	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122083	ERROR	\$cmd has hung checking \"\$tag\".Forcibly terminating	<p>原因: recover スクリプトがシグナルによって停止されました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であることを確認してください。</p>
122084	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122085	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: canextend 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122086	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same.Please specify the correct values for the target and template servers.	<p>原因: ターゲットサーバに指定した値とテンプレートサーバに指定した値が同じです。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
122087	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122088	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソース情報からのリスナーユーザ名の取得に失敗しました。</p> <p>処置: リソース情報フィールドが有効であることを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122089	ERROR	The listener user %s does not exist on the server %s.	<p>原因: ユーザ名がpasswdファイルにありません。</p> <p>処置: ユーザ名がpasswdファイルに存在していることを確認し、操作を再実行してください。</p>
122090	ERROR	The id for user %s is not the same on template server %s and target server %s.	<p>原因: ユーザIDはどちらのサーバでも同じものにする必要があります。</p> <p>処置: ユーザIDを同じものにしてください。</p>
122091	ERROR	The group id for user %s is not the same on template server %s and target server %s.	<p>原因: グループIDはどちらのサーバでも同じものにする必要があります。</p> <p>処置: グループIDを同じものにしてください。</p>
122092	ERROR	Cannot access canextend script "%s" on server "%s"	<p>原因: {server}で「canextend」スクリプトを見つけられなかったため、LifeKeeperは拡張前のチェックを実行できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeperの設定を確認してください。</p>
122097	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「configActions」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再実行してください。</p>
122098	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeperは、{server}でリソース{tag}を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeperの設定を確認してください。</p>
122099	ERROR	Unable to update the resource %s to change the %s to %s on %s.	<p>原因: LifeKeeperは情報フィールドに情報を入力できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeperを再起動し、操作を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122100	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122101	ERROR	Unable to update the resource %s to change the %s to %s on %s.	<p>原因: LifeKeeper は {server} で情報フィールドに情報を入力できませんでした。</p> <p>処置: {server} で LifeKeeper を再起動し、操作を再試行してください。</p>
122103	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: create 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122124	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122126	ERROR	Unable to "%s" on "%s"	<p>原因: 「rlslocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122127	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122129	ERROR	Unable to "%s" on "%s"	<p>原因: 「getlocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122131	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122133	ERROR	Unable to create a file system resource hierarchy for the file system %s.	<p>原因: 「filesyshier」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
122135	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: 「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122140	ERROR	Resource "%s" is not ISP on server "%s" Manually bring the resource in service and retry the operation	<p>原因: リスナーリソースが依存する IP リソース {tag} は ISP の必要があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
122141	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: 「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122144	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「create_ins」操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122145	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.View the LifeKeeper logs for details and retry the operation.	<p>原因: 「app_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122146	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.View the LifeKeeper logs for details and retry the operation.	<p>原因:「typ_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122147	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.View the LifeKeeper logs for details and retry the operation.	<p>原因:「newtag」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122148	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122149	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.View the LifeKeeper logs for details and retry the operation.	<p>原因:「ins_setstate」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122150	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122151	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因:「depstoextend」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122152	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因:「extend」操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122153	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122154	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p>
122155	ERROR	Resource with either matching tag "%s" or id "%s" already exists on server "%s" for App "%s" and Type "%s"	<p>原因: リスナーリソースの拡張中に、同じ {tag} または {id} で異なるリソースアプリケーションおよびタイプを使用しているリソースインスタンスが見つかりました。</p> <p>処置: リソース ID は一意のものにする必要があります。Oracle Listener リソースインスタンスに合致する ID のリソースインスタンスを削除してください。</p>
122156	ERROR	Cannot access extend script "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でスクリプト EXTEND が見つからなかったため、リソース階層を拡張できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122157	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「getConfigIps」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再実行してください。</p>
122158	ERROR	The file %s is not a valid listener file.The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: リスナー定義が見つかりませんでした。</p> <p>処置: リスナー定義が listener.ora にあることを確認し、操作を再実行してください。</p>
122159	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「getSidListeners」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122160	ERROR	The file %s is not a valid listener file.The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: リスナー定義が見つかりませんでした。</p> <p>処置: リスナー定義がlistener.oraにあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122161	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「Isn-display」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122162	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122163	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: updateHelper 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122164	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を更新できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122166	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「updateHelper」操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122170	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: 「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122171	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因:「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122172	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因:「updIPDeps」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122173	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を更新できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122175	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因:「rlocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122177	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因:「getlocks」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122180	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因:「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122181	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: 「dep_create」の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122183	ERROR	The path %s is not a valid file.	<p>原因: listener.ora ファイルがありません。</p> <p>処置: ファイルが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122185	ERROR	The file %s is not a valid listener file.The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: LifeKeeper は有効なリスナー定義の検索に失敗しました。</p> <p>処置: 有効なリスナー定義がlistener.oraにあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122186	ERROR	The value specified for %s cannot be empty.Please specify a value for this field.	<p>原因: 設定ファイルまたは実行可能ファイルの {path} フィールドが空です。</p> <p>処置: 空でない値を {path} に入力し、操作を再試行してください。</p>
122187	ERROR	The path %s is not a valid file or directory.	<p>原因: 定義済み {path} が無効です。</p> <p>処置: {path} が存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122188	ERROR	The path %s is not a valid file or directory.	<p>原因: {path} がありません。</p> <p>処置: {path} が存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122189	ERROR	The value specified for %s cannot be empty.Please specify a value for this field.	<p>原因: 設定および実行パスフィールドが空です。</p> <p>処置: フィールドのパスを入力してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122190	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 「valid_path」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122191	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same.	<p>原因: valid_path の無効な引数。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122192	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122193	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122194	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122195	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122196	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を削除できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122197	ERROR	Unable to find the configuration file "\oratab" in its default locations, /etc/oratab or \$listener:oraTab on "\\$me"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122501	ERROR	DB instance "%s" is already protected on "%s".	<p>原因: {server} で LifeKeeper によってすでに保護されている Oracle データベースインスタンス {sid} を保護しようとしました。</p> <p>処置: 別のデータベースインスタンス {sid} を LifeKeeper の保護用に選択する必要があります。</p>
122502	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122503	ERROR	Unable to locate the oratab file "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「create」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122504	ERROR	Unable to determine Oracle user for "%s" on "%s".	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は Oracle データベースインストールバイナリの所有権を特定できませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は {server} の有効な非 root ユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>
122505	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できませんでした。</p> <p>処置: 「create」操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122506	ERROR	Unable to determine Oracle dbspaces and logfiles for "%s" on "%s".	<p>原因: 必要なテーブルスペース、ログファイル、関連データベースファイルの場所を特定するクエリーが失敗しました。これは、内部データベースエラーが原因の可能性もあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122507	ERROR	Unknown chunk type found for "%s" on "%s".	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、または必要なデータベースファイルが LifeKeeper でサポートされているファイルまたはキャラクタデバイスタイプではありません。</p> <p>処置: 指定したファイル {database_file} は既存のキャラクタデバイスまたはファイルを参照する必要があります。Oracle インストールドキュメントを参照し、指定したファイル {database_file} を、サポートされているファイルまたはキャラクタデバイスタイプとして再作成してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122508	ERROR	DB Chunk "%s" for "%s" on "%s" does not reside on a shared file system.	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、またはその他の必要なデータベースファイル {database_file} は、クラスタ内の他のシステムと共有されているファイルシステムに存在しません。</p> <p>処置: コミュニケーションパスが正常に作成されたことを確認するには、LifeKeeper UI または「lcdstatus (1M)」を使用してください。ストレージ保護に必要なアプリケーションリカバリキットがインストールされたことを確認するには、「rpm」を使用してください。ファイルが実際には共有ストレージにないことを確認し、ない場合は、共有ストレージデバイスに移動してください。</p>
122510	ERROR	File system create failed for "%s" on "%s".Reason	<p>原因: LifeKeeper は、指定したサーバ {server} でリソース {filesystem} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122511	ERROR	%s	<p>原因: メッセージに「filesyshier」コマンドの結果が含まれています。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122513	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122514	ERROR	Unable to "%s" on "%s" during resource create.	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は、「rlslocks」コマンドで管理 ロックを解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122516	ERROR	Raw device resource created failed for "%s" on "%s".Reason	<p>原因: LifeKeeper は、指定したサーバ {server} でリソース {raw device} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122519	ERROR	In-service attempted failed for tag "%s" on "%s".	<p>原因: {server} の {tag} に対する「perform_action」コマンドがデータベース {sid} の開始に失敗しました。in service 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122521	ERROR	Create of app "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: 内部アプリケーションタイプを作成する「app_create」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122522	ERROR	Create of typ "%s" for app "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: 内部リソースタイプを作成する「typ_create」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122524	ERROR	Setting "resstate" for resource "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: リソースの状態を {state} に設定する「ins_setstate」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122525	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same:"%s".	<p>原因: 「extend」操作でターゲットサーバとテンプレートサーバで指定した値が同じでした。</p> <p>処置: {target server} と {template server} に対して正しいパラメータを指定する必要があります。{target server} は、{tag} が拡張されるサーバです。</p>
122526	ERROR	Unable to locate the oratab file in "/etc" or in "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「extend」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>
122527	ERROR	Unable to retrieve the Oracle user on "%s".	<p>原因: 「canextend」操作または「extend」操作の間に {template server} から Oracle ユーザを取得できませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は、{target server} と {template server} の有効なユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122528	ERROR	The Oracle user and/or group information for user "%s" does not exist on the server "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、サーバ {server} の Oracle ユーザ {user} に対して Oracle ユーザおよびグループ情報を検索できません。</p> <p>処置: 指定した {server} に Oracle ユーザ {user} が存在していることを確認してください。ユーザ {user} が存在しない場合、クラスタ内のすべてのサーバで、同じ uid および gid を使用して作成する必要があります。</p>
122529	ERROR	The id for user "%s" is not the same on template server "%s" and target server "%s".	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} にある Oracle ユーザ {user} のユーザ ID が、テンプレートサーバ {template server} にあるユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: Oracle ユーザ {user} のユーザ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。ユーザ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「extend」操作を再試行する必要があります。</p>
122530	ERROR	The group id for user "%s" is not the same on template server "%s" and target server "%s".	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} にある Oracle ユーザ {user} のグループ ID が、テンプレートサーバ {template server} にあるユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: Oracle ユーザ {user} のグループ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。グループ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「extend」操作を再試行する必要があります。</p>
122532	ERROR	No file system or raw devices found to extend for "%s" on "%s".	<p>原因: サーバ {template server} で Oracle リソース {tag} の依存ファイルシステムまたは Raw デバイスリソースが見つかりません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122533	WARN	A RAMDISK (%s) was detected in the ORACLE Database configuration for "%s" on "%s". LifeKeeper cannot protect RAMDISK. This RAMDISK resource will not be protected by LifeKeeper! ORACLE hierarchy creation will continue.	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、またはその他のデータベースファイル {database_file} が ramdisk として検出されました。現在の LifeKeeper 製品では、このタイプのリソースに保護を適用できません。</p> <p>処置: ramdisk は保護されません。すべての Oracle データベース操作で必要なデータベースファイル {database_file} が使用可能になるように手動で確認する必要があります。</p>
122534	ERROR	Failed to initialize object instance for Oracle sid "%s" on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122537	ERROR	Update of instance info field for "%s" on "%s" failed (%s).	<p>原因: 内部リソース情報フィールドを更新する「ins_setinfo」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122538	ERROR	Initial connect with query buffer to database "%s" on "%s" failed, testing output.	<p>原因: データベースの状態を判別するために Oracle データベース {sid} に接続しようとしたところ、失敗しました。</p> <p>処置: 指定した認証情報で接続が失敗しました。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122542	ERROR	The "%s [%s]" attempt of the database "%s" appears to have failed on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} に対して メソッド {action_method} を使用した Oracle アクション {action} がサーバ {server} で失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122543	ERROR	All attempts to "%s" database "%s" on "%s" failed	<p>原因: サーバ {server} の Oracle データベース {sid} に対するアクション {action} を実行するためのあらゆる取り組みが失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122544	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。このエラーは oratab ファイルを開こうとしている間に発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122545	ERROR	Unable to locate the oratab file in "/etc" or in "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「extend」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122546	ERROR	Unable to open file "%s" on "%s" (%s).	<p>原因: エラー {error} のため、サーバ {server} では、指定したファイル {file} を開くことも、ファイルにアクセスすることもできませんでした。</p> <p>処置: 指定したファイル {file} の有無や権限を確認してください。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122547	ERROR	(cleanUpPids):Forcefully killing hung pid(s):pid(s)="%s"	<p>原因: プロセス {pid} が正常終了するための要求に応答できませんでした。プロセス {pid} は強制終了します。</p> <p>処置: コマンドラインで、プロセス {pid} が終了していることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122548	ERROR	Unable to locate the DB utility (%s/%s) on this host.	<p>原因: {path/utility} にある Oracle バイナリおよび必要なデータベースユーティリティ {utility} がこのサーバ {server} では見つかりませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリおよび必要なソフトウェアユーティリティがインストールされ、サーバ {server} で適切に設定されていることを確認してください。Oracle バイナリを各ノードにローカルインストールするか、クラスタ内の全ノードで使用可能な共有ストレージに配置する必要があります。</p>
122549	ERROR	Oracle internal error or non-standard Oracle configuration detected.Oracle User and/or Group set to "root".	<p>原因: 検出された Oracle データベースインストールの所有権が、ルートユーザまたはルートグループに解決されています。ルートによる Oracle インストールの所有権は標準的ではない設定です。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は {server} の有効な非 root ユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122550	ERROR	Initial inspection of "%s" failed, verifying failure or success of received output.	<p>原因: 前の Oracle クエリー {query} またはコマンド {cmd} が成功を返すことができませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122551	ERROR	Logon failed with "%s" for "%s" on "%s".Please check username/password and privileges.	<p>原因: 認証情報 {credentials} を使用してサーバ {server} のデータベースインスタンス {sid} へのログオンに失敗しました。無効なユーザ {user} またはパスワードが指定されました。</p> <p>処置: Oracle データベースユーザ {user} およびパスワード {password} が有効であることを確認してください。また、Oracle データベースユーザ {user} は、試行されるアクションに対して十分な権限を持っている必要があります。</p>
122552	ERROR	%s	<p>原因: メッセージに「sqlplus」コマンドの結果が含まれています。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122553	ERROR	Unable to open file "%s" on "%s" (%s).	<p>原因: エラー {error} のため、サーバ {server} では、指定したファイル {file} を開くことも、ファイルにアクセスすることもできませんでした。</p> <p>処置: 指定したファイル {file} の有無や権限を確認してください。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122554	ERROR	The tag "%s" on "%s" is not an Oracle instance or it does not exist.	<p>原因: サーバ {server} の指定されたタグ {tag} は、既存の有効な Oracle リソースインスタンスを参照していません。</p> <p>処置: UI または「lcdstatus (1M)」を使用して、リソースタグ {tag} の有無を確認してください。コマンド「ora-display」を使用するには、リソースタグ {tag} が Oracle リソースインスタンスである必要があります。</p>
122555	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: Oracle リソースインスタンスの認定ユーザ、パスワード、データベースロールを更新している際に、保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成しようとしたところ、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122557	ERROR	Update of user and password failed for "%s" on "%s".	<p>原因: リソースタグ {tag} のユーザおよびパスワードを更新する要求に失敗しました。指定した認証情報では、サーバ {server} に対する初期検証/接続ができませんでした。</p> <p>処置: 目的の操作に対して正しい認証情報 {user/password} が指定されていることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122559	ERROR	Update of user and password failed for "%s" on "%s".	<p>原因: サーバ {server} のリソースタグ {tag} のユーザおよびパスワード情報の更新に失敗しました。</p> <p>処置: 目的の操作に対して正しい認証情報 {user/password} が指定されていることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122562	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 必要な Oracle 実行ファイル {exe} がこのサーバ {server} では見つかりませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリおよび必要なソフトウェアユーティリティがインストールされ、サーバ {server} で適切に設定されていることを確認してください。Oracle バイナリを各ノードにローカルインストールするか、クラスタ内の全ノードで使用可能な共有ストレージに配置する必要があります。</p>
122566	ERROR	Unable to find Oracle home for "%s" on "%s".	<p>原因: Oracle ホームディレクトリ {Oracle home} には、Oracle インスタンス {sid} の正常な動作に必要なファイルが含まれていないようです。</p> <p>処置: Oracle ホームディレクトリ {Oracle home} に Oracle バイナリ、有効な spfile{sid}.ora、または init{sid}.ora ファイルが含まれていることをコマンドラインで確認してください。</p>
122567	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。指定した内部 ID {id} が、予想した SID {sid} と一致しません。</p> <p>処置: パラメータが正しいことを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122568	ERROR	DB Processes are not running on "%s".	<p>原因: Oracle インスタンスのプロセスチェックで、サーバ {server} で実行されているプロセスは見つかりませんでした。</p> <p>処置: ローカルリカバリが有効になっている場合、Oracle インスタンスはローカルで再起動されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122572	ERROR	Failed to create flag "%s" on "%s".	<p>原因: スタンバイノードへのフェイルオーバを促す Oracle ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122574	ERROR	all attempts to shutdown the database %s failed on "%s".	<p>原因: ローカルリカバリプロセス中に、おそらくデータベース接続数が上限に達したため、Oracle データベースのシャットダウンに失敗しました。</p> <p>処置: Oracle ログで、許容接続数の上限に達したことによって起こった接続の障害の有無を確認してください。その障害が見つかった場合は、接続数を増やしてください。また、ローカルリカバリの実行による quickCheck の障害発生が、接続の失敗を引き起こさないように、LK_ORA_NICE を 1 に設定してください。</p>
122597	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中、拡張前のチェックの際に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、pre-extend を再試行してください。</p>
122598	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 作成中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle ホームディレクトリの有効性を確認しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「create」を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122599	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、テンプレートシステムで Oracle ユーザをルックアップしようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、extend を再試行してください。</p>
122600	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、リソースプロパティを表示しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、リソースプロパティの表示を再試行してください。</p>
122601	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、有効なデータベース認証を確認しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、コマンドを再試行してください。</p>
122603	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle リソースインスタンスに対してヘルスチェックを実行しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 正しい引数が quickCheck コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、restore を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122604	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle リソースインスタンスに対してローカルリカバリを実行しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 正しい引数が「recover」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、recover を再試行してください。</p>
122606	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できません。</p> <p>処置: 選択した操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122607	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できません。</p> <p>処置: 選択した操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122608	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 「remove」操作で、Oracle リソースを Out of Service にするために必要なリソースオブジェクトインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 正しい引数が「remove」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122609	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 「restore」操作で、Oracle リソースを In Service にするために必要なリソースオブジェクトインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 正しい引数が「restore」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」を再試行してください。</p>
122610	ERROR	Unable to "%s" on "%s" during resource create.	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は、リソース作成中に「getlocks」コマンドで管理ロックを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create を再試行してください。</p>
122611	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 File System リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122612	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122613	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122614	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Listener リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122616	ERROR	%s	<p>原因: Oracle データベースの要求された起動またはシャットダウンに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」または「remove」操作を再試行してください。</p>
122618	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>
122619	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122625	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: quickCheck プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122626	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 削除プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122627	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: リストアプロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122628	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 復旧プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122632	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: 削除の際に、削除プロセスに渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122633	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: リストアの際に、restore に渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122634	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: リソースリカバリの際に、recovery に渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122636	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: {server} で Oracle リソース階層 {tag} の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122638	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: サーバ {server} の Oracle データベースリソース {tag} で作成アクションに失敗しました。シグナル {sig} が作成プロセスによって受信されました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122640	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122641	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122642	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122643	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122644	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソースインスタンス情報 {tag} を {server} で取得しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正し、extend を再試行してください。</p>
122645	ERROR	Cannot access canextend script "%s" on server "%s"	<p>原因: {server} で依存関係の子リソース用の「canextend」スクリプトが見つからなかったため、LifeKeeper は拡張前のチェックを実行できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122646	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソースインスタンス情報 {tag} を {server} で取得しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正し、extend を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122647	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122648	ERROR	Resource with either matching tag "%s" or id "%s" already exists on server "%s" for App "%s" and Type "%s"	<p>原因: データベースリソースの拡張中に、同じ {tag} または {id} で異なるリソースアプリケーションおよびタイプを使用しているリソースインスタンスが見つかりました。</p> <p>処置: リソース ID は一意のものにする必要があります。Oracle リソースインスタンスに合致する ID のリソースインスタンスを削除してください。</p>
122649	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122650	ERROR	Cannot access extend script "%s" on server "%s"	<p>原因: 依存関係にある子リソースのスクリプト {extend} がサーバ {server} で見つけられなかったため、サーバ {server} にデータベースリソース {resource} を拡張する要求が失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122651	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: 依存関係にある子リソースの拡張でエラーが発生したため、サーバ {server} にデータベースリソース {resource} を拡張する要求が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122654	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: quickCheck プロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} のヘルスチェックが終了しました。これはおそらく、quickCheck プロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのヘルスチェック時間は ORACLE_QUICKCHECK_TIMEOUT の設定で制御します。ヘルスチェックプロセスの完了に今より長い時間を割り当てる場合は、45 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122655	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: 削除プロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} を「Out of Service」にする要求が終了しました。これはおそらく、削除プロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースの削除時間は ORACLE_REMOVE_TIMEOUT の設定で制御します。削除プロセスの完了に今より長い時間を割り当てる場合は、240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122659	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: リストアプロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} を「In Service」にする要求が終了しました。これはおそらく、リストアッププロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのリストア時間は ORACLE_RESTORE_TIMEOUT の設定で制御します。リストアッププロセスの完了に今より長い時間を割り当てる場合は、240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122663	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: リカバリプロセスがシグナルを受信したため、失敗したデータベースのリカバリが終了しました。これはおそらく、リカバリプロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのリカバリ時間は ORACLE_RESTORE_TIMEOUT と ORACLE_REMOVE_TIMEOUT の設定で制御します。リカバリの完了に今より長い時間を割り当てる場合は、一方または両方を 240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122670	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。更新プロセスで使用する一時ファイルを開こうとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122671	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。更新プロセスで使用する一時ファイルを閉じようとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122672	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。一時ファイルの名前を oratab に変更しようとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122673	ERROR	Unable to log messages queued while running as oracle user %s on %s.Reason:\$!	<p>原因: メッセージをログファイルに追加しようとして、予期しないエラー {reason} が発生しました。これらのメッセージは、Oracle ユーザとして実行している間に生成されました。</p> <p>処置: 障害に関する理由を参照し、修正処置を実行してください。</p>
122674	ERROR	Unable to open %s Reason:%s.	<p>原因: Oracle データベースへの接続を開き、データベース {cmd} を実行しようとしたときに、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。また、Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
123006	FATAL	Unknown version %s of IP address	<p>原因: IP アドレスがIPv4 でも IPv6 でも有効ではないようです。</p> <p>処置: 有効な IP アドレスを指定してください。</p>
123008	ERROR	No pinglist found for %s.	<p>原因: この IP アドレスの pinglist を開こうとして問題が発生しました。</p> <p>処置: この IP アドレスの pinglist を指定していることを確認してください。</p>
123009	ERROR	List ping test failed for virtual IP %s	<p>原因: ping リストのどのアドレスからも応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: このノードのネットワーク接続および ping リストの IP が存在するシステムを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123013	ERROR	Link check failed for virtual IP %s on interface %s.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: インターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>
123015	ERROR	Link check failed for virtual IP %s on interface %s.	<p>原因: 要求したインターフェースは bonding インターフェースで、スレーブのいずれか 1 つが「NO-CARRIER」です。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: スレーブインターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>
123024	ERROR	IP address seems to still exist somewhere else.	<p>原因: IP アドレスはネットワークの別の場所で使用中のようです。</p> <p>処置: 別の IP アドレスを選択して使用するか、この IP アドレスを特定して、現在の使用を無効にしてください。</p>
123027	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: 仮想 IP の quickCheck がタイムアウトのため終了しました。</p> <p>処置: 条件を修正するか、/etc/default/LifeKeeper の IP_QUICKCHECK_TIMEOUT でより適切な値を指定します。</p>
123037	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	<p>原因: crelPhier に指定した引数が不十分です。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて crelPhier に指定してください。</p>
123038	ERROR	must specify IP resource name	<p>原因: crelPhier に渡された引数が不十分です。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて crelPhier に指定してください。</p>
123039	ERROR	must specify primary IP Resource tag	<p>原因: 「crelPhier」コマンドにプライマリ IP リソースタグの引数が指定されていません。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて指定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123042	ERROR	An unknown error has occurred in utility validmask on machine %s.	<p>原因: 「validmask」ユーティリティの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123045	ERROR	An unknown error has occurred in utility getlocks.	<p>原因: 「getlocks」ユーティリティの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123053	ERROR	Cannot resolve hostname %s	<p>原因: IP アドレスに対してホスト名が指定されましたが、システムはホスト名を IP アドレスに解決できませんでした。</p> <p>処置: ホスト名が正確かどうかを確認してから、名前の解決 (DIS または /etc/hosts) が正常に機能しており、ホスト名の IP を返すことを確認してください。</p>
123055	ERROR	An unknown error has occurred in utility %s on machine %s.	<p>原因: IP リソースの作成中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123056	ERROR	create ip hierarchy failure: perform_action failed	<p>原因: 作成中に IP アドレスをリストアしようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123059	ERROR	Resource already exists on machine %s	<p>原因: すでに存在する IP アドレスを作成しようとしました。</p> <p>処置: 既存のリソースを再利用するか、すでに存在している IP アドレスを手動で削除するか、別の IP アドレスを使用してください。</p>
123060	ERROR	ins_create failed on machine %s	<p>原因: IP リソースの作成中に予期しない障害が発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123064	ERROR	An unknown error has occurred in utility %s on machine %s.	<p>原因: IP リソースの依存関係を作成中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123066	ERROR	An error occurred during creation of LifeKeeper application=comm on %s.	<p>原因: 「app_create」の呼び出し中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123068	ERROR	An error occurred during creation of LifeKeeper resource type=ip on %s.	<p>原因: 「typ_create」の呼び出し中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123091	ERROR	the link for interface %s is down	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: インターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>
123093	ERROR	the ping list check failed	<p>原因: ping リストのどのアドレスからも応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: このノードのネットワーク接続および ping リストの IP が存在するシステムを確認してください。</p>
123095	ERROR	broadcast ping failed	<p>原因: ブロードキャスト ping から応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: サブネット上の1つ以上のホストがブロードキャスト ping に応答することを確認してください。仮想 IP が正しいネットワークインターフェースにあることを確認してください。ブロードキャスト ping ではなく、pinglist の使用を検討してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123096	ERROR	\$msg	<p>原因: 仮想 IP の実行可能性の判定に使用するブロードキャスト ping に失敗しました。</p> <p>処置: このリソースの ping リストがプロパティパネルで正常に設定されていることを確認するか、/etc/default/LifeKeeper 設定ファイルに NOBCASTPING=1 を追加してブロードキャスト ping のチェックを確実に無効にしてください。</p>
123097	ERROR	exec_list_ping(): broadcast ping failed.	<p>原因: 仮想 IP の実行可能性の判定に使用するブロードキャスト ping に失敗しました。</p> <p>処置: このリソースの ping リストがプロパティパネルで正常に設定されていることを確認するか、/etc/default/LifeKeeper 設定ファイルに NOBCASTPING=1 を追加してブロードキャスト ping のチェックを確実に無効にしてください。</p>
124004	FATAL	resource tag name not specified	<p>原因: 「quickCheck」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 正しい引数が渡されたことを確認してください。</p>
124005	FATAL	resource id not specified	<p>原因: 「quickCheck」操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 正しい引数が渡されたことを確認してください。</p>
124007	FATAL	Failed to get resource information	<p>原因: ファイルシステムリソースの情報フィールドに正しい情報が含まれていません。</p> <p>処置: リソースの情報フィールドに正しい情報を入力するか、最近の「lkbakup」からシステムをリストアして元の情報フィールドをリストアします。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124008	ERROR	getld failed	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本 ディスクデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。リソース階層が有効であること、および必要なストレージキットがすべてインストールされていることを確認してください。</p>
124009	ERROR	LifeKeeper protected filesystem is in service but quickCheck detects the following error	<p>原因: ファイルシステムキットはリソースに問題を発見しました。</p> <p>処置: この直後に表示されるメッセージで詳細を確認してください。</p>
124010	ERROR	"\$id\" is not mounted	<p>原因: ファイルシステムリソースがマウントされていません。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124011	ERROR	"\$id\" is mounted but with the incorrect mount options (current mount option list:\$mntopts, expected mount option list:\$infopts	<p>原因: ファイルシステムリソースが不正にマウントされています。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124012	ERROR	"\$id\" is mounted but on the wrong device (current mount device:\$tmpdev, expected mount device:\$dev	<p>原因: ファイルシステムリソースに誤ったデバイスがマウントされています。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124015	ERROR	LifeKeeper protected filesystem \"\$tag\" (\$id) is \$percent% full (\$blocksfree free blocks).	<p>原因: ファイルシステムの空き容量が間もなく不足します。</p> <p>処置: ファイルシステムからデータを削除または移行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124016	WARN	LifeKeeper protected filesystem \"\$tag\" (\$id) is \$percent% full (\$blocksfree free blocks).	<p>原因: ファイルシステムの空き容量が間もなく不足します。</p> <p>処置: ファイルシステムからデータを削除または移行してください。</p>
124020	FATAL	cannot find device information for filesystem \$id	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本 ディスクデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。リソース階層が有効であること、および必要なストレージキットがすべてインストールされていることを確認してください。</p>
124029	ERROR	Failed to find child resource.	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本 ディスクリソースを特定できませんでした。</p> <p>処置: リソース階層が正しいことを確認してください。</p>
124032	FATAL	Script has hung.Exiting.	<p>原因: アンマウントする必要があるものの、マウントされているファイルシステムに開かれているファイルが複数のプロセスにありました。それらのプロセスの終了に時間がかかりすぎています。</p> <p>処置: このエラーが続く場合は、マウントポイントを使用している可能性のあるすべてのソフトウェアを一時的に停止し、アンマウントできるようにしてください。ファイルシステムをそれでもアンマウントできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124042	ERROR	file system \$fsname failed unmount; will try again	<p>原因: アンマウントする必要があるものの、マウントされているファイルシステムに開かれているファイルが複数のプロセスにありました。場合によっては、それらのプロセスを消去するために、何度か操作を実行する必要があります。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。プロセスをそのまま続行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124046	ERROR	file system \$fsname failed unmount	<p>原因: ファイルシステムをアンマウントできませんでした。</p> <p>処置: このエラーが続く場合は、マウントポイントを使用している可能性のあるすべてのソフトウェアを一時的に停止し、アンマウントできるようにしてください。ファイルシステムをそれでもアンマウントできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124049	ERROR	Local recovery of resource has failed (err=\$err	<p>原因: ファイルシステムリソースに、ローカルでは修正できない問題があります。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。リソースを別のシステムにフェイルオーバーできるようにしてください。</p>
124103	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124104	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: canextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数が正しいことを確認してください。通常このエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124105	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: canextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数が正しいことを確認してください。通常このエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124106	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"\$TemplateName\	<p>原因: リソースの基本ディスク情報を特定できませんでした。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124107	ERROR	\$ERRMSG Resource \"\$TemplateName\" must have one and only one device resource dependency	<p>原因: リソースの階層にある基本デバイスが多すぎます。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124108	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"\$TemplateName\"	原因: テンプレートシステムでリソースを見つけられません。 処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。
124109	ERROR	\$ERRMSG Can not access canextend for scsi/\$DeviceResType resources on machine \"\$TargetSysName\"	原因: ターゲットシステムに、必須のコンポーネントがいくつか見つかりません。 処置: ターゲットシステムに正しいキットがすべてインストールされ、ライセンスされていることを確認してください。
124110	ERROR	\$ERRMSG Either filesystem \"\$TemplateLkId\" is not mounted on \"\$TemplateSysName\" or filesystem is not shareable with \"\$TargetSysName\"	原因: ファイルシステムがテンプレートシステムのサービス内 にないか、ターゲットシステムに拡張するための要件を満たして いません。 処置: リソースがテンプレートシステムのサービス内にあることを 確認し、ファイルシステムを拡張するための要件に関する製 品ドキュメントを参照してください。
124111	ERROR	\$ERRMSG File system type \"{FSType}\" is not supported by the kernel currently running on \"{TargetSysName}\"	原因: カーネルのサポートがないため、ファイルシステムのタイ プをターゲットシステムにマウントできません。 処置: ターゲットシステムにそのカーネルモジュールがすべてイン ストールされており、正常に設定されていることを確認してか ら、リソースを拡張してください。
124112	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。 処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポート に問い合わせてください。
124113	ERROR	must specify primary ROOT tag	原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。 処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポート に問い合わせてください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124114	ERROR	must specify primary mount point	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124115	ERROR	must specify primary switchback type	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124118	ERROR	dep_remove failure on machine \"'\$PRIMACH'\" for parent \"'\$PRITAG'\" and child \"'\$DEVTAG'\"	<p>原因: 依存関係の作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124119	ERROR	ins_remove failure on machine \"'\$PRIMACH'\" for \"'\$PRITAG'\"	<p>原因: インスタンスの作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124121	ERROR	ins_remove failure on machine \"'\$PRIMACH'\"	<p>原因: リソースの作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124122	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124123	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: depstoextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124124	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: depstoextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124125	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \ \"\$TemplateTagName\	原因: リソースが基本 ディスクリソースを特定 できませんで した。 処置: 階層とすべての依存関係が正しいことを確認してから 拡張してください。
124126	ERROR	unextmgr failure on machine \"\"\$PRIMACH\"\ \"	原因: 失敗したリソース拡張操作の後のクリーンアップに失 敗しました。 処置: 残りのリソースを手動でクリーンアップし、隣接するログ メッセージで詳細を確認してください。
124128	ERROR	unextmgr failure on machine \"\"\$PRIMACH\"\" for \"\$PRITAG.\	原因: 失敗したリソース拡張操作の後のクリーンアップに失 敗しました。 処置: 残りのリソースを手動でクリーンアップし、隣接するログ メッセージで詳細を確認してください。
124129	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。 処置: 追加のログメッセージを探して、詳細を確認してくださ い。
124130	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。 処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してくださ い。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに 問い合わせてください。
124131	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。 処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してくださ い。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに 問い合わせてください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124132	ERROR	\$ERRMSG Required target mount point is null	<p>原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124133	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"\\$TemplateName\"	<p>原因: 拡張中のタグがテンプレートシステムに存在しません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124134	ERROR	\$ERRMSG Detected conflict in expected tag name \"\\$TargetTagName\" on target machine.	<p>原因: 拡張するリソースと同じタグのリソースがすでにターゲットシステムにあります。</p> <p>処置: 競合しているリソースのどちらか一方を別のタグで再作成してください。</p>
124135	ERROR	\$ERRMSG Resource \"\\$TemplateName\" does not have required device resource dependency or unable to access this resource on template machine.	<p>原因: リソースまたは基本ディスクリソースがテンプレートシステムで見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124136	ERROR	\$ERRMSG Resource \"\\$TemplateName\" must have one and only one device resource dependency	<p>原因: リソースは、テンプレートシステムの階層内に複数の基本デバイスを持っています。</p> <p>処置: 拡張する前に階層が正しいことを確認し、ファイルシステムリソースが単一のディスクリソースにのみ依存していることを確認してください。</p>
124137	ERROR	\$ERRMSG Can not access extend for scsi/DeviceResType resources on machine \"\\$TargetSysName\"	<p>原因: 所定のストレージタイプのサポートに必要なファイルがターゲットシステムにありません。</p> <p>処置: 必要なキットがターゲットシステムにインストールされ、ライセンスされていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124138	ERROR	\$ERRMSG Unable to access target device resource \" <code>DeviceTagName</code> \" on machine \" <code>TargetSysName</code> \"	<p>原因: 必要な基本 ディスクリソースがターゲットシステムに存在していません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、ターゲットシステムが拡張対象リソースをホストするために正常に設定されていることを確認してください。</p>
124139	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template \" <code>/etc/mtab</code> \" file	<p>原因: ターゲットシステムがテンプレートシステムの <code>/etc/mtab</code> ファイルを読み取ることができません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。<code>/etc/mtab</code> ファイルがテンプレートシステムに存在することを確認してください。</p>
124140	ERROR	\$ERRMSG Unable to find mount point entry \" <code>TemplateLKId</code> \" in template \" <code>/etc/mtab</code> \" file. Is template resource in-service?	<p>原因: リソースがテンプレートシステムにマウントされていないようです。</p> <p>処置: リソースが in service であることを確認してから拡張してください。</p>
124141	ERROR	\$ERRMSG Unable to find mount point \" <code>TemplateLKId</code> \" mode on template machine	<p>原因: テンプレートシステムのマウントポイント詳細を特定できません。</p> <p>処置: リソースが in service で、テンプレートシステムでアクセス可能であることを確認してから拡張してください。</p>
124142	ERROR	\$ERRMSG Unable to create or access mount point \" <code>TargetLKId</code> \" on target machine	<p>原因: ターゲットシステムでマウントポイントを作成できませんでした。</p> <p>処置: マウントポイントの親ディレクトリが存在し、ターゲットシステムでアクセス可能であることを確認してください。</p>
124143	ERROR	\$ERRMSG Two or more conflicting entries found in <code>/etc/fstab</code> on \" <code>TargetSysName</code> \"	<p>原因: デバイスまたはマウントポイントはターゲットシステムで複数回マウントされているようです。</p> <p>処置: マウントポイントがターゲットシステムにマウントされていないことを確認してから拡張してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124144	ERROR	\$ERRMSG Failed to create resource instance on \" <code>\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: ターゲットシステムでのリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。ターゲットサーバでログを必ず確認してください。</p>
124145	ERROR	\$ERRMSG Failed to set resource instance state for \" <code>\$TargetTagName</code> \" on \" <code>\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: ターゲットシステムでソースの状態を OSU に変更できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124146	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	<p>原因: filesyshier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124147	ERROR	must specify primary mount point	<p>原因: filesyshier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124149	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: リソースインスタンスを検索するプロセスが失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124150	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: システムが <code>/etc/mtab</code> ファイルの読み取りに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124151	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: マウントポイントを <code>/etc/mtab</code> ファイルで見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124152	ERROR	create file system hierarchy failure	原因: 基本 ディスクリソースを見つけられませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124153	ERROR	create file system hierarchy failure	原因: ファイルシステムリソースの作成に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124154	ERROR	create file system hierarchy failure	原因: リソースの情報フィールドを更新できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124155	ERROR	create file system hierarchy failure	原因: スイッチバック戦略をリソースで設定できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124157	ERROR	create file system hierarchy failure \(\conflicting entries in /etc/fstab\)	原因: マウントポイントを /etc/fstab ファイルから削除できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124160	ERROR	Unknown error in script filesysins, err=\$err	原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124161	ERROR	create filesys instance - existid - failure	原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124163	ERROR	create filesys instance - ins_list - failure	原因: 既存のリソースの確認に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124164	ERROR	create filesys instance - newtag - failure	原因: システムはリソースの推奨タグの生成に失敗しました。 処置: 通常の手続きでこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124168	ERROR	create filesystem instance - ins_create - failure	<p>原因: ミファイルシステムリソースを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124169	ERROR	filesystem instance - ins_setstate - failure	<p>原因: 新しいファイルシステムリソースの状態を初期化できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124173	ERROR	create filesystem instance - dep_create - failure	<p>原因: 基本ディスクに対するリソースの依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124174	ERROR	machine not specified	<p>原因: rmenu_mp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124175	ERROR	mount point not specified	<p>原因: rmenu_mp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124177	ERROR	unexpected multiple matches found	<p>原因: 1 つまたは複数のシステムが、複数回使用されたファイルシステムまたはマウントポイントを示しています。</p> <p>処置: ファイルシステムデバイスとマウントポイントを確認し、ファイルシステムが1回だけマウントされていることを確認してください。追加のログメッセージを探して、詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124178	ERROR	machine name not specified	<p>原因: mmenump 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124180	ERROR	must specify filesystem type	<p>原因: validfstype 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124181	ERROR	mount point not specified	<p>原因: validmp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124182	ERROR	The mount point \$MP is not an absolute path	<p>原因: 絶対パスではない(「/」で始まらない)マウントポイントが指定されました。</p> <p>処置: 「/」で始まる絶対パスでマウントポイントを指定してください。</p>
124183	ERROR	\$MP is already mounted on \$MACH	<p>原因: 要求されたマウントポイントはシステムですでに使用中です。</p> <p>処置: 使用中ではないマウントポイントを指定するか、操作を再試行する前にアンマウントしてください。</p>
124184	ERROR	The mount point \$MP is already protected by LifeKeeper on \$MACH	<p>原因: システムは、指定したマウントポイントをすでに保護しています。</p> <p>処置: まだ保護されていない別のマウントポイントを選択してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124185	ERROR	The mount point \$MP is not a directory on \$MACH	<p>原因: マウントポイントが通常のファイルなどの非ディレクトリを参照しています。</p> <p>処置: ディレクトリを参照するマウントポイントを選択してください。</p>
124186	ERROR	The mount point directory \$MP is not empty on \$MACH	<p>原因: 指定したマウントポイントは空でないディレクトリを参照します。</p> <p>処置: 空のマウントポイントを選択するか、指定したディレクトリの内容を削除してから操作を再試行してください。</p>
124187	ERROR	server name not specified	<p>原因: valuepmp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124188	ERROR	There are no mount points on server \$MACH	<p>原因: サーバにファイルシステムリソースのマウントポイントがありません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124194	WARN	Please correct conflicting "/etc/fstab" entries on server \$UNAME for:\$FSDEV, \$FSNAME	<p>原因: ファイルシステムリソースを削除したら、/etc/fstab の一部のエントリを手動でクリーンアップする必要があります。</p> <p>処置: /etc/fstab ファイルを手動でクリーンアップします。</p>
124195	ERROR	getchildinfo found no \$OKAPP child for \$PTAG	<p>原因: システムは子リソースを階層で見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、階層が正しいことを確認してから、操作を再試行してください。</p>
124196	ERROR	enablequotas - quotacheck may have failed for \$FS_NAME	<p>原因: 割り当て操作に失敗しました。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124198	ERROR	enablequotas - quotaon failed to turn on quotas for \$FS_NAME, reason	<p>原因: 割り当て操作に失敗しました。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124200	ERROR	The device node \$dev was not found or did not appear in the udev create time limit of \$delay seconds	<p>原因: デバイスノード (/dev/...) がudev によって作成されませんでした。これは、ストレージまたはストレージへのサーバ接続の問題を示している可能性があります。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124201	WARN	Device \$device not found.Will retry wait to see if it appears.	<p>原因: これは、udev がストレージのデバイスノードエントリを作成している間、通常の条件下で発生する可能性もあります。このメッセージは繰り返し表示されないはずです。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124202	ERROR	Command \"\$commandwithargs\" failed.Retrying	<p>原因: 指定されたコマンドは失敗しましたが、一時的なものである可能性もあります。この障害は、通常の操作で発生しますが、継続はしないはずです。</p> <p>処置: このメッセージが何度も表示される場合は、隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124204	WARN	cannot make file system \$FSNAME mount point	<p>原因: マウントポイントディレクトリを作成できませんでした。</p> <p>処置: マウントポイントを作成できることを確認してください。これは、ファイルシステム権限やマウントオプションなどによる可能性があります。</p>
124207	ERROR	\"fsck\"ing file system \$FSNAME failed, trying alternative superblock	<p>原因: このメッセージは、通常のファイルシステムチェックに失敗したことを示します。このメッセージは、ext2 ファイルシステムまたは代替スーパーブロックロケーションが使用されているファイルシステムの場合は問題ないと思われます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124209	ERROR	\`fsck\`ing file system \$FSNAME with alternative superblock failed	<p>原因: これは、代替スーパーブロックロケーションで ext2 ファイルシステム (または代替スーパーブロックロケーションが使用されている他のファイルシステム) の確認が失敗したことを示します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、実行方法の手順を確かめてください。</p>
124210	WARN	POSSIBLE FILESYSTEM CORRUPTION ON \$FSNAME (\$FPNAME)	<p>原因: ミラーソースと同期していないファイルシステムが in service になったか、フェイルオーバーされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、ファイルシステムを安全に in service にする方法を製品ドキュメントで調べてください。</p>
124211	ERROR	Reason for fsck failure (\$retval):\$ret	<p>原因: このログメッセージは一連のメッセージの一部で、fsck プロセスからの実際の終了コードを提供します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、実行方法の手順を確かめてください。</p>
124212	ERROR	\`fsck\` of file system \$FSNAME failed	<p>原因: ファイルシステムの確認に失敗しました。これは通常、ファイルシステムが破損したことによるものです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。製品ドキュメントを参照し、可能性のあるファイルシステムの破損を処理する方法を調べてください。</p>
124213	WARN	POSSIBLE FILESYSTEM CORRUPTION ON \$FSNAME (\$FPNAME)	<p>原因: システムまたはユーザが、破損している可能性のあるファイルシステムを in service にしようとした。これは、ミラーサイトと同期していないときにファイルシステムが切り替えられたか、フェイルオーバーされた場合に起こることがあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、リソースを安全に in service にする方法を製品ドキュメントで調べてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124214	ERROR	Reason for fsck failure (\$retval)	<p>原因: このメッセージは、ファイルシステムチェックの障害に関する前のログメッセージに続いて表示されるもので、fsck プロセスのプロセス終了コードを提供します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124218	ERROR	File system \$FSNAME was found to be already	<p>原因: このメッセージは、一連のメッセージの一部です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124219	ERROR	mounted after initial mount attempt failed.	<p>原因: このメッセージは、一連のメッセージの一部です。通常の状態では表示されないはずですが、リソースが in service の場合は致命的なエラーの可能性もあります。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124220	ERROR	File system \$FSNAME failed to mount.	<p>原因: ファイルシステムをマウントできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124221	WARN	Protected Filesystem \$ID is full	<p>原因: ファイルシステムの空き容量がありません。</p> <p>処置: 使用していないデータをファイルシステムから削除するか、より大きなファイルシステムに移行してください。</p>
124222	WARN	Dependent Applications may be affected <>	<p>原因: これは、あるリソースに対する操作が、リソースの階層に基づいて別のリソースにも実行される可能性が高いことを示します。</p> <p>処置: 示されているリソースが影響を受けても許容できることを確認してから操作を続行してください。</p>
124223	ERROR	Put \"\${t}\" Out-Of-Service Failed By Signal	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
124227	ERROR	Put \"\${i}\" Out-Of-Service Failed	<p>原因: 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124230	ERROR	Put \"\${t}\" In-Service Failed By Signal	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124231	ERROR	Put \"\${t}\" In-Service Failed	<p>原因: 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124234	ERROR	Put \"\${t}\" In-Service Failed	<p>原因: 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
125102	ERROR	`printf 'Template resource \"%s\" on server \"%s\" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p>
125103	ERROR	`printf '%s is not shareable with any machine.' \$DEV`	<p>原因: デバイスは他のシステムと共有されていないようです。</p> <p>処置: デバイスがクラスタ内のすべてのサーバからアクセス可能であることを確認してください。すべての関連ストレージドライバおよびソフトウェアが正常にインストールおよび設定されていることを確認してください。</p>
125104	ERROR	`printf 'Failed to create disk hierarchy for \"%s\" on \"%s\" \$PRIMACH \$DEV`	<p>原因: 物理ディスクを保護するリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
125107	ERROR	`printf 'Template resource \"%s\" on server \"%s\" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p>
125114	ERROR	`printf 'Template resource \"%s\" on server \"%s\" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
125120	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125123	ERROR	`printf 'Cannot access depstoextend script "%s" on server "%s" \$depstoextend \$TargetSysName`	原因: {server} でスクリプト「DEPSTOEXTEND」を見つけれなかったため、LifeKeeper はリソース階層に対して拡張前のチェックを実行できませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。
125126	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$ChildTag \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125129	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125155	ERROR	SCSI \$DEV failed to lock.	原因: SCSI デバイスをロックする際に問題が発生しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。
125164	ERROR	SCSI \$INFO failed to unlock.	原因: SCSI デバイスをロック解除する際に問題が発生しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。
125181	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTag \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
126105	ERROR	script not specified - \$PTH is a directory	原因: 指定したスクリプトパスはディレクトリです。 処置: スクリプトのパスを修正してください。
126110	ERROR	script \$PTH does not exist	原因: 指定したスクリプトパスは存在しません。 処置: スクリプトのパスを修正してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126115	ERROR	script \$PTH is a zero length file	<p>原因: 指定したスクリプトは空のファイルです。</p> <p>処置: スクリプトのファイルパスを修正し、スクリプトの内容を確認してください。</p>
126117	ERROR	script \$PTH is not executable	<p>原因: 指定したスクリプトは実行可能ではありません。</p> <p>処置: スクリプトのファイルパスを修正し、スクリプトファイルの内容を確認したら、正常な実行権限があることを確認してください。</p>
126125	ERROR	required template machine name is null	<p>原因: 入力テンプレートマシン名が null です。</p> <p>処置: 入力テンプレートマシン名を修正してください。</p>
126130	ERROR	required template resource tag name is null	<p>原因: 入力テンプレートリソース {tag} が null です。</p> <p>処置: 入力テンプレートリソースタグ名を修正してください。</p>
126135	ERROR	Unable to generate a new tag	<p>原因: 拡張の際に、「newtag」スクリプトを使用してターゲットノードでテンプレートタグ名と同じ新規タグを生成できませんでした。タグ名はすでに存在しています。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名を避け、ログで詳細を確認してください。</p>
126140	ERROR	Unable to generate a new tag	<p>原因: 拡張の際に、「newtag」スクリプトを使用してターゲットノードで入力ターゲットタグ名として新規タグを生成できませんでした。タグ名はすでに存在しています。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名を避け、ログで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126150	ERROR	unable to remote copy template \"\$_lscript\" script file	<p>原因: テンプレートスクリプトファイルのリモートコピーに失敗しました。原因としては、テンプレートノードにテンプレートスクリプトファイルがない、またはスクリプトファイルを使用できない、あるいは「lcdrcp」プロセスで何らかのトランザクション障害が発生したことなどが考えられます。</p> <p>処置: テンプレートスクリプトの有無/使用可能性を確認し、テンプレートノードへの接続を確かめてください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126155	ERROR	failed to create resource instance on \"\${TargetSysName}	<p>原因: 「ins_create」によるリソースインスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126160	ERROR	failed to set resource instance state for \"\${TargetTagName}\" on \"\${TargetSysName}	<p>原因: GenApp リソース拡張の際に、「ins_setstate」によるリソースインスタンスの状態の設定に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126170	ERROR	getlocks failure	<p>原因: リソース階層の作成時に管理ロックの取得に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126175	ERROR	instance create failed	<p>原因: 「appins」による GenApp インスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126180	ERROR	unable to set state to OSU	<p>原因: GenApp リソース作成の際に、「ins_setstate」によるリソースインスタンスの状態の設定に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126190	ERROR	resource restore has failed	<p>原因: GenApp リソースのリストアに失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126200	ERROR	create application hierarchy rlocks failure	<p>原因: GenApp リソースの作成後にロックの解除に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126210	ERROR	copy \$ltype script \$lscript failure	<p>原因: リソース作成時に、ユーザ提供のスクリプトを適切な GenApp ディレクトリにコピーできませんでした。</p> <p>処置: ユーザ提供のスクリプトの有無/使用可能性に加え、GenApp ディレクトリを確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126215	ERROR	no \$ltype script specified	<p>原因: GenApp リソース作成時にユーザ定義スクリプトが見つかりません。</p> <p>処置: 入力アクションスクリプトを確認し、リソース作成を再実行してください。</p>
126220	ERROR	no machine name specified	<p>原因: GenApp リソース作成時に指定のマシン名が見つかりません。マシン名の入力内容が見つからないため、指定したユーザスクリプトのコピーに失敗しました。</p> <p>処置: マシン名の入力内容を確認し、リソース作成を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126225	ERROR	no resource tag specified	<p>原因: リソース作成時に指定のタグ名が見つかりません。</p> <p>処置: ソースタグ名の入力内容を確認し、リソース作成を再実行してください。</p>
126230	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: 不明な理由で GenApp リソースの拡張に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126235	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: GenApp リソース拡張時にテンプレートマシン名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートマシン名の入力内容を確認し、リソース拡張を再実行してください。</p>
126240	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: GenApp リソース拡張時にテンプレートリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートリソースタグ名の入力内容を確認し、リソース拡張を再実行してください。</p>
126245	ERROR	\$ERRMSG Can not access extend for \$AppType/\$ResType resources on machine \"\${TargetSysName}	<p>原因: ターゲットノードでの GenApp リソース拡張の際に、「extend」スクリプトを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 「extend」スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp リソース拡張を再実行してください。</p>
126250	ERROR	create application failure - ins_list failed	<p>原因: GenApp リソース作成で「ins_list」を呼び出している際に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126255	ERROR	create application failure - unable to generate a new tag	<p>原因: GenApp リソース作成で新規タグの生成に失敗しました。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名の使用を避けてください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126270	ERROR	create application failure - ins_create failed	<p>原因: 「ins_create」による GenApp インスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126275	ERROR	create application failure - copy_actions failed	<p>原因: 「copy_actions」によるユーザ指定テンプレートスクリプトファイルのコピーに失敗しました。</p> <p>処置: テンプレートスクリプトの有無/使用可能性を確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126290	ERROR	Unable to obtain tag for resource with id \$ID	<p>原因: リカバリ時に入力 ID による GenApp リソースタグ名のフェッチに失敗しました。</p> <p>処置: 入力 ID が正しいこと、および LCD の GenApp リソースの有無/使用可能性を確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126300	ERROR	generic application recover script for \$TAG was not found or was not executable	<p>原因: リカバリ時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp リカバリプロセスを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126310	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソースリストア時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソースリストアを再実行してください。</p>
126315	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソースリストア時にリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソースリストアを再実行してください。</p>
126335	ERROR	restore script \"\$LCDAS/\$APP_RESTOREDIR/\$TAG\" was not found or is not executable	<p>原因: リストア時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp リストアプロセスを再実行してください。</p>
126340	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース削除を再実行してください。</p>
126345	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除時にリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソース削除を再実行してください。</p>
126365	ERROR	remove script \"\$LCDAS/\$APP_REMOVEDIR/\$TAG\" was not found or was not executable	<p>原因: 削除時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp 削除プロセスを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126375	ERROR	Script has hung checking \"\$tag\".Forcibly terminating.	<p>原因: 待機時間がユーザ定義のタイムアウトを超えたので、タグ名 {tag} の GenApp リソースの「quickCheck」スクリプトが強制的に終了しました。</p> <p>処置: GenApp リソースのパフォーマンスを確認し、quickChecking を再起動してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126380	ERROR	Usage error: no tag specified	<p>原因: GenApp リソース quickCheck 時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース quickCheck を再試行してください。</p>
126385	ERROR	Internal error: ins_list failed on \$tag.	<p>原因: quickCheck プロセスで、「ins_list」による入力タグ名別の GenApp リソース情報のフェッチに失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を修正し、quickCheck プロセスを再実行してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126390	FATAL	Failed to fork process to execute \$userscript: \$!	<p>原因: GenApp リソースの「quickCheck」プロセスで、ユーザ定義の「quickCheck」スクリプトを実行するためにプロセスを分岐させられませんでした。</p> <p>処置: ユーザ定義の「quickCheck」スクリプトの有無/使用可能性を確認し、「quickCheck」プロセスを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
126391	ERROR	quickCheck has failed for \"\$tag\". Starting recovery.	<p>原因: タグ名 {tag} の GenApp リソースが失敗することが、ユーザ定義の健全性監視スクリプトにより判定されました。「quickCheck」およびリカバリプロセスが開始されます。</p> <p>処置: ローカルリカバリが完了したら、GenApp リソースのパフォーマンスを確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126400	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除プロセスでリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース削除プロセスを再実行してください。</p>
126405	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除プロセスでリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソース削除プロセスを再実行してください。</p>
128005	ERROR	END failed %s of \"%s\" on server \"%s\" due to a \"%s\" signal	<p>原因: オペレーティングシステムの信号 {signal} によって、{server} 上の {resource} の quickCheck が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128008	ERROR	Usage: quickCheck -t <tag name> -i <id>	<p>原因: dmmp デバイスの quickCheck コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: すべてのソフトウェアコンポーネントの正しいバージョンが適切にインストールされていることを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (quickCheck 対象の dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128010	ERROR	quickCheck for "%s" failed checks of underlying paths, initiate recovery. retry count=%s.	<p>原因: dmmp キットが{count} 回の試行後、デバイスの quickCheck に失敗しました。保護されている dmmp リソースのリカバリが実行されます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128021	ERROR	unable to find device for uuid "%s".	<p>原因: restore 操作時に一意の ID を使用してデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。リストア対象の dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス ID でコマンドを再実行してください。</p>
128025	ERROR	Device "%s" failed to unlock.	<p>原因: restore 操作時に正常に動作していない {device} が検出され、ロック解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128026	ERROR	Device "%s" failed to lock.	<p>原因: リストア時に {device} をロックできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128031	ERROR	unable to find device for uuid "%s".	<p>原因: remove 操作時に一意の ID を使用してデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。削除対象の dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス ID でコマンドを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128034	ERROR	Device "%s" failed to unlock.	<p>原因: 削除時に {device} をロック解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128036	ERROR	unable to load existing information for device with uuid "%s".	<p>原因: 一意のIDを使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイスID でコマンドを再実行してください。</p>
128037	ERROR	unable to load existing information for device "%s".	<p>原因: 名前を使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス名でコマンドを再実行してください。</p>
128038	ERROR	unable to load existing information for device, no dev or uuid defined.	<p>原因: 一意のデバイスID もデバイス名も指定されていないため、デバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイスID またはデバイス名でコマンドを再実行してください。</p>
128041	ERROR	unable to load existing information for device with uuid "%s".	<p>原因: 一意のIDを使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイスID でコマンドを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128057	ERROR	All paths are failed on "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp デバイスへのすべてのパスが障害状態にあることを検出しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128058	ERROR	could not determine registrations for "%s"!All paths failed.	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の登録を特定できませんでした。dmmp {device} へのすべてのパスが障害状態にあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128059	WARN	path "%s" no longer configured for "%s", remove from path list.	<p>原因: LifeKeeper が検出した保護対象の {device} への {path} は、現在は有効ではなく、パスリストから削除されます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128060	WARN	registration failed on path "%s" for "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の {path} の登録を特定できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128062	ERROR	all paths failed for "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の有効なパスを確認できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128072	ERROR	The daemon "%s" does not appear to be running and could not be restarted.Path failures may not be correctly handled without this daemon.	<p>原因: LifeKeeper は dmmp デーモンが実行されていることを確認できなかったため、デーモンを再起動できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128078	ERROR	"%s" resource type is not installed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスをサポートするための Device Mapper Multipath Recovery Kit がシステムにインストールされていません。</p> <p>処置: steeleye-1kDMMP Device Mapper Multipath Recovery Kit rpm をシステムにインストールしてください。</p>
128083	ERROR	This script must be executed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトの引数に不正なシステム名が指定されました。</p> <p>処置: クラスタノードとコミュニケーションパスが適切に設定されていることを確認してください。devicehier スクリプトに正しいシステム名を指定してください。この名前は、コマンドを実行するシステムの名前に一致する必要があります。</p>
128084	ERROR	The device %s is not active.	<p>原因: リソース作成時に LifeKeeper は、指定された {device} をシステム上の有効なデバイスとして見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (作成する dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128086	ERROR	Failed to create "%s" hierarchy.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} のためのリソース階層を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128088	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} で {tagname} を使用してリソースを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128090	ERROR	Failed to create dependency "%s"-"%s" on system "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、{system} で依存関係 {resource tag name} - {resource tag name} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128091	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{system} で {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128101	ERROR	"%s" constructor requires a valid argument.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースのオブジェクトを作成できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128102	ERROR	Invalid tag "%s".	<p>原因: 指定されたタグ名のリソースインスタンスが見つかりませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128111	ERROR	Failed to get registrations for "%s":%s.Verify the storage supports persistent reservations.	<p>原因: LifeKeeper は {device} の登録の取得に失敗し、メッセージ「bad field in Persistent reservation in cdb」を出力しました。</p> <p>処置: このストレージでパーシステントリザベーションがサポートされているか確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128112	ERROR	Failed to get registrations for "%s":%s.Verify the storage supports persistent reservations.	<p>原因: LifeKeeper は {device} の登録の取得に失敗し、メッセージ「illegal request」を出力しました。</p> <p>処置: このストレージでパーシステントリザベーションがサポートされているか確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128136	ERROR	A previous quickCheck with PID "%s" running for device "%s" has been terminated.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの restore 操作時に前の quickCheck がまだ実行中であることを検出しました。LifeKeeper は quickCheck を終了しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128137	ERROR	SCSI reservation conflict on %s during LifeKeeper resource initialization.Manual intervention required.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの restore 操作時に {device} で SCSI リザベーションコンフリクトを検出しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。手動による介入および {device} でのリザベーションコンフリクトの解消が必要です。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128138	ERROR	unable to clear registrations on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} 上のすべての登録を消去できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128140	WARN	registration failed on path %s for %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} の {path} の登録を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128143	ERROR	reserve failed (%d) on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} 上の {resource} の登録を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128145	ERROR	The server ID "%s" returned by "%s" is not valid.	<p>原因: LifeKeeper は有効な Host {ID} の生成に失敗しました。</p> <p>処置: デバイスを登録するための ID は、クラスタ内のサーバを一意に特定する 1 ~ 12 桁の 16 進数で構成されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128146	ERROR	device failure on %s.SYSTEM HALTED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。サーバを再起動します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128148	ERROR	device failure on %s.SYSTEM HALTED DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。LifeKeeper の設定によって、再起動はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。「SCSIHALT」設定を有効にして、いかなるデバイス障害が検出されたときも再起動が行われるようにしてください。</p>
128149	ERROR	device failure or SCSI Error on %s.SENDEVENT DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。LifeKeeper の設定によって、イベント生成はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。「SCSIEVENT」設定を有効にして、いかなるデバイス障害が検出されたときも sendevent を使用できるようにしてください。</p>
128150	ERROR	%s does not have EXCLUSIVE access to %s, halt system.	<p>原因: LifeKeeper は {server} の {device} でリザーベーションコンフリクトを検出しました。サーバを再起動します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128151	ERROR	%s does not have EXCLUSIVE access to %s, halt system DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {server} の {device} でリザーベーションコンフリクトを検出しました。LifeKeeper の設定によって、再起動はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。「RESERVATIONCONFLICT」設定を有効にして、いかなるリザーベーションコンフリクトが検出されたときも再起動が行われるようにしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128154	WARN	unable to flush buffers on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの削除時に {device} のバッファを消去できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128157	WARN	%s utility not found, limited healthcheck for %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} の健全性チェックを行う「dd」ユーティリティを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128160	ERROR	%s failed to read %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{utility} の使用中に {device} のディスク I/O テストに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128163	ERROR	Registration ID "%s" for "%s" is not valid.	<p>原因: LifeKeeper は {device} の有効な登録 {ID} の生成に失敗しました。</p> <p>処置: デバイスを登録するための ID は、デバイスへのパスに由来する 4 桁の 16 進数で構成されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128170	ERROR	Usage: canextend <Template system name> <Template tag name>	

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128500	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの restore コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (リストアする dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128504	ERROR	"%s" resource type is not installed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスをサポートするための Device Mapper Multipath Recovery Kit がシステムにインストールされていません。</p> <p>処置: steeleye-1kDMMP Device Mapper Multipath Recovery Kit rpm をシステムにインストールしてください。</p>
128506	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの devShared コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。<Template Resource System Name> および <Template Resource Tag> (作成する dmmp デバイスリソースを特定するタグ)</p>
128507	FATAL	This script must be executed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトの引数に不正なシステム名が指定されました。</p> <p>処置: devicehier スクリプトに正しいシステム名を指定してください。この名前は、コマンドを実行するシステムの名前に一致する必要があります。</p>
128511	ERROR	Failed to get the ID for the device "%s". Hierarchy create failed.	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトは、指定されたデバイスの SCSI ID を特定できませんでした。</p> <p>処置: 指定されたデバイスパスが存在すること、およびそのパスがサポート対象の SCSI ストレージアレイのパスであることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128512	ERROR	Failed to get the disk ID for the device "%s".Hierarchy create failed.	<p>原因: dmmp ディスクリソースを作成するための devicehier スクリプトは、指定されたディスクの SCSI ID を特定できませんでした。</p> <p>処置: 指定されたデバイスパスが存在すること、およびそのパスがサポート対象の SCSI ストレージレイのパスであることを確認してください。</p>
128513	ERROR	Failed to create the underlying resource for device "%s".Hierarchy create failed.	<p>原因: ベースとなる dmmp ディスクリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128515	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: dmmp デバイスリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128517	ERROR	Failed to create dependency "%s"-"%s" on system "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースと dmmp ディスクリソースとの間の親 / 子の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128519	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: 新しく作成した dmmp デバイスリソースを in service にする操作が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128521	ERROR	Either TEMPLATESYS or TEMPLATETAG argument missing	<p>原因: dmmp デバイスリソースの extend コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: テンプレートシステムおよびタグの正しい名前を指定して dmmp デバイスリソースの extend を再実行してください。</p>
128540	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの SCSI ID を取得する getId コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-i <device path> または -b <device ID>。</p>
128541	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスリソースを削除するコマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <dmmp device resource tag>。</p>
128543	ERROR	device node \" <code>\$dev</code> \" does not exist.	<p>原因: dmmp デバイスリソースをリストアするために必要なデバイスノードが存在しません。リストア時に udev デバイスの作成に割り当てられている待機時間を越えました。</p> <p>処置: udev がデバイスを作成した後に dmmp デバイスリソースの restore を再実行してください。</p>
128544	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスリソースを out of service にする remove コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <dmmp device resource tag>。</p>
129100	FATAL	Failed to load instance from LifeKeeper.	<p>原因: 無効なリソースタグまたは ID が指定されました。</p> <p>処置: タグまたは ID が有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129103	FATAL	No resource matches tag \" <code>self->{tag}</code> \".	<p>原因: 無効なリソースタグが指定されました。</p> <p>処置: タグが有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。</p>
129104	FATAL	An error occurred setting LifeKeeper resource information	<p>原因: LifeKeeper で内部エラーが発生しました。</p>
129108	ERROR	Missing parameter \" <code>\$param</code> \" in ec2 resource object	<p>原因: これは内部エラーです。</p>
129110	ERROR	Could not get the Elastic Network Interface ID for <code>\$dev</code>	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129111	ERROR	Failed to get Allocation ID of Elastic IP \" <code>\$elasticIp</code> \".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129112	ERROR	Cannot find curl executable.steeleye-curl パッケージがインストールされていることを確認してください。	<p>原因: steeleye-curl がインストールされていない場合は、インストールしてください。</p>
129113	ERROR	Failed to get my instance ID.	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129114	ERROR	Failed to get ENI ID.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129115	ERROR	Failed to associate Elastic IP, retrying \$i/\$MAX_RETRY	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129116	ERROR	Failed to associate Elastic IP \"\${EIP}\" on \"\${self->{DEV}}\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129117	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP, retrying \$i/\$MAX_RETRY	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129118	WARN	\${self->{EIP}} is not associated with any instance.	<p>原因: Elastic IP がインスタンスに関連付けられていません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129119	WARN	\${self->{EIP}} is associated with another instance.	<p>原因: Elastic IP が別のインスタンスに関連付けられています。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129120	ERROR	Failed to recover Elastic IP.	<p>原因: EC2 API が Elastic IP の関連付けに失敗しました。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129121	ERROR	Recovery process ended but Elastic IP is not associated with this instance.Please check AWS console.	<p>原因: EC2 API がElastic IP の関連付けに失敗しました。</p> <p>処置: ネットワークとAmazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129122	ERROR	Error creating resource \"\${target_tag}\" with return code of \"\${err}\".	<p>原因: LifeKeeper がサーバ上にリソースインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129123	ERROR	Failed to get ENI ID.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークとAmazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129124	WARN	self->{'EIP'} is associated with another network interface.	<p>原因: Elastic IP は正しいインスタンスに関連付けられていますが、ENI が正しくありません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129125	ERROR	Link check failed for interface '\$dev'.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>
129126	ERROR	Link check failed for interface '\$dev'.Reason: down slave.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129129	WARN	The link for network interface '\\$self->{'DEV'}' is down. Attempting to bring the link up.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: LifeKeeper は、リンクをアップ状態にして Elastic IP とインターフェースを関連付けることにより、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129137	ERROR	The link for network interface '\\$self->{'DEV'}' is still down.	<p>原因: LifeKeeper がリンクをアップ状態にできませんでした。</p> <p>処置: インターフェースが有効であり、アップ状態であることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129139	WARN	The link for network interface '\\$self->{'DEV'}' is down.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>
129140	ERROR	Could not get ENI ID for \$self->{IP}.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129141	ERROR	Could not update route table, retrying \$i/\$MAX_RETRY (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129142	ERROR	Failed to update route table	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129143	ERROR	You must have exactly one IP address resource as the parent of the RouteTable EC2 resource. Please reconfigure your resource hierarchy.	<p>原因: ルートテーブルの EC2 リソースは親として IP リソースを 1 つのみ持つ必要があります。</p> <p>処置: 必要に応じてリソース階層を修復してください。</p>
129144	ERROR	\$func called with invalid timeout:\$timeout	<p>原因: /etc/default/LifeKeeper ファイルに無効なタイムアウト値が指定されました。</p> <p>処置: /etc/default/LifeKeeper 内にあるすべての EC2_*_TIMEOUT 設定が正しいことを確認してください。</p>
129145	ERROR	\$func action timed out after \$timeout seconds	<p>原因: タイムアウト期間中に動作が完了しませんでした。</p> <p>処置: その動作の EC2_*_TIMEOUT 値 (/etc/default/LifeKeeper 内) を増加することを検討してください。</p>
129146	ERROR	failed to run \$func with timeout:\$@	<p>原因: これは内部エラーです。</p>
129148	ERROR	Amazon ec2-describe-route-tables 呼び出しが失敗しました (err=%s)(output=%s)。	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129150	ERROR	Elastic IP \"\${elasticIp}\" is associated with another instance.	<p>原因: Elastic IP が正しいインスタンスに関連付けられていません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129151	ERROR	Could not get the Association ID for Elastic IP \"\${elasticIp}\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129152	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP \"\${EIP}\" on \"\${DEV}\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129153	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP \"\${elasticIp}\", (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129154	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129155	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129156	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s)	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129157	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s)	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129158	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129159	ERROR	Amazon ec2-associate-address call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129160	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129161	ERROR	Error deleting resource \"\$otherTag\" on \"\$otherSys\" with return code of \"\$err\".	<p>原因: LifeKeeper がサーバ上のリソースインスタンスを削除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129403	ERROR	END failed create of \$TAG due to a \$sig signal	<p>原因: 作成プロセスがシグナルによって中断されました。</p>
129409	ERROR	The IP resource \$IP_RES is not \"ISP\".	<p>原因: IP リソースが in service ではありません。</p> <p>処置: リソースを in service にして、操作をもう一度行ってください。</p>
129410	ERROR	Could not find IP resource \$IP_RES	<p>原因: IP リソースが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
129412	ERROR	EC2 resource \$ID is already protected	<p>原因: 指定した ID を持つリソースはすでに存在しています。</p> <p>処置: 残っている古いリソースをすべてクリーンアップしてから、新しいリソースを再作成してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129413	ERROR	Failed to encrypt AWS_SECRET_KEY	原因: AWS_ACCESS_KEY と AWS_SECRET_KEY が正しく入力されていることを確認してください。
129416	ERROR	Error creating resource \" <code>\$\$\$TAG</code> \" with return code of \" <code>\$\$\$cderror</code> \".	原因: LifeKeeper がリソースインスタンスを作成できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。
129418	ERROR	Dependency creation between \" <code>\$\$\$IP_RES</code> \" and \" <code>\$\$\$TAG</code> \" failed with return code of \" <code>\$\$\$cderror</code> \".	原因: LifeKeeper がリソースの依存関係を作成できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。
129420	ERROR	In-service failed for tag \" <code>\$\$\$TAG</code> \".	原因: LifeKeeper がリソースインスタンスを in service にできませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。
129800	ERROR	canextend checks failed for \" <code>\$\$\$self->{tag}</code> \" (err=ret)	原因: ターゲットサーバで拡張前のチェックに失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。

DataKeeper メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104002	FATAL	\$msg	<p>原因: このメッセージは内部ソフトウェアエラーを示します。</p> <p>処置: スタックトレースにエラーの原因が示されます。</p>
104003	FATAL	\$self->Val('Tag') ." is not an SDR resource"	<p>原因: 非データレプリケーションリソースに対してデータレプリケーションアクションが実行されました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104010	ERROR	\$self->{'md'}: bitmap merge failed, \$action	<p>原因: ビットマップのマージ操作に失敗しました。</p> <p>処置: ターゲットサーバにミラーや保護されたファイルシステムがマウントされている可能性があります。または、ビットマップファイルがターゲットに見つからない可能性があります。ターゲットサーバを確認してください。</p>
104022	ERROR	\$argv[1]: mdadm failed (\$ret	<p>原因: 「mdadm」コマンドによるミラーへのデバイスの追加に失敗しました。</p> <p>処置: これは通常、一時的な状態です。</p>
104023	ERROR	\$_	<p>原因: メッセージに「mdadm」コマンドの結果が含まれていません。</p>
104025	ERROR	failed to spawn monitor	<p>原因: システムは、「mdadm -F」監視プロセスの開始に失敗しました。これは、通常の状態では発生しません。</p> <p>処置: システムを再起動し、競合の可能性のあるものが解決されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104026	ERROR	cannot create \$md	<p>原因: ミラーデバイスを作成できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがまだ使用中ではないこと、およびミラー作成用の他の全パラメータが正しいことを確認してください。</p>
104027	ERROR	\$_	<p>原因: このメッセージに「mdadm」コマンドの結果が含まれています。</p>
104035	ERROR	Too many failures.Aborting resync of \$md	<p>原因: 正常範囲とは思われないほど長い時間、デバイスがビジー状態です。</p> <p>処置: システムを再起動し、デバイスがビジーではなくなっていることを確認してください。</p>
104036	ERROR	Failed to start nbd-server on \$target (error \$port	<p>原因: ターゲットサーバで nbd-server プロセスを開始できませんでした。</p> <p>処置: ターゲットディスクデバイスが使用可能であること、およびデバイス ID が変更されていないことを確認してください。</p>
104037	ERROR	Failed to start compression (error \$port	<p>原因: システムは、「バランス」トンネルプロセスを開始できませんでした。または、ネットワークに問題が発生しました。</p> <p>処置: ネットワークが正常に実行されていること、および 10000 ~ 10512 の範囲内にある TCP ポートがオープンで未使用の状態にあることを確認してください。ソフトウェアがすべてのシステムに正常にインストールされていることを確認してください。</p>
104038	ERROR	Failed to start nbd-client on \$source (error \$ret	<p>原因: nbd-client プロセスをソースサーバで開始できませんでした。</p> <p>処置: レポートされている erro 値を調べ、レポートされている問題を解決してください。たとえば、erro 値 110 は「Connection timed out」(接続のタイムアウト)を示します。これは、ネットワークかファイアウォールに問題がある可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104039	ERROR	Failed to add \$nbd to \$md on \$source	<p>原因: これは通常、一時的な状態です。</p> <p>処置: このエラーが続く場合、システムを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>
104045	ERROR	failed to stop \$self->{'md'}	<p>原因: ミラーデバイスを停止できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがビジーでないこと、またはマウントされていないことを確認してください。「mdadm --stop」を手動で実行し、デバイスを停止してください。</p>
104048	WARN	failed to kill \$proc, pid \$pid	<p>原因: プロセスをシグナル化できませんでした。これは、プロセスが終了していることを示している可能性があります。</p> <p>処置: 問題のプロセスが実行されていないことを確認し、実行されている場合は、システムを再起動して、終了できないプロセスを消去してください。</p>
104050	ERROR	Setting \$name on \$dest failed:\$ret. Please try again.	<p>原因: システムは「mirrorinfo」ファイル設定を設定できませんでした。</p> <p>処置: ネットワークとシステムを確認し、ミラー設定操作を再試行してください。</p>
104052	FATAL	Specified existing mount point "%s" is not mounted	<p>原因: マウントポイントがアンマウント状態になりました。</p> <p>処置: マウントポイントがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
104055	ERROR	Failed to set up temporary \$type access to data for \$self->{'tag'}.Error:\$ret	<p>原因: ターゲットサーバでファイルシステムまたはデバイスを使用できません。ミラーされたデータは、ミラーが一時停止してから再開されるまでターゲットサーバでは使用できません。</p> <p>処置: ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104057	ERROR	Failed to undo temporary access for \$self->{'tag'} on \$self->{'sys'}.Error:\$ret. Please verify that \$fsid is not mounted on server \$self->{'sys'}.	<p>原因: ターゲットサーバでファイルシステムをアンマウントできませんでした。</p> <p>処置: ファイルシステムおよびデバイスがターゲットサーバでビジーでないことを確認してください。ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決してください。</p>
104062	FATAL	Cannot find a device with unique ID "%s"	<p>原因: ターゲットディスクを識別できませんでした。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがターゲットサーバにインストールされていることを確認してください。ターゲットディスクのデバイスIDが変更されていないことを確認してください。</p>
104066	FATAL	Cannot get the hardware ID of device "%s"	<p>原因: ターゲットディスクデバイスの一意的IDが見つかりませんでした。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがターゲットサーバにインストールされていることを確認してください。ターゲットディスクのデバイスIDが変更されていないことを確認してください。</p>
104067	FATAL	Asynchronous writes cannot be enabled without a bitmap file	<p>原因: 無効なパラメータでミラーを作成しようとしてしました。</p> <p>処置: ビットマップファイルパラメータを指定するか、同期書き込みを指定する必要があります。</p>
104068	FATAL	Failed to extend dependent resource %s to system %s.Error %s	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104070	FATAL	Unable to extend the mirror "%s" to system "%s"	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104071	ERROR	Failed to restore target device resources on \$target->{sys'}:\$err	<p>原因: ターゲットサーバで in service 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104073	EMERG	WARNING: A temporary communication failure has occurred between systems %s and %s. In order to avoid data corruption, data resynchronization will not occur. MANUAL INTERVENTION IS REQUIRED. In order to initiate data resynchronization, you should: 1) Take one of the following resources out of service (this resource will become the mirror target): %s on %s or %s on %s. 2) Take the other resource out of service (this resource will become the mirror source). 3) Run %s/bitmap -d %s on the system that will become mirror source. 4) Bring the mirror in service on the source system. A full resync will occur.	<p>原因: ソースサーバとターゲットサーバの間で、一時的な通信障害 (スプリットブレインシナリオ) が発生しました。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
104074	FATAL	Cannot get the hardware ID of device "%s"	<p>原因: ミラーに使用しようとしている基本のディスクデバイスを認識するストレージリカバリキットがありません。</p> <p>処置: 適切なストレージリカバリキットがインストールされていることを確認してください。必要に応じ、 /opt/LifeKeeper/subsys/scsi/resources/DEVNAME/device_pattern ファイルにデバイス名を入れてください。</p>
104081	FATAL	Cannot make the %s filesystem on "%s" (%d)	<p>原因: 「mkfs」コマンドが失敗しました。</p> <p>処置: ディスクデバイスが書き込み可能で、エラーがないこと、および選択したファイルシステムのファイルシステムツールがインストールされていることを確認してください。</p>
104082	FATAL	%s	<p>原因: このメッセージに「mkfs」コマンドの結果が含まれていません。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104083	FATAL	Cannot create filesys hierarchy "%s"	<p>原因: リソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104086	ERROR	The "%s_data_corrupt" flag is set in "%s/subsys/scsi/resources/netraid/" on system "%s". To avoid data corruption, LifeKeeper will not restore the resource	<p>原因: 予期しないデータ破損を防ぐための警告データとして data corrupt フラグファイルが設定されています。ファイルが削除されるまで、このサーバ上のミラーをリストアできません。</p> <p>処置: 問題のサーバでデータが有効な場合、以下のいずれかを実行できます。1) ファイルを削除してミラーをリストアします。2) LifeKeeper GUI または「mirror_action force」コマンドでミラーを強制的にオンラインにします。</p>
104092	ERROR	Mirror target resource movement to system %s : status %s	<p>原因: 階層のスイッチオーバー操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104099	ERROR	Unable to unextend the mirror for resource "%s" from system "%s"	<p>原因: 階層の拡張解除に失敗しました。</p> <p>処置: ターゲットサーバを再起動し、競合の可能性のあるものを解決して、操作を再試行します。</p>
104106	ERROR	remote 'bitmap -m' command failed on \$target->{sys':}\$ranges	<p>原因: ターゲットサーバでビットマップマージコマンドが失敗しました。これには、次の2つの原因が考えられます。1) ビットマップファイルが見つからないか、破損している。2) ミラー (md) デバイスがターゲットでアクティブになっている。</p> <p>処置: ミラーおよび保護されているファイルシステムがターゲットでアクティブになっていることを確認してください。ターゲットのビットマップファイルが見つからない場合、ミラーを一時停止して再開し、ビットマップファイルを再作成してください。</p>
104107	ERROR	Asynchronous writes cannot be enabled without a bitmap file	<p>原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104108	ERROR	Local Partition not available	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104109	ERROR	Cannot get the hardware ID of device "%s"	原因: ディスクデバイスの一の ID を特定できませんでした。 処置: 適切なストレージリカバリキットがサーバにインストールされていることを確認してください。ディスクのデバイス ID が変更されていないことを確認してください。
104111	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104112	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104113	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104114	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104115	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104117	FATAL	Insufficient input parameters for "%s" creation	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。
104118	FATAL	Cannot unmount existing Mount Point "%s"	原因: マウントポイントがビジーです。 処置: ファイルシステムがビジーではないことを確認してください。ファイルシステムにアクセスする可能性があるプロセスまたはアプリケーションを停止してください。
104119	FATAL	Invalid data replication resource type requested ("%s")	原因: ミラー作成操作で無効なパラメータが指定されました。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104124	EMERG	WARNING:A temporary communication failure has occurred between systems %s and %s.In order to avoid data corruption, data resynchronization will not occur.MANUAL INTERVENTION IS REQUIRED.In order to initiate data resynchronization, you should take one of the following resources out of service:%s on %s or %s on %s.The resource that is taken out of service will become the mirror target.	<p>原因: ソースサーバとターゲットサーバの間で、一時的な通信障害 (スプリットブレインシナリオ) が発生しました。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
104125	ERROR	failed to start '\$cmd \$_[2] \$user_args' on '\$_[3]'	<p>原因: 指定したコマンドが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104126	ERROR	\$_	<p>原因: このメッセージに、メッセージ 104125 で失敗したとレポートされているコマンドの結果が含まれています。</p>
104129	WARN	The replication connection for mirror "%s" (resource:"%s") is down (reason:%s)	<p>原因: ミラーへのレプリケーションの接続がダウン状態です。</p> <p>処置: ネットワークを確認してください。</p>
104130	ERROR	Mirror resize failed on %s (%s).You must successfully complete this operation before using the mirror.Please try again.	<p>原因: ミラーのサイズ変更操作で、リストされたシステム上にあるミラーのメタデータの更新に失敗しました。</p> <p>処置: ミラーを使用するには、サイズヘンコウを正常に完了する必要があります。「mirror_resize」を再実行してください (必要に応じて、強制実行する -f を使用)。</p>
104136	ERROR	Extend failed.	<p>原因: 階層の拡張操作に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
104143	ERROR	Mirror resume was unsuccessful (\$ret	<p>原因: ミラーを確立できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
104144	ERROR	Unable to stop the mirror access for \$self->{'md'} on system \$self->{'sys'}. Error:\$ret. Use the \"mdadm --stop \$self->{'md'}\" command to manually stop the mirror.	<p>原因: ミラーの一時停止時にターゲットノード上に作成されたミラーデバイスを停止できませんでした。</p> <p>処置: デバイスがビジーでないこと、またはマウントされていないことを確認してください。「mdadm --stop」を手動で実行し、デバイスを停止してください。</p>
104156	WARN	Resynchronization of \"%s\" is in PENDING state.Current sync_action is:\"%s\"	<p>原因: md デバイスの再同期がペンディング状態であることが検出されました。</p> <p>処置: LifeKeeper は再同期を強制実行して問題の修正を試行します。関連するエラーをログで確認してください。エラーを解決した後、/proc/mdstat でペンディング状態がクリアされたこと、および datarep リソースの再同期が進行中であるか、完了したことを確認してください。</p>

DB2 Kit メッセージカタログ

Control Fを使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103001	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	原因: db2nodes.cfg にサーバ名が含まれていません。 処置: db2nodes.cfg が有効であることを確認してください。
103002	ERROR	LifeKeeper was unable to get the version for the requested instance "%s"	原因: "db2level" コマンドがDB2のバージョンを返しませんでした。 処置: DB2の設定を確認してください。
103003	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。 処置: DB2の設定を確認してください。
103004	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	原因: リソース情報の取得に失敗しました。 処置: LifeKeeperの設定を確認してください。
103005	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	原因: リソース情報の取得に失敗しました。 処置: LifeKeeperの設定を確認してください。
103006	ERROR	Unable to get the instance information for resource "%s"	原因: インスタンス情報の取得に失敗しました。 処置: LifeKeeperの設定を確認してください。
103007	ERROR	Unable to get the instance home directory information for resource "%s"	原因: インスタンスのホームディレクトリのパスの取得に失敗しました。 処置: LifeKeeperの設定を確認してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103008	ERROR	Unable to get the instance type information for resource "%s"	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、無効なインスタスタイプを見つけました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103009	ERROR	LifeKeeper has encountered an error while trying to get the database configuration parameters for database \"\$DB\"	<p>原因: "db2 get db cfg for \$DB" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103012	ERROR	LifeKeeper was unable to start the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"restore" 操作を再試行してください。</p>
103013	ERROR	LifeKeeper was unable to start the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"restore" 操作を再試行してください。</p>
103015	ERROR	An entry for the home directory "%s" of instance "%s" does not exist in "/etc/fstab"	<p>原因: マルチパーティションのデータベースのインスタンスのホームディレクトリは、"/etc/fstab" に存在する必要があります。</p> <p>処置: ホームディレクトリが"/etc/fstab" に存在することを確認してください。</p>
103016	ERROR	LifeKeeper was unable to mount the home directory for the DB2 instance "%s"	<p>原因: マルチパーティションのデータベースのインスタンスのホームディレクトリをマウントできませんでした。</p> <p>処置: ホームディレクトリがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103017	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103018	ERROR	LifeKeeper was unable to start database partition server "%s" for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスの起動が失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"restore" 操作を再試行してください。</p>
103020	ERROR	LifeKeeper was unable to stop the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"remove" 操作を再試行してください。</p>
103021	ERROR	LifeKeeper was unable to stop the database server for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"remove" 操作を再試行してください。</p>
103023	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103024	ERROR	LifeKeeper was unable to stop database partition server "%s" for instance "%s"	<p>原因: 要求された DB2 インスタンスのシャットダウンが失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"remove" 操作を再試行してください。</p>
103026	ERROR	Unable to get the instance nodes information for resource "%s"	<p>原因: インスタンスノードの取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103027	FATAL	The argument for the DB2 instance is empty	<p>原因: 作成操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103028	FATAL	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じことを確認し、操作を再試行してください。</p>
103029	FATAL	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103030	FATAL	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103031	ERROR	The path "%s" is not on a shared filesystem	<p>原因: インスタンスのホームディレクトリは、共有ファイルシステム上になければなりません。</p> <p>処置: パスが共有ファイルシステム上にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103032	ERROR	LifeKeeper was unable to get the DB tablespace containers for instance "%s" or the log path for one of its databases	<p>原因: LifeKeeper はデータベースのテーブルスペースコンテナの場所を特定できなかったか、コンテナがマウント済みのファイルシステム上のパスにあることを確認できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。レポートされているエラーを修正してから、"create" 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103033	ERROR	The path "%s" is not on a shared filesystem	<p>原因: データベースのテーブルスペースコンテナのパスは、共有ファイルシステム上になければなりません。</p> <p>処置: データベースのテーブルスペースコンテナが共有ファイルシステム上にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103034	ERROR	A DB2 Hierarchy already exists for instance "%s"	<p>原因: LifeKeeper によってすでに保護されている DB2 インスタンスを保護しようとした。</p> <p>処置: 別の DB2 インスタンスを LifeKeeper の保護用に選択する必要があります。</p>
103035	ERROR	The file system resource "%s" is not in-service	<p>原因: DB2 リソースが依存するファイルシステムは in service である必要があります。</p> <p>処置: ファイルシステムリソースが in service であることを確認して、"create" 操作をもう一度行ってください。</p>
103036	ERROR	Unable to create the hierarchy for raw device "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、リソース {raw device} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから "create" 操作を再試行する必要があります。</p>
103037	ERROR	A RAW hierarchy does not exist for the tag "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、raw リソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103038	ERROR	LifeKeeper was unable to create a dependency between the DB2 hierarchy "%s" and the Raw hierarchy "%s"	<p>原因: 要求された親 DB2 リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、"create" 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103039	ERROR	LifeKeeper could not disable the automatic startup feature of DB2 instance "%s"	<p>原因: DB2 の設定を更新しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にインスタンスが自動で起動されないようにするために、DB2AUTOSTART を手動で更新する必要があります。</p>
103040	ERROR	DB2 version "%s" is not installed on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は DB2 のインストール場所を見つけられませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103041	ERROR	The instance owner "%s" does not exist on target server "%s"	<p>原因: "canextend" 操作または "extend" 操作の間にテンプレートサーバから DB2 インスタンスの所有者を取得できませんでした。</p> <p>処置: 指定したサーバに DB2 インスタンスの所有者が存在していることを確認してください。所有者が存在しない場合、クラスタ内のすべてのサーバで、同じ uid および gid を使用して作成する必要があります。</p>
103042	ERROR	The instance owner "%s" uids are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスの所有者 {user} のターゲットサーバ {target server} のユーザ ID が、テンプレートサーバ {template server} のユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のユーザ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。ユーザ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103043	ERROR	The instance owner "%s" gids are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスの所有者 {user} のターゲットサーバ {target server} のグループ ID が、テンプレートサーバ {template server} のユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のグループ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。グループ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>
103044	ERROR	The instance owner "%s" home directories are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} のユーザ {user} のホームディレクトリが、テンプレートサーバ {template server} の DB2 インスタンスの所有者のホームディレクトリと一致しません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの所有者 {user} のホームディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。ディレクトリの不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>
103045	ERROR	LifeKeeper was unable to get the DB2 "SVCENAME" parameter for the DB2 instance	<p>原因: "db2 get dbm cfg" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103046	ERROR	Unable to get the value of the DB2 "SVCENAME" parameter for the DB2 instance %s.	<p>原因: DB2 の "SVCENAME" パラメータが null に設定されています。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103047	ERROR	LifeKeeper was unable to get the contents of the "/etc/services" file on the server "%s"	<p>原因: "テンプレートサーバの /etc/services" に、DB2 インスタンスのサービス名が含まれていません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの "/etc/services" 内のサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103048	ERROR	LifeKeeper was unable to get the contents of the "/etc/services" file on the server "%s"	<p>原因: "ターゲット サーバの /etc/services" に、DB2 インスタンスのサービス名が含まれていません。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの "/etc/services" 内のサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>
103049	ERROR	The "/etc/services" entries for the instance "%s" are different on target server "%s" and template server "%s"	<p>原因: インスタンスの "/etc/services" エントリに不一致があります。</p> <p>処置: DB2 インスタンスの "/etc/services" 内のサービス名は、クラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。サービス名の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、"canextend" 操作を再試行する必要があります。</p>
103050	ERROR	The home directory "%s" for instance "%s" is not mounted on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper はマルチパーティションインスタンス用の db2nodes.cfg を見つけられませんでした。</p> <p>処置: ホームディレクトリがマウントされていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103051	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: テンプレートサーバからのリソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
103052	ERROR	LifeKeeper was unable to add instance "%s" and/or its variables to the DB2 registry	<p>原因: "db2iset" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103054	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103055	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103060	ERROR	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じことを確認し、操作を再試行してください。</p>
103061	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103062	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスの該当するノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103063	ERROR	Unable to determine the DB2 install path	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、そのインスタンスのDB2を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103065	ERROR	Invalid input provided for "%s" utility operation, characters are not allowed.	<p>原因: "nodes" コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103066	ERROR	Unable to get the information for resource "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、リソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103067	ERROR	The DB2 instance "%s" is not a EEE or Multiple Partition instance	<p>原因: リソースタグ {tag} はシングルパーティションインスタンスです。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103069	ERROR	Node "%s" is already protected by this hierarchy	<p>原因: "nodes" コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103070	ERROR	Node number "%s" is the last remaining node protected by resource "%s".Deleting all nodes is not allowed.	<p>原因: "nodes" コマンドで無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
103071	ERROR	LifeKeeper is unable to get the equivalent instance for resource "%s"	<p>原因: "nodes" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103072	ERROR	Unable to set NodesInfo for resource "%s" on "%s"	<p>原因: "nodes" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103073	ERROR	Unable to set NodesInfo for resource "%s" on "%s"	<p>原因: "nodes" コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
103076	ERROR	Unable to determine the DB2 instance type	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのタイプを特定できませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
103077	ERROR	Unable to determine the DB2 instance home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じことを確認し、操作を再試行してください。</p>
103078	ERROR	The database server is not running for instance "%s"	<p>原因: DB2 インスタンスのプロセスチェックで、実行中のプロセスが見つかりませんでした。</p> <p>処置: DB2 インスタンスを開始してください。</p>
103079	ERROR	LifeKeeper has detected an error while trying to determine the node number(s) of the DB partition server(s) for the instance	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのノードを見つけることができませんでした。</p> <p>処置: DB2 の設定を確認してください。</p>
103080	ERROR	One or more of the database partition servers for instance "%s" is down	<p>原因: すべてのデータベースパーティションサーバが実行されている必要があります。</p> <p>処置: すべてのデータベースパーティションサーバが実行されていることを確認し、操作を再試行してください。</p>
103082	ERROR	Failed to create flag "%s"	<p>原因: DB2 ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
103083	ERROR	Failed to remove flag "%s"	<p>原因: DB2 ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを削除しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
103084	ERROR	Unable to determine the DB2 instance \"%Instance\" home directory	<p>原因: DB2 Application Recovery Kit は、DB2 インスタンスのホームディレクトリを特定できませんでした。</p> <p>処置: インスタンスの所有者の名前がインスタンス名と同じことを確認し、操作を再試行してください。</p>

DMMP Kit メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128005	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: オペレーティングシステムの信号 {signal} によって {server} 上の {resource} の quickCheck が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128008	ERROR	Usage: quickCheck -t <tag name> -i <id>	<p>原因: dmmp デバイスの quickCheck コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: すべてのソフトウェアコンポーネントの正しいバージョンが適切にインストールされていることを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (quickCheck 対象の dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128010	ERROR	quickCheck for "%s" failed checks of underlying paths, initiate recovery.retry count=%s.	<p>原因: dmmp キットが {count} 回の試行後、デバイスの quickCheck に失敗しました。保護されている dmmp リソースのリカバリが実行されます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128021	ERROR	unable to find device for uuid "%s".	<p>原因: restore 操作時に一意の ID を使用してデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。リストア対象の dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス ID でコマンドを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128025	ERROR	Device "%s" failed to unlock.	<p>原因: restore 操作時に正常に動作していない {device} が検出され、ロック解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128026	ERROR	Device "%s" failed to lock.	<p>原因: restore 時に {device} をロックできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128031	ERROR	unable to find device for uuid "%s".	<p>原因: 削除操作時に一意の ID を使用してデバイスを見つけられませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。削除対象の dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス ID でコマンドを再実行してください。</p>
128034	ERROR	Device "%s" failed to unlock.	<p>原因: remove 時に {device} をロック解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128036	ERROR	unable to load existing information for device with uuid "%s".	<p>原因: 一意の ID を使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス ID でコマンドを再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128037	ERROR	unable to load existing information for device "%s".	<p>原因: 名前を使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイス名でコマンドを再実行してください。</p>
128038	ERROR	unable to load existing information for device, no dev or uuid defined.	<p>原因: 一意のデバイスID もデバイス名も指定されていないため、デバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイスID またはデバイス名でコマンドを再実行してください。</p>
128041	ERROR	unable to load existing information for device with uuid "%s".	<p>原因: 一意のID を使用してデバイス情報を読み込めませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。dmmp デバイスリソースを特定する正しいデバイスID でコマンドを再実行してください。</p>
128057	ERROR	All paths are failed on "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp デバイスへのすべてのパスが障害状態にあることを検出しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128058	ERROR	could not determine registrations for "%s"!All paths failed.	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の登録を特定できませんでした。dmmp {device} へのすべてのパスが障害状態にあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128059	WARN	path "%s" no longer configured for "%s", remove from path list.	<p>原因: LifeKeeper が検出した保護対象の {device} への {path} は、現在は有効ではなく、パスリストから削除されます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128060	WARN	registration failed on path "%s" for "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の {path} の登録を特定できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128062	ERROR	all paths failed for "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、保護対象の dmmp {device} の有効なパスを確認できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128072	ERROR	The daemon "%s" does not appear to be running and could not be restarted.Path failures may not be correctly handled without this daemon.	<p>原因: LifeKeeper は dmmp デーモンが実行されていることを確認できなかったため、デーモンを再起動できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128078	ERROR	"%s" resource type is not installed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスをサポートするための Device Mapper Multipath Recovery Kit がシステムにインストールされていません。</p> <p>処置: steeleye-ikDMMP Device Mapper Multipath Recovery Kit rpm をシステムにインストールしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128083	ERROR	This script must be executed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトの引数に不正なシステム名が指定されました。</p> <p>処置: クラスタノードとコミュニケーションパスが適切に設定されていることを確認してください。devicehier スクリプトに正しいシステム名を指定してください。この名前は、コマンドを実行するシステムの名前に一致する必要があります。</p>
128084	ERROR	The device %s is not active.	<p>原因: リソース作成時に LifeKeeper は、指定された {device} をシステム上の有効なデバイスとして見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (作成する dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128086	ERROR	Failed to create "%s" hierarchy.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} のためのリソース階層を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128088	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} で {tagname} を使用してリソースを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128090	ERROR	Failed to create dependency "%s"-"%s" on system "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、{system} で依存関係 {resource tag name} - {resource tag name} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128091	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{system} で {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128101	ERROR	"%s" constructor requires a valid argument.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースのオブジェクトを作成できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。-t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128102	ERROR	Invalid tag "%s".	<p>原因: 指定されたタグ名のリソースインスタンスが見つかりませんでした。</p> <p>処置: リソースが正しく設定されていることを確認してください。次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128111	ERROR	Failed to get registrations for "%s":%s.Verify the storage supports persistent reservations.	<p>原因: LifeKeeper は、メッセージ "bad field in Persistent reservation in cdb" を出して {device} の登録の取得に失敗しました。</p> <p>処置: このストレージでパーシステントリザベーションがサポートされているか確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128112	ERROR	Failed to get registrations for "%s":%s.Verify the storage supports persistent reservations.	<p>原因: LifeKeeper は、メッセージ "illegal request" を出して {device} の登録の取得に失敗しました。</p> <p>処置: このストレージでパーシステントリザベーションがサポートされているか確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128136	ERROR	A previous quickCheck with PID "%s" running for device "%s" has been terminated.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの restore 操作時に前の quickCheck がまだ実行中であることを検出しました。LifeKeeper は quickCheck を終了しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128137	ERROR	SCSI reservation conflict on %s during LifeKeeper resource initialization.Manual intervention required.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの restore 操作時に {device} で SCSI リザベーションのコンフリクトを検出しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。手動による介入および {device} でのリザベーションコンフリクトの解消が必要です。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128138	ERROR	unable to clear registrations on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} 上のすべての登録を消去できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128140	WARN	registration failed on path %s for %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} の {path} の登録を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128143	ERROR	reserve failed (%d) on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} 上の {resource} の登録を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128145	ERROR	The server ID "%s" returned by "%s" is not valid.	<p>原因: LifeKeeper は有効な Host {ID} の生成に失敗しました。</p> <p>処置: デバイスを登録するための ID は、クラスタ内のサーバを一意に特定する 1 ~ 12 桁の 16 進数で構成されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128146	ERROR	device failure on %s.SYSTEM HALTED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。サーバを再起動します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128148	ERROR	device failure on %s.SYSTEM HALTED DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。LifeKeeper の設定によって、再起動はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。"SCSIHALT" 設定を有効にして、いかなるデバイス障害が検出されたときも再起動が行われるようにしてください。</p>
128149	ERROR	device failure or SCSI Error on %s.SENDEVENT DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {device} で障害を検出しました。LifeKeeper の設定によって、イベント生成はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。"SCSIEVENT" 設定を有効にして、いかなるデバイス障害が検出されたときも sendevent が行われるようにしてください。</p>
128150	ERROR	%s does not have EXCLUSIVE access to %s, halt system.	<p>原因: LifeKeeper は {server} の {device} でリザーベーションコンフリクトを検出しました。サーバを再起動します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
128151	ERROR	%s does not have EXCLUSIVE access to %s, halt system DISABLED.	<p>原因: LifeKeeper は {server} の {device} でリザーベーションコンフリクトを検出しました。LifeKeeper の設定によって、再起動はスキップされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。"RESERVATIONCONFLICT" 設定を有効にして、いかなるデバイス障害が検出されたときも再起動が行われるようにしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128154	WARN	unable to flush buffers on %s.	<p>原因: LifeKeeper は、dmmp リソースの削除時に {device} のバッファを消去できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128157	WARN	%s utility not found, limited healthcheck for %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{device} の健全性チェックを行う "dd" ユーティリティを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128160	ERROR	%s failed to read %s.	<p>原因: LifeKeeper は、{utility} の使用中に {device} のディスク I/O テストに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128163	ERROR	Registration ID "%s" for "%s" is not valid.	<p>原因: LifeKeeper は {device} の有効な登録 {ID} の生成に失敗しました。</p> <p>処置: デバイスを登録するための ID は、デバイスへのパスに由来する 4 桁の 16 進数で構成されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128170	ERROR	Usage: canextend <Template system name> <Template tag name>	

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128500	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの restore コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -t <Resource Tag> および -i <Resource ID> (リストアする dmmp デバイスリソースを特定する ID)</p>
128504	ERROR	"%s" resource type is not installed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスをサポートするための Device Mapper Multipath Recovery Kit がシステムにインストールされていません。</p> <p>処置: steeleye-ikDMMP Device Mapper Multipath Recovery Kit rpm をシステムにインストールしてください。</p>
128506	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの devShared コマンドに不正な引数が指定されたため、コマンドが実行できませんでした。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。<Template Resource System Name> および <Template Resource Tag> (作成する dmmp デバイスリソースを特定するタグ)</p>
128507	FATAL	This script must be executed on "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトの引数に不正なシステム名が指定されました。</p> <p>処置: devicehier スクリプトに正しいシステム名を指定してください。この名前は、コマンドを実行するシステムの名前に一致する必要があります。</p>
128511	ERROR	Failed to get the ID for the device "%s". Hierarchy create failed.	<p>原因: dmmp デバイスリソースを作成するための devicehier スクリプトは、指定されたデバイスの SCSI ID を特定できませんでした。</p> <p>処置: 指定されたデバイスパスが存在すること、およびそのパスがサポート対象の SCSI ストレージアレイのパスであることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128512	ERROR	Failed to get the disk ID for the device "%s".Hierarchy create failed.	<p>原因: dmmp ディスクリソースを作成するための devicehier スクリプトは、指定されたディスクの SCSI ID を特定できませんでした。</p> <p>処置: 指定されたデバイスパスが存在すること、およびそのパスがサポート対象の SCSI ストレージアレイのパスであることを確認してください。</p>
128513	ERROR	Failed to create the underlying resource for device "%s".Hierarchy create failed.	<p>原因: ベースとなる dmmp ディスクリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128515	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: dmmp デバイスリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128517	ERROR	Failed to create dependency "%s"-"%s" on system "%s".	<p>原因: dmmp デバイスリソースと dmmp ディスクリソースとの間の親 / 子の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
128519	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: 新しく作成した dmmp デバイスリソースを in service にする操作が失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
128521	ERROR	Either TEMPLATESYS or TEMPLATETAG argument missing	<p>原因: dmmp デバイスリソースの extend コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: テンプレートシステムおよびタグの正しい名前を指定して dmmp デバイスリソースの extend を再実行してください。</p>
128540	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスの SCSI ID を取得する getid コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -i <device path> または -b <device ID>。</p>
128541	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスリソースを削除するコマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -t <dmmp device resource tag>。</p>
128543	ERROR	device node \" <code>\$dev</code> \" does not exist.	<p>原因: dmmp デバイスリソースをリストアするために必要なデバイスノードが存在しません。restore 時に udev デバイスの作成に割り当てられている待機時間を越えました。</p> <p>処置: udev がデバイスを作成した後に dmmp デバイスリソースの restore を再実行してください。</p>
128544	ERROR	Usage error	<p>原因: dmmp デバイスリソースを out of service にする remove コマンドに不正な引数が指定されました。</p> <p>処置: 次の正しい引数を指定してコマンドを再実行してください: -t <dmmp device resource tag>。</p>

EC2 Kit メッセージカタログ

Control Fを使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129100	FATAL	Failed to load instance from LifeKeeper.	原因: 無効なリソースタグまたは ID が指定されました。 処置: タグまたは ID が有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。
129103	FATAL	No resource matches tag \"\${self->{tag}}\".	原因: 無効なリソースタグが指定されました。 処置: タグが有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。
129104	FATAL	An error occurred setting LifeKeeper resource information	原因: LifeKeeper で内部エラーが発生しました。
129108	ERROR	Missing parameter \"\${param}\" in ec2 resource object	原因: これは内部エラーです。
129110	ERROR	Could not get the Elastic Network Interface ID for \$dev	原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。 処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。
129111	ERROR	Failed to get Allocation ID of Elastic IP \"\${elasticIp}\".	原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。 処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。
129112	ERROR	Cannot find curl executable.steeleye-curl パッケージがインストールされていることを確認してください。	原因: steeleye-curl がインストールされていない場合は、インストールしてください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129113	ERROR	Failed to get my instance ID.	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129114	ERROR	Failed to get ENI ID.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129115	ERROR	Failed to associate Elastic IP, retrying \$i/\$MAX_RETRY	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129116	ERROR	Failed to associate Elastic IP \"\${EIP}\" on \"\${DEV}\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129117	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP, retrying \$i/\$MAX_RETRY	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129118	WARN	\${EIP} is not associated with any instance.	<p>原因: Elastic IP がインスタンスに関連付けられていません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129119	WARN	\$self->{'EIP'} is associated with another instance.	<p>原因: Elastic IP が別のインスタンスに関連付けられています。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129120	ERROR	Failed to recover Elastic IP.	<p>原因: EC2 API が Elastic IP の関連付けに失敗しました。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129121	ERROR	Recovery process ended but Elastic IP is not associated with this instance.Please check AWS console.	<p>原因: EC2 API が Elastic IP の関連付けに失敗しました。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129122	ERROR	Error creating resource \"\${target_tag}\" with return code of \"\${err}\".	<p>原因: LifeKeeper がサーバ上にリソースインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129123	ERROR	Failed to get ENI ID.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129124	WARN	\$self->{'EIP'} is associated with another network interface.	<p>原因: Elastic IP は正しいインスタンスに関連付けられていますが、ENI が正しくありません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129125	ERROR	Link check failed for interface \"'\$dev'\".	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>
129126	ERROR	Link check failed for interface \"'\$dev'\".Reason: down slave.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>
129129	WARN	The link for network interface \"'\$self->{'DEV'}'\" is down.Attempting to bring the link up.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: LifeKeeper は、リンクをアップ状態にして Elastic IP とインターフェースを関連付けることにより、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129137	ERROR	The link for network interface \"'\$self->{'DEV'}'\" is still down.	<p>原因: LifeKeeper がリンクをアップ状態にできませんでした。</p> <p>処置: インターフェースが有効であり、アップ状態であることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129139	WARN	The link for network interface \"'\$self->{'DEV'}'\" is down.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、リンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: ネットワークインターフェースを確認し、リンクをアップ状態にしてください。</p>
129140	ERROR	Could not get ENI ID for \$self->{IP}.	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129141	ERROR	Could not update route table, retrying \$i/\$MAX_RETRY (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129142	ERROR	Failed to update route table	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129143	ERROR	You must have exactly one IP address resource as the parent of the RouteTable EC2 resource.Please reconfigure your resource hierarchy.	<p>原因: ルートテーブルの EC2 リソースは親として IP リソースを 1 つのみ持つ必要があります。</p> <p>処置: 必要に応じてリソース階層を修復してください。</p>
129144	ERROR	\$func called with invalid timeout:\$timeout	<p>原因: /etc/default/LifeKeeper ファイルに無効なタイムアウト値が指定されました。</p> <p>処置: /etc/default/LifeKeeper 内にあるすべての EC2_*_TIMEOUT 設定が正しいことを確認してください。</p>
129145	ERROR	\$func action timed out after \$timeout seconds	<p>原因: タイムアウト期間中に動作が完了しませんでした。</p> <p>処置: その動作の EC2_*_TIMEOUT 値 (/etc/default/LifeKeeper 内) を増加することを検討してください。</p>
129146	ERROR	failed to run \$func with timeout:\$@	<p>原因: これは内部エラーです。</p>
129148	ERROR	Amazon ec2-describe-route-tables call failed (err=%s) (output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129150	ERROR	Elastic IP \"\$elasticIp\" is associated with another instance.	<p>原因: Elastic IP が正しいインスタンスに関連付けられていません。</p> <p>処置: LifeKeeper は Elastic IP を関連付ける EC2 API を呼び出して、問題の修正を試行します。隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
129151	ERROR	Could not get the Association ID for Elastic IP \"\$elasticIp\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129152	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP \"\$self->{'EIP'}\" on \"\$self->{'DEV'}\".	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129153	ERROR	Failed to disassociate Elastic IP \"\$elasticIp\", (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129154	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129155	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s) (output=%s)	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129156	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129157	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129158	ERROR	curl call failed (err=%s)(output=%s	<p>原因: EC2 インスタンスのメタデータのアクセスに失敗しました。</p> <p>処置: Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129159	ERROR	Amazon ec2-associate-address call failed (err=%s) (output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129160	ERROR	Amazon ec2-describe-addresses call failed (err=%s) (output=%s	<p>原因: EC2 API の呼び出しに失敗しました。ネットワークの問題と考えられます。</p> <p>処置: ネットワークと Amazon コンソールを確認し、操作を再試行してください。</p>
129161	ERROR	Error deleting resource \"\$otherTag\" on \"\$otherSys\" with return code of \"\$err\".	<p>原因: LifeKeeper がサーバ上のリソースインスタンスを削除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129403	ERROR	END failed create of \$TAG due to a \$sig signal	<p>原因: 作成プロセスがシグナルによって中断されました。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
129409	ERROR	The IP resource \$IP_RES is not \"ISP\".	<p>原因: IP リソースが in service ではありません。</p> <p>処置: リソースを in service にして、操作をもう一度行ってください。</p>
129410	ERROR	Could not find IP resource \$IP_RES	<p>原因: IP リソースが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
129412	ERROR	EC2 resource \$ID is already protected	<p>原因: 指定した ID を持つリソースはすでに存在しています。</p> <p>処置: 残っている古いリソースをすべてクリーンアップしてから、新しいリソースを再作成してください。</p>
129413	ERROR	Failed to encrypt AWS_SECRET_KEY	<p>原因: AWS_ACCESS_KEY と AWS_SECRET_KEY が正しく入力されていることを確認してください。</p>
129416	ERROR	Error creating resource \"\$TAG\" with return code of \"\$!cderror\".	<p>原因: LifeKeeper がリソースインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129418	ERROR	Dependency creation between \"\$IP_RES\" and \"\$TAG\" failed with return code of \"\$!cderror\".	<p>原因: LifeKeeper がリソースの依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129420	ERROR	In-service failed for tag \"\$TAG\".	<p>原因: LifeKeeper がリソースインスタンスを in service にできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
129800	ERROR	canextend checks failed for \"\$self->{tag}\" (err=\$ret	<p>原因: ターゲットサーバで拡張前のチェックに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

ファイルシステムキット メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124004	FATAL	resource tag name not specified	<p>原因: "quickCheck" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 正しい引数が渡されたことを確認してください。</p>
124005	FATAL	resource id not specified	<p>原因: "quickCheck" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 正しい引数が渡されたことを確認してください。</p>
124007	FATAL	Failed to get resource information	<p>原因: ファイルシステムリソースの情報フィールドに正しい情報が含まれていません。</p> <p>処置: リソースの情報フィールドに正しい情報を入力するか、最近の "lkbackup" からシステムをリストアして元の情報フィールドをリストアします。</p>
124008	ERROR	getId failed	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本 ディスクデバイスを見つけれませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。リソース階層が有効であること、および必要なストレージキットがすべてインストールされていることを確認してください。</p>
124009	ERROR	LifeKeeper protected filesystem is in service but quickCheck detects the following error	<p>原因: ファイルシステムキットはリソースに問題を見しました。</p> <p>処置: この直後に表示されるメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124010	ERROR	"\$id" is not mounted	<p>原因: ファイルシステムリソースがマウントされていません。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124011	ERROR	"\$id" is mounted but with the incorrect mount options (current mount option list:\$mntopts, expected mount option list:\$infopts)	<p>原因: ファイルシステムリソースが不正にマウントされています。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124012	ERROR	"\$id" is mounted but on the wrong device (current mount device:\$tmpdev, expected mount device:\$dev)	<p>原因: ファイルシステムリソースに誤ったデバイスがマウントされています。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。ローカルリカバリでリソースの再マウントを許可してください。</p>
124015	ERROR	LifeKeeper protected filesystem "\$tag" (\$id) is \$percent% full (\$blocksfree free blocks).	<p>原因: ファイルシステムの空き容量が間もなく不足します。</p> <p>処置: ファイルシステムからデータを削除または移行してください。</p>
124016	WARN	LifeKeeper protected filesystem "\$tag" (\$id) is \$percent%% full (\$blocksfree free blocks).	<p>原因: ファイルシステムの空き容量が間もなく不足します。</p> <p>処置: ファイルシステムからデータを削除または移行してください。</p>
124020	FATAL	cannot find device information for filesystem \$id	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本ディスクデバイスを見つけれませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。リソース階層が有効であること、および必要なストレージキットがすべてインストールされていることを確認してください。</p>
124029	ERROR	Failed to find child resource.	<p>原因: ファイルシステムリソースは基本ディスクリソースを特定できませんでした。</p> <p>処置: リソース階層が正しいことを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124032	FATAL	Script has hung.Exiting.	<p>原因: アンマウントする必要があるものの、マウントされているファイルシステムに開かれているファイルが複数のプロセスにありました。それらのプロセスの終了に時間がかかりすぎています。</p> <p>処置: このエラーが続く場合は、マウントポイントを使用している可能性のあるすべてのソフトウェアを一時的に停止し、アンマウントできるようにしてください。ファイルシステムをそれでもアンマウントできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124042	ERROR	file system \$fsname failed unmount; will try again	<p>原因: アンマウントする必要があるものの、マウントされているファイルシステムに開かれているファイルが複数のプロセスにありました。場合によっては、それらのプロセスを消去するために、何度か操作を実行する必要があります。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。プロセスをそのまま続行してください。</p>
124046	ERROR	file system \$fsname failed unmount	<p>原因: ファイルシステムをアンマウントできませんでした。</p> <p>処置: このエラーが続く場合は、マウントポイントを使用している可能性のあるすべてのソフトウェアを一時的に停止し、アンマウントできるようにしてください。ファイルシステムをそれでもアンマウントできない場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124049	ERROR	Local recovery of resource has failed (err=\$err	<p>原因: ファイルシステムリソースに、ローカルでは修正できない問題があります。</p> <p>処置: 処置は必要ありません。リソースを別のシステムにフェイルオーバーできるようにしてください。</p>
124103	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124104	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: canextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数が正しいことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124105	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: canextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数が正しいことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124106	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"\$TemplateName\"	<p>原因: リソースの基本ディスク情報を特定できませんでした。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124107	ERROR	\$ERRMSG Resource \"\$TemplateName\" must have one and only one device resource dependency	<p>原因: リソースの階層にある基本デバイスが多すぎます。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124108	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"\$TemplateName\"	<p>原因: テンプレートシステムでリソースを見つけられません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124109	ERROR	\$ERRMSG Can not access canextend for scsi/\$DeviceResType resources on machine \"\$TargetSysName\"	<p>原因: ターゲットシステムに、必須のコンポーネントがいくつか見つかりません。</p> <p>処置: ターゲットシステムに正しいキットがすべてインストールされ、ライセンスされていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124110	ERROR	\$ERRMSG Either filesystem \"\${TemplateLKId}\" is not mounted on \"\${TemplateSysName}\" or filesystem is not shareable with \"\${TargetSysName}\"	<p>原因: ファイルシステムがテンプレートシステムのサービス内にはないか、ターゲットシステムに拡張するための要件を満たしていません。</p> <p>処置: リソースがテンプレートシステムのサービス内にあることを確認し、ファイルシステムを拡張するための要件に関する製品ドキュメントを参照してください。</p>
124111	ERROR	\$ERRMSG File system type \"\${FSType}\" is not supported by the kernel currently running on \"\${TargetSysName}\"	<p>原因: カーネルのサポートがないため、ファイルシステムのタイプをターゲットシステムにマウントできません。</p> <p>処置: ターゲットシステムにそのカーネルモジュールがすべてインストールされており、正常に設定されていることを確認してから、リソースを拡張してください。</p>
124112	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124113	ERROR	must specify primary ROOT tag	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124114	ERROR	must specify primary mount point	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124115	ERROR	must specify primary switchback type	<p>原因: creFShier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。</p>
124118	ERROR	dep_remove failure on machine \"\"\$PRIMACH\"\" for parent \"\${PRITAG}\" and child \"\${DEVTAG}\"	<p>原因: 従属関係の作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124119	ERROR	ins_remove failure on machine \"'\$PRIMACH'\\" for \"'\$PRITAG.\	<p>原因: インスタンスの作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124121	ERROR	ins_remove failure on machine \"'\$PRIMACH'\	<p>原因: リソースの作成後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124122	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124123	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: depstoextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124124	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: depstoextend 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124125	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"'\$TemplateName\	<p>原因: リソースが基本ディスクリソースを特定できませんでした。</p> <p>処置: 階層とすべての依存関係が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124126	ERROR	unextmgr failure on machine \"'\$PRIMACH'\	<p>原因: 失敗したリソース拡張操作の後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 残りのリソースを手動でクリーンアップし、隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124128	ERROR	unextmgr failure on machine \"'\$PRIMACH'\" for \"'\$PRITAG.\ \"	<p>原因: 失敗したリソース拡張操作の後のクリーンアップに失敗しました。</p> <p>処置: 残りのリソースを手動でクリーンアップし、隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124129	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 追加のログメッセージを探して、詳細を確認してください。</p>
124130	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124131	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124132	ERROR	\$ERRMSG Required target mount point is null	<p>原因: 拡張操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124133	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template resource \"'\$TemplateTagName\ \"	<p>原因: 拡張中のタグがテンプレートシステムに存在しません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124134	ERROR	\$ERRMSG Detected conflict in expected tag name \" <code>\$\$\$TargetTagName</code> \" on target machine.	<p>原因: 拡張するリソースと同じタグのリソースがすでにターゲットシステムにあります。</p> <p>処置: 競合しているリソースのどちらか一方を別のタグで再作成してください。</p>
124135	ERROR	\$ERRMSG Resource \" <code>\$\$\$TemplateName</code> \" does not have required device resource dependency or unable to access this resource on template machine.	<p>原因: リソースまたは基本 ディスクリソースがテンプレートシステムで見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
124136	ERROR	\$ERRMSG Resource \" <code>\$\$\$TemplateName</code> \" must have one and only one device resource dependency	<p>原因: リソースは、テンプレートシステムの階層内に複数の基本 デバイスを持っています。</p> <p>処置: 拡張する前に階層が正しいことを確認し、ファイルシステムリソースが単一のディスクリソースにのみ依存していることを確認してください。</p>
124137	ERROR	\$ERRMSG Can not access extend for scsi/ <code>\$\$\$DeviceResType</code> resources on machine \" <code>\$\$\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: 所定のストレージタイプのサポートに必要なファイルがターゲットシステムにありません。</p> <p>処置: 必要なキットがターゲットシステムにインストールされ、ライセンスされていることを確認してください。</p>
124138	ERROR	\$ERRMSG Unable to access target device resource \" <code>\$\$\$DeviceTagName</code> \" on machine \" <code>\$\$\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: 必要な基本 ディスクリソースがターゲットシステムに存在していません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、ターゲットシステムが拡張対象リソースをホストするために正常に設定されていることを確認してください。</p>
124139	ERROR	\$ERRMSG Unable to access template \" <code>/etc/mstab</code> \" file	<p>原因: ターゲットシステムがテンプレートシステムの <code>/etc/mstab</code> ファイルを読み取ることができません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。 <code>/etc/mstab</code> ファイルがテンプレートシステムに存在することを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124140	ERROR	\$ERRMSG Unable to find mount point entry \" <code>\$\$\$TemplateLkId</code> \" in template \" <code>/etc/mtab</code> \" file. Is template resource in-service?	<p>原因: リソースがテンプレートシステムにマウントされていないようです。</p> <p>処置: リソースがサービス中であることを確認してから拡張してください。</p>
124141	ERROR	\$ERRMSG Unable to find mount point \" <code>\$\$\$TemplateLkId</code> \" mode on template machine	<p>原因: テンプレートシステムのマウントポイント詳細を特定できません。</p> <p>処置: リソースがサービス中で、テンプレートシステムでアクセス可能であることを確認してから拡張してください。</p>
124142	ERROR	\$ERRMSG Unable to create or access mount point \" <code>\$\$\$TargetLkId</code> \" on target machine	<p>原因: ターゲットシステムでマウントポイントを作成できませんでした。</p> <p>処置: マウントポイントの親ディレクトリが存在し、ターゲットシステムでアクセス可能であることを確認してください。</p>
124143	ERROR	\$ERRMSG Two or more conflicting entries found in <code>/etc/fstab</code> on \" <code>\$\$\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: デバイスまたはマウントポイントはターゲットシステムで複数回マウントされているようです。</p> <p>処置: マウントポイントがターゲットシステムにマウントされていないことを確認してから拡張してください。</p>
124144	ERROR	\$ERRMSG Failed to create resource instance on \" <code>\$\$\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: ターゲットシステムでのリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。ターゲットサーバでログを必ず確認してください。</p>
124145	ERROR	\$ERRMSG Failed to set resource instance state for \" <code>\$\$\$TargetTagName</code> \" on \" <code>\$\$\$TargetSysName</code> \"	<p>原因: ターゲットシステムでソースの状態をOSUに変更できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124146	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	<p>原因: filesyshier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124147	ERROR	must specify primary mount point	<p>原因: filesyshier 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124149	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: リソースインスタンスを検索するプロセスが失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124150	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: システムが/etc/mstab ファイルの読み取りに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124151	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: マウントポイントを/etc/mstab ファイルで見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124152	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: 基本ディスクリソースを見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124153	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: ファイルシステムリソースの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124154	ERROR	create file system hierarchy failure	<p>原因: リソースの情報フィールドを更新できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124155	ERROR	create file system hierarchy failure	原因: スイッチバック戦略をリソースで設定できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124157	ERROR	create file system hierarchy failure \(\conflicting entries in /etc/fstab\)	原因: マウントポイントを/etc/fstab ファイルから削除できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124160	ERROR	Unknown error in script filesysins, err=\$err	原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124161	ERROR	create filesys instance - existid - failure	原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124163	ERROR	create filesys instance - ins_list - failure	原因: 既存のリソースの確認に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124164	ERROR	create filesys instance - newtag - failure	原因: システムはリソースの推奨タグの生成に失敗しました。 処置: 通常でこのエラーが発生した場合は、サポートにお問い合わせください。
124168	ERROR	create filesys instance - ins_create - failure	原因: ミファイルシステムリソースを作成できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124169	ERROR	filesys instance - ins_setstate - failure	原因: 新しいファイルシステムリソースの状態を初期化できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。
124173	ERROR	create filesys instance - dep_create - failure	原因: 基本ディスクに対するリソースの依存関係を作成できませんでした。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124174	ERROR	machine not specified	<p>原因: rmenu_mp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124175	ERROR	mount point not specified	<p>原因: rmenu_mp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124177	ERROR	unexpected multiple matches found	<p>原因: 1 つまたは複数のシステムが、複数回使用されたファイルシステムまたはマウントポイントを示しています。</p> <p>処置: ファイルシステムデバイスとマウントポイントを確認し、ファイルシステムが1回だけマウントされていることを確認してください。追加のログメッセージを探して、詳細を確認してください。</p>
124178	ERROR	machine name not specified	<p>原因: rmenu_mp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124180	ERROR	must specify filesystem type	<p>原因: validfstype 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>
124181	ERROR	mount point not specified	<p>原因: validmp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124182	ERROR	The mount point \$MP is not an absolute path	<p>原因: 絶対パスではない(「/」で始まらない) マウントポイントが指定されました。</p> <p>処置: 「/」で始まる絶対パスでマウントポイントを指定してください。</p>
124183	ERROR	\$MP is already mounted on \$MACH	<p>原因: 要求されたマウントポイントはシステムですでに使用中です。</p> <p>処置: 使用中ではないマウントポイントを指定するか、操作を再試行する前にアンマウントしてください。</p>
124184	ERROR	The mount point \$MP is already protected by LifeKeeper on \$MACH	<p>原因: システムは、指定したマウントポイントをすでに保護しています。</p> <p>処置: まだ保護されていない別のマウントポイントを選択してください。</p>
124185	ERROR	The mount point \$MP is not a directory on \$MACH	<p>原因: マウントポイントが通常のファイルなどの非ディレクトリを参照しています。</p> <p>処置: ディレクトリを参照するマウントポイントを選択してください。</p>
124186	ERROR	The mount point directory \$MP is not empty on \$MACH	<p>原因: 指定したマウントポイントは空でないディレクトリを参照します。</p> <p>処置: 空のマウントポイントを選択するか、指定したディレクトリの内容を削除してから操作を再試行してください。</p>
124187	ERROR	server name not specified	<p>原因: valuepmp 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: スクリプトが正常に読み出されたことを確認してください。通常の操作でこのエラーが発生した場合は、サポートに問い合わせてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124188	ERROR	There are no mount points on server \$MACH	<p>原因: サーバにファイルシステムリソースのマウントポイントがありません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124194	WARN	Please correct conflicting <code>"/etc/fstab"</code> entries on server \$UNAME for: \$FSDEV, \$FSNAME	<p>原因: ファイルシステムリソースを削除したら、<code>/etc/fstab</code> の一部のエントリを手動でクリーンアップする必要があります。</p> <p>処置: <code>/etc/fstab</code> ファイルを手動でクリーンアップします。</p>
124195	ERROR	getchildinfo found no \$OKAPP child for \$PTAG	<p>原因: システムは子リソースを階層で見つけられませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、階層が正しいことを確認してから、操作を再試行してください。</p>
124196	ERROR	enablequotas - quotacheck may have failed for \$FS_NAME	<p>原因: 割り当て操作に失敗しました。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび <code>/var/log/messages</code> の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124198	ERROR	enablequotas - quotaon failed to turn on quotas for \$FS_NAME, reason	<p>原因: 割り当て操作に失敗しました。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび <code>/var/log/messages</code> の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124200	ERROR	The device node \$dev was not found or did not appear in the udev create time limit of \$delay seconds	<p>原因: デバイスノード (<code>/dev/...</code>) が <code>udev</code> によって作成されませんでした。これは、ストレージまたはストレージへのサーバ接続の問題を示している可能性があります。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび <code>/var/log/messages</code> の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124201	WARN	Device \$device not found.Will retry wait to see if it appears.	<p>原因: これは、udev がストレージのデバイスノードエントリを作成している間、通常の条件下で発生する可能性もあります。このメッセージは繰り返し表示されないはずです。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124202	ERROR	Command \"\$commandwithargs\" failed.Retrying	<p>原因: 指定されたコマンドは失敗しましたが、一時的なものである可能性もあります。この障害は、通常の操作で発生しますが、継続はしないはずです。</p> <p>処置: このメッセージが何度も表示される場合は、隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124204	WARN	cannot make file system \$FSNAME mount point	<p>原因: マウントポイントディレクトリを作成できませんでした。</p> <p>処置: マウントポイントを作成できることを確認してください。これは、ファイルシステム権限やマウントオプションなどによる可能性があります。</p>
124207	ERROR	\"fsck\"ing file system \$FSNAME failed, trying alternative superblock	<p>原因: このメッセージは、通常のファイルシステムチェックに失敗したことを示します。このメッセージは、ext2 ファイルシステムまたは代替スーパーブロックロケーションが使用されているファイルシステムの場合は問題ないと思われます。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124209	ERROR	\"fsck\"ing file system \$FSNAME with alternative superblock failed	<p>原因: これは、代替スーパーブロックロケーションで ext2 ファイルシステム(または代替スーパーブロックロケーションが使用されている他のファイルシステム)の確認が失敗したことを示します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、実行方法の手順を確かめてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124210	WARN	POSSIBLE FILESYSTEM CORRUPTION ON \$FSNAME (\$FPNAME)	<p>原因: ファイルシステムがサービス中になったか、ミラーソースと同期していないときにフェイルオーバされました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、製品ドキュメントを参照して、ファイルシステムを安全にサービス中にする方法を調べてください。</p>
124211	ERROR	Reason for fsck failure (\$retval):\$ret	<p>原因: このログメッセージは一連のメッセージの一部で、fsck プロセスからの実際の終了コードを提供します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、実行方法の手順を確かめてください。</p>
124212	ERROR	"fsck" of file system \$FSNAME failed	<p>原因: ファイルシステムの確認に失敗しました。これは通常、ファイルシステムが破損したことによるものです。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。製品ドキュメントを参照し、可能性のあるファイルシステムの破損を処理する方法を調べてください。</p>
124213	WARN	POSSIBLE FILESYSTEM CORRUPTION ON \$FSNAME (\$FPNAME)	<p>原因: システムまたはユーザが、破損している可能性のあるファイルシステムを in service にしようとした。これは、ミラーサイトと同期していないときにファイルシステムが切り替えられたか、フェイルオーバされた場合に起こることがあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、製品ドキュメントを参照して、リソースを安全にサービス中にする方法を調べてください。</p>
124214	ERROR	Reason for fsck failure (\$retval)	<p>原因: このメッセージは、ファイルシステムチェックの障害に関する前のログメッセージに続いて表示されるもので、fsck プロセスのプロセス終了コードを提供します。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124218	ERROR	File system \$FSNAME was found to be already	<p>原因: このメッセージは、一連のメッセージの一部です。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124219	ERROR	mounted after initial mount attempt failed.	<p>原因: このメッセージは、一連のメッセージの一部です。通常の状態では表示されないはずですが、リソースがサービス中の場合は致命的なエラーの可能性もあります。</p> <p>処置: lifekeeper ログおよび /var/log/messages の隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124220	ERROR	File system \$FSNAME failed to mount.	<p>原因: ファイルシステムをマウントできませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124221	WARN	Protected Filesystem \$ID is full	<p>原因: ファイルシステムの空き容量がありません。</p> <p>処置: 使用していないデータをファイルシステムから削除するか、より大きなファイルシステムに移行してください。</p>
124222	WARN	Dependent Applications may be affected <>	<p>原因: これは、あるリソースに対する操作が、リソースの階層に基づいて別のリソースにも実行される可能性が高いことを示します。</p> <p>処置: 示されているリソースが影響を受けても許容できることを確認してから操作を続行してください。</p>
124223	ERROR	Put \"\$t\" Out-Of-Service Failed By Signal	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124227	ERROR	Put \"\$i\" Out-Of-Service Failed	<p>原因: 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124230	ERROR	Put \"\$t\" In-Service Failed By Signal	<p>原因: このメッセージは、通常の状態では表示されません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
124231	ERROR	Put \"\$t\" In-Service Failed	<p>原因: 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
124234	ERROR	Put \"\${t}\" In-Service Failed	原因: 操作に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。

Gen/App キット メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126105	ERROR	script not specified - \$PTH is a directory	原因: 指定したスクリプトパスはディレクトリです。 処置: スクリプトのパスを修正してください。
126110	ERROR	script \$PTH does not exist	原因: 指定したスクリプトパスは存在しません。 処置: スクリプトのパスを修正してください。
126115	ERROR	script \$PTH is a zero length file	原因: 指定したスクリプトは空のファイルです。 処置: スクリプトのファイルパスを修正し、スクリプトの内容を確認してください。
126117	ERROR	script \$PTH is not executable	原因: 指定したスクリプトは実行可能ではありません。 処置: スクリプトのファイルパスを修正し、スクリプトファイルの内容を確認したら、正常な実行権限があることを確認してください。
126125	ERROR	required template machine name is null	原因: 入力テンプレートマシン名が null です。 処置: 入力テンプレートマシン名を修正してください。
126130	ERROR	required template resource tag name is null	原因: 入力テンプレートリソース {tag} が null です。 処置: 入力テンプレートリソースタグ名を修正してください。

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126135	ERROR	Unable to generate a new tag	<p>原因: 拡張の際に、"newtag" スクリプトを使用してターゲットノードでテンプレートタグ名と同じ新規タグを生成できませんでした。タグ名はすでに存在しています。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名を避け、ログで詳細を確認してください。</p>
126140	ERROR	Unable to generate a new tag	<p>原因: 拡張の際に、"newtag" スクリプトを使用してターゲットノードで入力ターゲットタグ名として新規タグを生成できませんでした。タグ名はすでに存在しています。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名を避け、ログで詳細を確認してください。</p>
126150	ERROR	unable to remote copy template \"\$_lscript\" script file	<p>原因: テンプレートスクリプトファイルのリモートコピーに失敗しました。原因としては、テンプレートノードにテンプレートスクリプトファイルがない、またはスクリプトファイルを使用できない、あるいは "lcmdrcp" プロセスで何らかのトランザクション障害が発生したことなどが考えられます。</p> <p>処置: テンプレートスクリプトの有無/使用可能性を確認し、テンプレートノードへの接続を確かめてください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126155	ERROR	failed to create resource instance on \"\${TargetSysName}	<p>原因: "ins_create" を使用したリソースインスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126160	ERROR	failed to set resource instance state for \"\${TargetTagName}\" on \"\${TargetSysName}	<p>原因: GenApp リソース拡張の際に、"ins_setstate" を使用したリソースインスタンスの状態の設定に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126170	ERROR	getlocks failure	<p>原因: リソース階層の作成時に管理ロックの取得に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126175	ERROR	instance create failed	<p>原因: "appins" を使用した GenApp インスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126180	ERROR	unable to set state to OSU	<p>原因: GenApp リソース作成の際に、"ins_setstate" を使用したリソースインスタンスの状態の設定に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126190	ERROR	resource restore has failed	<p>原因: GenApp リソースのリストアに失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126200	ERROR	create application hierarchy rlocks failure	<p>原因: GenApp リソースの作成後にロックの解除に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126210	ERROR	copy \$ltype script \$lscript failure	<p>原因: リソース作成時に、ユーザ提供のスクリプトを適切な GenApp ディレクトリにコピーできませんでした。</p> <p>処置: ユーザ提供のスクリプトの有無/使用可能性に加え、GenApp ディレクトリを確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126215	ERROR	no \$!type script specified	<p>原因: GenApp リソース作成時にユーザ定義スクリプトが見つかりません。</p> <p>処置: 入力アクションスクリプトを確認し、リソース作成を再実行してください。</p>
126220	ERROR	no machine name specified	<p>原因: GenApp リソース作成時に指定のマシン名が見つかりません。マシン名の入力内容が見つからないため、指定したユーザスクリプトのコピーに失敗しました。</p> <p>処置: マシン名の入力内容を確認し、リソース作成を再実行してください。</p>
126225	ERROR	no resource tag specified	<p>原因: リソース作成時に指定のタグ名が見つかりません。</p> <p>処置: ソースタグ名の入力内容を確認し、リソース作成を再実行してください。</p>
126230	ERROR	\$ERRMSG Script was terminated for unknown reason	<p>原因: 不明な理由で GenApp リソースの拡張に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126235	ERROR	\$ERRMSG Required template machine name is null	<p>原因: GenApp リソース拡張時にテンプレートマシン名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートマシン名の入力内容を確認し、リソース拡張を再実行してください。</p>
126240	ERROR	\$ERRMSG Required template resource tag name is null	<p>原因: GenApp リソース拡張時にテンプレートリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: テンプレートリソースタグ名の入力内容を確認し、リソース拡張を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126245	ERROR	\$ERRMSG Can not access extend for \$AppType/\$ResType resources on machine \\"\$TargetSysName\	<p>原因: ターゲットノードで GenApp リソース拡張の際に、"extend" スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: "extend" スクリプトの有無 / 使用可能性を確認し、GenApp リソース拡張を再実行してください。</p>
126250	ERROR	create application failure - ins_list failed	<p>原因: GenApp リソース作成で "ins_list" を呼び出している際に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126255	ERROR	create application failure - unable to generate a new tag	<p>原因: GenApp リソース作成で新規タグの生成に失敗しました。</p> <p>処置: 同じノードで重複するタグ名の使用を避けてください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126270	ERROR	create application failure - ins_create failed	<p>原因: "ins_create" を使用した GenApp インスタンスの作成に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126275	ERROR	create application failure - copy_actions failed	<p>原因: "copy_actions" を使用したユーザ指定テンプレートスクリプトファイルのコピーに失敗しました。</p> <p>処置: テンプレートスクリプトの有無/使用可能性を確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126290	ERROR	Unable to obtain tag for resource with id \$ID	<p>原因: リカバリ時に入力 ID による GenApp リソースタグ名のフェッチに失敗しました。</p> <p>処置: 入力 ID が正しいこと、および LCD の GenApp リソースの有無/使用可能性を確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126300	ERROR	generic application recover script for \$TAG was not found or was not executable	<p>原因: リカバリ時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp リカバリプロセスを再実行してください。</p>
126310	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソースリストア時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソースリストアを再実行してください。</p>
126315	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソースリストア時にリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソースリストアを再実行してください。</p>
126335	ERROR	restore script \"\$LCDAS/\$APP_RESTOREDIR/\$TAG\" was not found or is not executable	<p>原因: リストア時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp リストアプロセスを再実行してください。</p>
126340	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース削除を再実行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126345	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除時にリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソース削除を再実行してください。</p>
126365	ERROR	remove script \"\$LCDAS/\$APP_REMOVEDIR/\$TAG\" was not found or was not executable	<p>原因: 削除時に GenApp リソースのユーザ定義スクリプトの特定に失敗しました。</p> <p>処置: ユーザ定義スクリプトの有無/使用可能性を確認し、GenApp 削除プロセスを再実行してください。</p>
126375	ERROR	Script has hung checking \"\$tag\".Forcibly terminating.	<p>原因: 待機時間がユーザ定義のタイムアウトを超えたので、タグ名 {tag} の GenApp リソースの "quickCheck" スクリプトは強制的に終了しました。</p> <p>処置: GenApp リソースのパフォーマンスを確認し、quickChecking を再起動してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126380	ERROR	Usage error: no tag specified	<p>原因: GenApp リソース quickCheck 時にリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース quickCheck を再実行してください。</p>
126385	ERROR	Internal error: ins_list failed on \$tag.	<p>原因: quickCheck プロセスで、"ins_list" を使用した、入力タグ名による GenApp リソース情報のフェッチに失敗しました。</p> <p>処置: 入力タグ名を修正し、quickCheck プロセスを再実行してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因/処置
126390	FATAL	Failed to fork process to execute \$userscript:\$!	<p>原因: GenApp リソース "quickCheck" プロセスでユーザ定義の "quickCheck" スクリプトを実行するためにプロセスを分岐させられませんでした。</p> <p>処置: ユーザ定義 "quickCheck" スクリプトの有無/使用可能性を確認し、"quickCheck" プロセスを再実行してください。</p>
126391	ERROR	quickCheck has failed for \"\$tag\". Starting recovery.	<p>原因: タグ名 {tag} の GenApp リソースは、ユーザ定義の健全性監視スクリプトを使用することでおそらく失敗します。"quickCheck" およびリカバリプロセスが開始されます。</p> <p>処置: ローカルリカバリが完了したら、GenApp リソースのパフォーマンスを確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
126400	ERROR	-t flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除プロセスでリソースタグ名の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソースタグ名の入力内容を確認し、リソース削除プロセスを再実行してください。</p>
126405	ERROR	-i flag not specified	<p>原因: GenApp リソース削除プロセスでリソース内部 ID の入力が見つかりません。</p> <p>処置: リソース内部 ID の入力内容を確認し、リソース削除プロセスを再実行してください。</p>

IP Kit メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123006	FATAL	Unknown version %s of IP address	<p>原因: IP アドレスが IPv4 でも IPv6 でも有効ではないようです。</p> <p>処置: 有効な IP アドレスを指定してください。</p>
123008	ERROR	No pinglist found for %s.	<p>原因: この IP アドレスの pinglist を開こうとして問題が発生しました。</p> <p>処置: この IP アドレスの pinglist を指定していることを確認してください。</p>
123009	ERROR	List ping test failed for virtual IP %s	<p>原因: ping リストのどのアドレスからも応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: このノードのネットワーク接続および ping リストの IP が存在するシステムを確認してください。</p>
123013	ERROR	Link check failed for virtual IP %s on interface %s.	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: インターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>
123015	ERROR	Link check failed for virtual IP %s on interface %s.	<p>原因: 要求したインターフェースは bonding インターフェースで、スレーブのいずれか 1 つが「NO-CARRIER」です。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: スレーブインターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123024	ERROR	IP address seems to still exist somewhere else.	<p>原因: IP アドレスはネットワークの別の場所で使用中のようです。</p> <p>処置: 別のIP アドレスを選択して使用するか、このIP アドレスを特定して、現在の使用を無効にしてください。</p>
123027	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: 仮想 IP の quickCheck がタイムアウトのため終了しました。</p> <p>処置: 条件を修正するか、/etc/default/LifeKeeper の IP_QUICKCHECK_TIMEOUT でより適切な値を指定します。</p>
123037	ERROR	must specify machine name containing primary hierarchy	<p>原因: crelPhier に指定した引数が不十分です。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて crelPhier に指定してください。</p>
123038	ERROR	must specify IP resource name	<p>原因: crelPhier に渡された引数が不十分です。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて crelPhier に指定してください。</p>
123039	ERROR	must specify primary IP Resource tag	<p>原因: 「crelPhier」コマンドにプライマリ IP リソースタグの引数が指定されていません。</p> <p>処置: 必要な引数をすべて指定してください。</p>
123042	ERROR	An unknown error has occurred in utility validmask on machine %s.	<p>原因: 「validmask」ユーティリティの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123045	ERROR	An unknown error has occurred in utility getlocks.	<p>原因: 「getlocks」ユーティリティの実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123053	ERROR	Cannot resolve hostname %s	<p>原因: IP アドレスに対してホスト名が指定されましたが、システムはホスト名をIPアドレスに解決できませんでした。</p> <p>処置: ホスト名が正確かどうかを確認してから、名前の解決(DISまたは/etc/hosts)が正常に機能しており、ホスト名のIPを返すことを確認してください。</p>
123055	ERROR	An unknown error has occurred in utility %s on machine %s.	<p>原因: IP リソースの作成中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123056	ERROR	create ip hierarchy failure: perform_action failed	<p>原因: 作成中にIPアドレスをリストアしようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123059	ERROR	Resource already exists on machine %s	<p>原因: すでに存在するIPアドレスを作成しようとしていました。</p> <p>処置: 既存のリソースを再利用するか、すでに存在しているIPアドレスを手動で削除するか、別のIPアドレスを使用してください。</p>
123060	ERROR	ins_create failed on machine %s	<p>原因: IP リソースの作成中に予期しない障害が発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>
123064	ERROR	An unknown error has occurred in utility %s on machine %s.	<p>原因: IP リソースの依存関係を作成中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123066	ERROR	An error occurred during creation of LifeKeeper application=comm on %s.	<p>原因: 「app_create」の呼び出し中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123068	ERROR	An error occurred during creation of LifeKeeper resource type=ip on %s.	<p>原因: 「typ_create」の呼び出し中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123091	ERROR	the link for interface %s is down	<p>原因: 要求したインターフェースが「NO-CARRIER」となっています。これは、物理レイヤー接続にリンクが存在しないことを示します。</p> <p>処置: インターフェースの物理接続を確認し、物理レイヤーリンクを有効にしてください。</p>
123093	ERROR	the ping list check failed	<p>原因: ping リストのどのアドレスからも応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: このノードのネットワーク接続および ping リストの IP が存在するシステムを確認してください。</p>
123095	ERROR	broadcast ping failed	<p>原因: ブロードキャスト ping から応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: サブネット上の1つ以上のホストがブロードキャスト ping に応答することを確認してください。仮想 IP が正しいネットワークインターフェースにあることを確認してください。ブロードキャスト ping ではなく、pinglist の使用を検討してください。</p>
123096	ERROR	\$msg	<p>原因: 仮想 IP の実行可能性の判定に使用するブロードキャスト ping に失敗しました。</p> <p>処置: このリソースの ping リストがプロパティパネルで正常に設定されていることを確認するか、/etc/default/LifeKeeper 設定ファイルに NOBCASTPING=1 を追加してブロードキャスト ping のチェックを確実に無効にしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123097	ERROR	exec_list_ping(): broadcast ping failed.	<p>原因: 仮想 IP の実行可能性の判定に使用するブロードキャスト ping に失敗しました。</p> <p>処置: このリソースの ping リストがプロパティパネルで正常に設定されていることを確認するか、/etc/default/LifeKeeper 設定ファイルに NOBCASTPING=1 を追加してブロードキャスト ping のチェックを確実に無効にしてください。</p>

Oracle キット メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122501	ERROR	DB instance "%s" is already protected on "%s".	<p>原因: {server} で LifeKeeper によってすでに保護されている Oracle データベースインスタンス {sid} を保護しようとした。</p> <p>処置: 別のデータベースインスタンス {sid} を LifeKeeper の保護用に選択する必要があります。</p>
122502	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122503	ERROR	Unable to locate the oratab file "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「create」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>
122504	ERROR	Unable to determine Oracle user for "%s" on "%s".	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は Oracle データベースインストールバイナリの所有権を特定できませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は {server} の有効な非 root ユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122505	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できませんでした。</p> <p>処置: 「create」操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122506	ERROR	Unable to determine Oracle dbspaces and logfiles for "%s" on "%s".	<p>原因: 必要なテーブルスペース、ログファイル、関連データベースファイルの場所を特定するクエリーが失敗しました。これは、内部データベースエラーが原因の可能性もあります。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122507	ERROR	Unknown chunk type found for "%s" on "%s".	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、または必要なデータベースファイルが LifeKeeper でサポートされているファイルまたはキャラクタデバイスタイプではありません。</p> <p>処置: 指定したファイル {database_file} は既存のキャラクタデバイスまたはファイルを参照する必要があります。Oracle インストールドキュメントを参照し、指定したファイル {database_file} を、サポートされているファイルまたはキャラクタデバイスタイプとして再作成してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122508	ERROR	DB Chunk "%s" for "%s" on "%s" does not reside on a shared file system.	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、またはその他の必要なデータベースファイル {database_file} は、クラスタ内の他のシステムと共有されているファイルシステムに存在しません。</p> <p>処置: コミュニケーションパスが正常に作成されたことを確認するには、LifeKeeper UI または「lcdstatus (1M)」を使用してください。ストレージ保護に必要なアプリケーションリカバリキットがインストールされたことを確認するには、「rpm」を使用してください。ファイルが実際には共有ストレージにないことを確認し、ない場合は、共有ストレージデバイスに移動してください。</p>
122510	ERROR	File system create failed for "%s" on "%s".Reason	<p>原因: LifeKeeper は、指定したサーバ {server} でリソース {filesystem} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122511	ERROR	%s	<p>原因: メッセージに「filesyshier」コマンドの結果が含まれています。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122513	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122514	ERROR	Unable to "%s" on "%s" during resource create.	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は、「rislocks」コマンドで管理ロックを解除できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122516	ERROR	Raw device resource created failed for "%s" on "%s".Reason	<p>原因: LifeKeeper は、指定したサーバ {server} でリソース {raw device} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122519	ERROR	In-service attempted failed for tag "%s" on "%s".	<p>原因: {server} の {tag} に対する「perform_action」コマンドがデータベース {sid} の開始に失敗しました。in service 操作に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから「create」操作を再試行する必要があります。</p>
122521	ERROR	Create of app "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: 内部アプリケーションタイプを作成する「app_create」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122522	ERROR	Create of typ "%s" for app "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: 内部リソースタイプを作成する「typ_create」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122524	ERROR	Setting "resstate" for resource "%s" on "%s" failed with return code of "%d".	<p>原因: リソースの状態を {state} に設定する「ins_setstate」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122525	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same: "%s".	<p>原因: 「extend」操作でターゲットサーバとテンプレートサーバで指定した値が同じでした。</p> <p>処置: {target server} と {template server} に対して正しいパラメータを指定する必要があります。{target server} は、{tag} が拡張されるサーバです。</p>
122526	ERROR	Unable to locate the oratab file in "/etc" or in "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「extend」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>
122527	ERROR	Unable to retrieve the Oracle user on "%s".	<p>原因: 「canextend」操作または「extend」操作の間に {template server} から Oracle ユーザを取得できませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は、{target server} と {template server} の有効なユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122528	ERROR	The Oracle user and/or group information for user "%s" does not exist on the server "%s".	<p>原因: LifeKeeper は、サーバ {server} の Oracle ユーザ {user} に対して Oracle ユーザおよびグループ情報を検索できません。</p> <p>処置: 指定した {server} に Oracle ユーザ {user} が存在していることを確認してください。ユーザ {user} が存在しない場合、クラスタ内のすべてのサーバで、同じ uid および gid を使用して作成する必要があります。</p>
122529	ERROR	The id for user "%s" is not the same on template server "%s" and target server "%s".	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} にある Oracle ユーザ {user} のユーザ ID が、テンプレートサーバ {template server} にあるユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: Oracle ユーザ {user} のユーザ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。ユーザ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「extend」操作を再試行する必要があります。</p>
122530	ERROR	The group id for user "%s" is not the same on template server "%s" and target server "%s".	<p>原因: ターゲットサーバ {target server} にある Oracle ユーザ {user} のグループ ID が、テンプレートサーバ {template server} にあるユーザ {user} の値と一致しません。</p> <p>処置: Oracle ユーザ {user} のグループ ID はクラスタ内のすべてのサーバで一致している必要があります。グループ ID の不一致をすべてのサーバで手動で修正し、「extend」操作を再試行する必要があります。</p>
122532	ERROR	No file system or raw devices found to extend for "%s" on "%s".	<p>原因: サーバ {template server} で Oracle リソース {tag} の依存ファイルシステムまたは Raw デバイスリソースが見つかりません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122533	WARN	A RAMDISK (%s) was detected in the ORACLE Database configuration for "%s" on "%s". LifeKeeper cannot protect RAMDISK. This RAMDISK resource will not be protected by LifeKeeper! ORACLE hierarchy creation will continue.	<p>原因: 指定したテーブルスペース、ログファイル、またはその他のデータベースファイル {database_file} が ramdisk として検出されました。現在の LifeKeeper 製品では、このタイプのリソースに保護を適用できません。</p> <p>処置: ramdisk は保護されません。すべての Oracle データベース操作に必要なデータベースファイル {database_file} が使用可能になるように手動で確認する必要があります。</p>
122534	ERROR	Failed to initialize object instance for Oracle sid "%s" on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122537	ERROR	Update of instance info field for "%s" on "%s" failed (%s).	<p>原因: 内部リソース情報フィールドを更新する「ins_setinfo」コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122538	ERROR	Initial connect with query buffer to database "%s" on "%s" failed, testing output.	<p>原因: データベースの状態を判別するために Oracle データベース {sid} に接続しようとしたところ、失敗しました。</p> <p>処置: 指定した認証情報で接続が失敗しました。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122542	ERROR	The "%s [%s]" attempt of the database "%s" appears to have failed on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} に対してメソッド {action_method} を使用した Oracle アクション {action} がサーバ {server} で失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122543	ERROR	All attempts to "%s" database "%s" on "%s" failed	<p>原因: サーバ {server} の Oracle データベース {sid} に対するアクション {action} を実行するためのあらゆる取り組みが失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122544	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。このエラーは oratab ファイルを開こうとしている間に発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122545	ERROR	Unable to locate the oratab file in "/etc" or in "%s" on "%s".	<p>原因: {server} のデフォルトまたは代替ロケーションで oratab ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>処置: oratab ファイルが存在しており、Oracle ユーザの適切な権限を持っていることを確認してください。「extend」操作を完了するには有効な oratab ファイルが必要です。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122546	ERROR	Unable to open file "%s" on "%s" (%s).	<p>原因: エラー {error} のため、サーバ {server} では、指定したファイル {file} を開くことも、ファイルにアクセスすることもできませんでした。</p> <p>処置: 指定したファイル {file} の有無や権限を確認してください。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122547	ERROR	(cleanUpPids):Forcefully killing hung pid(s):pid(s)="%s"	<p>原因: プロセス {pid} が正常終了するための要求に応答できませんでした。プロセス {pid} は強制終了します。</p> <p>処置: コマンドラインで、プロセス {pid} が終了していることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122548	ERROR	Unable to locate the DB utility (%s/%s) on this host.	<p>原因: {path/utility} にある Oracle バイナリおよび必要なデータベースユーティリティ {utility} がこのサーバ {server} では見つかりませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリおよび必要なソフトウェアユーティリティがインストールされ、サーバ {server} で適切に設定されていることを確認してください。Oracle バイナリを各ノードにローカルインストールするか、クラスタ内の全ノードで使用可能な共有ストレージに配置する必要があります。</p>
122549	ERROR	Oracle internal error or non-standard Oracle configuration detected.Oracle User and/or Group set to "root".	<p>原因: 検出された Oracle データベースインストールの所有権が、ルートユーザまたはルートグループに解決されています。ルートによる Oracle インストールの所有権は標準的ではない設定です。</p> <p>処置: Oracle バイナリの所有者は {server} の有効な非 root ユーザである必要があります。Oracle データベース所有権の権限と所有権を修正し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122550	ERROR	Initial inspection of "%s" failed, verifying failure or success of received output.	<p>原因: 前の Oracle クエリー {query} またはコマンド {cmd} が成功を返すことができませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>
122551	ERROR	Logon failed with "%s" for "%s" on "%s".Please check username/password and privileges.	<p>原因: 認証情報 {credentials} を使用してサーバ {server} のデータベースインスタンス {sid} へのログオンに失敗しました。無効なユーザ {user} またはパスワードが指定されました。</p> <p>処置: Oracle データベースユーザ {user} およびパスワード {password} が有効であることを確認してください。また、Oracle データベースユーザ {user} は、試行されるアクションに対して十分な権限を持っている必要があります。</p>
122552	ERROR	%s	<p>原因: メッセージに「sqlplus」コマンドの結果が含まれていません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>
122553	ERROR	Unable to open file "%s" on "%s" (%s).	<p>原因: エラー {error} のため、サーバ {server} では、指定したファイル {file} を開くことも、ファイルにアクセスすることもできませんでした。</p> <p>処置: 指定したファイル {file} の有無や権限を確認してください。隣接するログメッセージおよび関連エラーで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122554	ERROR	The tag "%s" on "%s" is not an Oracle instance or it does not exist.	<p>原因: サーバ{server}の指定されたタグ{tag}は、既存の有効な Oracle リソースインスタンスを参照していません。</p> <p>処置: UI または「lcdstatus (1M)」を使用して、リソースタグ{tag}の有無を確認してください。コマンド「ora-display」を使用するには、リソースタグ{tag}が Oracle リソースインスタンスである必要があります。</p>
122555	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: Oracle リソースインスタンスの認定ユーザ、パスワード、データベースロールを更新している際に、保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成しようとしたところ、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122557	ERROR	Update of user and password failed for "%s" on "%s".	<p>原因: リソースタグ{tag}のユーザおよびパスワードを更新する要求に失敗しました。指定した認証情報では、サーバ{server}に対する初期検証/接続ができませんでした。</p> <p>処置: 目的の操作に対して正しい認証情報{user/password}が指定されていることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122559	ERROR	Update of user and password failed for "%s" on "%s".	<p>原因: サーバ{server}のリソースタグ{tag}のユーザおよびパスワード情報の更新に失敗しました。</p> <p>処置: 目的の操作に対して正しい認証情報{user/password}が指定されていることを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122562	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 必要な Oracle 実行ファイル {exe} がこのサーバ {server} では見つかりませんでした。</p> <p>処置: Oracle バイナリおよび必要なソフトウェアユーティリティがインストールされ、サーバ {server} で適切に設定されていることを確認してください。Oracle バイナリを各ノードにローカルインストールするか、クラスタ内の全ノードで使用可能な共有ストレージに配置する必要があります。</p>
122566	ERROR	Unable to find Oracle home for "%s" on "%s".	<p>原因: Oracle ホームディレクトリ {Oracle home} には、Oracle インスタンス {sid} の正常な動作に必要なファイルが含まれていないようです。</p> <p>処置: Oracle ホームディレクトリ {Oracle home} に Oracle バイナリ、有効な spfile{sid}.ora、または init{sid}.ora ファイルが含まれていることをコマンドラインで確認してください。</p>
122567	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中に予期しないエラーが発生しました。指定した内部 ID {id} が、予想した SID {sid} と一致しません。</p> <p>処置: パラメータが正しいことを確認してください。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122568	ERROR	DB Processes are not running on "%s".	<p>原因: Oracle インスタンスのプロセスチェックで、サーバ {server} で実行されているプロセスは見つかりませんでした。</p> <p>処置: ローカルリカバリが有効になっている場合、Oracle インスタンスはローカルで再起動されます。隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122572	ERROR	Failed to create flag "%s" on "%s".	<p>原因: スタンバイノードへのフェイルオーバを促す Oracle ローカルリカバリ処理を制御するためのフラグを作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122574	ERROR	all attempts to shutdown the database %s failed on "%s".	<p>原因: ローカルリカバリプロセス中に、おそらくデータベース接続数が上限に達したため、Oracle データベースのシャットダウンに失敗しました。</p> <p>処置: Oracle ログで、許容接続数の上限に達したことによって起こった接続の障害の有無を確認してください。その障害が見つかった場合は、接続数を増やしてください。また、ローカルリカバリの実行による quickCheck の障害発生が、接続の失敗を引き起こさないように、LK_ORA_NICE を 1 に設定してください。</p>
122597	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護されている Oracle インスタンスの内部表現を作成中、拡張前のチェックの際に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、pre-extend を再試行してください。</p>
122598	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 作成中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle ホームディレクトリの有効性を確認しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「create」を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122599	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、テンプレートシステムで Oracle ユーザをルックアップしようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、extend を再試行してください。</p>
122600	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、リソースプロパティを表示しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、リソースプロパティの表示を再試行してください。</p>
122601	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、有効なデータベース認証を確認しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージおよび関連メッセージで詳細を確認してください。レポートされているエラーを修正してから、コマンドを再試行してください。</p>
122603	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle リソースインスタンスに対してヘルスチェックを実行しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 正しい引数が quickCheck コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、restore を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122604	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 保護中の Oracle インスタンスの内部表現を作成しているときに、Oracle リソースインスタンスに対してローカルリカバリを実行しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 正しい引数が「recover」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、recover を再試行してください。</p>
122606	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できません。</p> <p>処置: 選択した操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122607	ERROR	The Oracle database "%s" is not running or no open connections are available on "%s".	<p>原因: データベースインスタンス {sid} が実行されていません。またはデータベースへの接続が、指定された認証情報では使用できません。</p> <p>処置: 選択した操作を完了するには、データベースインスタンス {sid} を {server} で起動し、正しい認証情報を指定する必要があります。</p>
122608	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 「remove」操作で、Oracle リソースを Out of Service にするために必要なリソースオブジェクトインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 正しい引数が「remove」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、restore を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122609	ERROR	Failed to create object instance for Oracle on "%s".	<p>原因: 「restore」操作で、Oracle リソースを In Service にするために必要なリソースオブジェクト インスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 正しい引数が「restore」コマンドに渡されていることを確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」を再試行してください。</p>
122610	ERROR	Unable to "%s" on "%s" during resource create.	<p>原因: Oracle Application Recovery Kit は、リソース作成中に「getlocks」コマンドで管理ロックを作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create を再試行してください。</p>
122611	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 File System リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122612	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122613	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Raw リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122614	ERROR	%s	<p>原因: 要求された親 Oracle リソースと子 Listener リソースとの間の依存関係の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、create 操作を再試行してください。</p>
122616	ERROR	%s	<p>原因: Oracle データベースの要求された起動またはシャットダウンに失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから、「restore」または「remove」操作を再試行してください。</p>
122618	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>
122619	ERROR	Dependency creation between Oracle database "%s (%s)" and the dependent resource "%s" on "%s" failed.Reason	<p>原因: LifeKeeper は、データベースリソース {tag} と必要な子リソース {childtag} との間に依存関係を作成できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。問題が修正されている場合は、{tag} と {childtag} との間の依存関係を手動で作成できる可能性があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122625	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: quickCheck プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122626	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 削除プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122627	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: リストアプロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122628	ERROR	Unable to find the Oracle executable "%s" on "%s".	<p>原因: 復旧プロセスが、Oracle の実行可能ファイル「sqlplus」を見つけることができませんでした。</p> <p>処置: Oracle 設定を確認し、隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされている問題を修正してください。</p>
122632	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: 削除の際に、削除プロセスに渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122633	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: リストアの際に、restore に渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122634	ERROR	Oracle SID mismatch. The instance SID "%s" does not match the SID "%s" specified for the command.	<p>原因: リソースリカバリの際に、recovery に渡されるリソースインスタンス {sid} が、{sid} の内部リソースインスタンス情報と一致しません。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122636	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: {server} で Oracle リソース階層 {tag} の作成に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122638	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: サーバ {server} の Oracle データベースリソース {tag} で作成アクションに失敗しました。シグナル {sig} が作成プロセスによって受信されました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正してから操作を再試行する必要があります。</p>
122640	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122641	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122642	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122643	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122644	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソースインスタンス情報 {tag} を {server} で取得しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正し、extend を再試行してください。</p>
122645	ERROR	Cannot access canextend script "%s" on server "%s"	<p>原因: {server} で依存関係の子リソース用の「canextend」スクリプトが見つからなかったため、LifeKeeper は拡張前のチェックを実行できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122646	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソースインスタンス情報 {tag} を {server} で取得しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。レポートされているエラーを修正し、extend を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122647	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122648	ERROR	Resource with either matching tag "%s" or id "%s" already exists on server "%s" for App "%s" and Type "%s"	<p>原因: データベースリソースの拡張中に、同じ {tag} または {id} で異なるリソースアプリケーションおよびタイプを使用しているリソースインスタンスが見つかりました。</p> <p>処置: リソース ID は一意のものにする必要があります。Oracle リソースインスタンスに合致する ID のリソースインスタンスを削除してください。</p>
122649	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: Oracle リソースインスタンス {tag} を {server} に作成しようとして、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>
122650	ERROR	Cannot access extend script "%s" on server "%s"	<p>原因: 依存関係にある子リソースのスクリプト {extend} がサーバ {server} で見つけれなかったため、サーバ {server} にデータベースリソース {resource} を拡張する要求が失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122651	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: 依存関係にある子リソースの拡張でエラーが発生したため、サーバ {server} に対してデータベースリソース {resource} を拡張する要求に失敗しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認し、レポートされているエラーを修正してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122654	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: quickCheck プロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} のヘルスチェックが終了しました。これはおそらく、quickCheck プロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのヘルスチェック時間は ORACLE_QUICKCHECK_TIMEOUT の設定で制御します。ヘルスチェックプロセスの完了に今より長い時間を割り当てられる場合は、45 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122655	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: 削除プロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} を「Out of Service」にする要求が終了しました。これはおそらく、削除プロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースの削除時間は ORACLE_REMOVE_TIMEOUT の設定で制御します。削除プロセスの完了に今より長い時間を割り当てられる場合は、240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122659	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: リストアプロセスがシグナルを受信したため、データベース {sid} を「In Service」にする要求が終了しました。これはおそらく、リストアッププロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのリストア時間は ORACLE_RESTORE_TIMEOUT の設定で制御します。リストアッププロセスの完了に今より長い時間を割り当てられる場合は、240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122663	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: リカバリプロセスがシグナルを受信したため、失敗したデータベースのリカバリが終了しました。これはおそらく、リカバリプロセスの処理に、割り当てられているよりも長い時間が必要となっているためです。</p> <p>処置: Oracle リソースのリカバリ時間は ORACLE_RESTORE_TIMEOUT と ORACLE_REMOVE_TIMEOUT の設定で制御します。リカバリの完了に今より長い時間を割り当てる場合は、一方または両方を 240 秒よりも大きな値に設定してください。</p>
122670	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。更新プロセスで使用する一時ファイルを開こうとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122671	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。更新プロセスで使用する一時ファイルを閉じようとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122672	ERROR	Update of "%s" sid "%s" on "%s" failed.Reason:"%s" "%s" failed:"%s".	<p>原因: データベース {sid} の oratab エントリを更新しようとしている際に予期しないエラーが発生しました。一時ファイルの名前を oratab に変更しようとして、エラーが発生しました。</p> <p>処置: システム起動時にデータベースが自動で起動されないようにするために、{sid} の oratab ファイルエントリを手動で更新する必要があります。</p>
122673	ERROR	Unable to log messages queued while running as oracle user %s on %s.Reason:\$!	<p>原因: メッセージをログファイルに追加しようとして、予期しないエラー {reason} が発生しました。これらのメッセージは、Oracle ユーザとして実行している間に生成されました。</p> <p>処置: 障害に関する理由を参照し、修正処置を実行してください。</p>
122674	ERROR	Unable to open %s Reason:%s.	<p>原因: Oracle データベースへの接続を開き、データベース {cmd} を実行しようとしたときに、予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細および関連メッセージを確認してください。また、Oracle ログ (alert.log) および関連トレースログ (*.trc) で詳細を確認し、レポートされている問題を修正してください。</p>

Oracle Listener キット メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122005	ERROR	Unable to "%s" on "%s"	<p>原因: "getlocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122007	ERROR	Unable to "%s" on "%s"	<p>原因: "rlslocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122009	ERROR	The path %s is not a valid file.	<p>原因: listener.ora ファイルがありません。</p> <p>処置: ファイルが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122010	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: "Stat" コマンドでユーザ ID を取得できませんでした。</p> <p>処置: 操作を再試行してください。</p>
122011	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: UID が passwd ファイルにありません。</p> <p>処置: UID が passwd ファイルに存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122012	ERROR	The listener user does not exist on the server %s.	<p>原因: ユーザ名 が passwd ファイルにありません。</p> <p>処置: ユーザ名 が passwd ファイルに存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122023	ERROR	The %s command failed (%d	<p>原因: このメッセージに "lsnrctl" コマンドの戻りコードが含まれています。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122024	ERROR	\$line	<p>原因: メッセージに "lsnrctl" コマンドの結果が含まれていません。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122039	ERROR	Usage error	<p>原因: リストア操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122040	ERROR	Script \$cmd has hung on the restore of \"\$opt_t\".Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの restore スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_START_TIME (デフォルトでは 35 秒) がリスナーの起動に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>
122041	ERROR	END failed %s of \"%s\" on server \"%s\" due to a \"%s\" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} をリストアできませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122045	ERROR	Error getting resource information for resource \"%s\" on server \"%s\"	<p>原因: リソース情報の取得に失敗しました。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122046	ERROR	Usage error	<p>原因: リストア操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122049	ERROR	The script \$cmd has hung on remove of \"\$opt_t\". Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの remove スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_STOP_TIME (デフォルトでは 35 秒) がリスナーの停止に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>
122051	ERROR	Error getting resource information for resource \"%s\" on server \"%s\"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122055	ERROR	END failed %s of \"%s\" on server \"%s\" due to a \"%s\" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} に対して quickCheck を実行できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122057	ERROR	Error getting resource information for resource \"%s\" on server \"%s\"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122064	WARN	The %s level is set to %s a %s will not occur.	<p>原因: リスナーの最低限の保護レベルは起動と監視です。</p> <p>処置: リスナーを手動で起動してください。</p>
122066	ERROR	Script has hung checking \"\$tag\". Forcibly terminating.	<p>原因: リスナーの quickCheck スクリプトがタイムアウト値に達しました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であること、および /etc/default/LifeKeeper の LSNR_STATUS_TIME (デフォルトでは 15 秒) がリスナーの確認に必要な時間以上の値に設定されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122067	ERROR	Usage error	<p>原因: quickCheck 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122069	ERROR	Usage error	<p>原因: 削除操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122072	ERROR	%s: resource "%s" not found on local server	<p>原因: 復旧操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122074	WARN	The local recovery attempt has failed but %s level is set to %s preventing a failover to another node in the cluster. With %s recovery set all local recovery failures will exit successfully to prevent resource failovers.	<p>原因: オプションのリスナーリカバリレベルがローカルリカバリにのみ設定されています。</p> <p>処置: リソースツリーを手動でスイッチオーバーしてください。</p>
122078	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を復旧できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122082	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122083	ERROR	\$cmd has hung checking \"\$tag\". Forcibly terminating	<p>原因: recover スクリプトがシグナルによって停止されました。</p> <p>処置: listener.ora が有効であることを確認してください。</p>
122084	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122085	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: canextend 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122086	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same.ターゲットサーバとテンプレートサーバに正しい値を指定してください。	<p>原因: ターゲットサーバに指定した値とテンプレートサーバに指定した値が同じです。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
122087	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122088	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: リソース情報からのリスナーユーザ名の取得に失敗しました。</p> <p>処置: リソース情報フィールドが有効であることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122089	ERROR	The listener user %s does not exist on the server %s.	<p>原因: ユーザ名が passwd ファイルにありません。</p> <p>処置: ユーザ名が passwd ファイルに存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122090	ERROR	The id for user %s is not the same on template server %s and target server %s.	<p>原因: ユーザID はどちらのサーバでも同じものにする必要があります。</p> <p>処置: ユーザID を同じものにしてください。</p>
122091	ERROR	The group id for user %s is not the same on template server %s and target server %s.	<p>原因: グループID はどちらのサーバでも同じものにする必要があります。</p> <p>処置: グループID を同じものにしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122092	ERROR	Cannot access canextend script "%s" on server "%s"	<p>原因: {server} で "canextend" スクリプトが見つからなかったため、LifeKeeper は拡張前のチェックを実行できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122097	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "configActions" 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122098	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122099	ERROR	Unable to update the resource %s to change the %s to %s on %s.	<p>原因: LifeKeeper は情報フィールドに情報を入力できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper を再起動し、操作を再試行してください。</p>
122100	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122101	ERROR	Unable to update the resource %s to change the %s to %s on %s.	<p>原因: LifeKeeper は {server} で情報フィールドに情報を入力できませんでした。</p> <p>処置: {server} で LifeKeeper を再起動し、操作を再試行してください。</p>
122103	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: 作成操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122124	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122126	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因: "rlslocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122127	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122129	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因: "getlocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122131	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122133	ERROR	Unable to create a file system resource hierarchy for the file system %s.	<p>原因: filesyshier" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122135	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122140	ERROR	Resource "%s" is not ISP on server "%s" Manually bring the resource in service and retry the operation	<p>原因: リスナーリソースが依存する IP リソース {tag} は ISP の必要があります。</p> <p>処置: メッセージテキストに記載されている手順を実行してください。</p>
122141	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122144	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "create_ins" 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122145	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.LifeKeeper ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	<p>原因: "app_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122146	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.LifeKeeper ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	<p>原因: "typ_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122147	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.LifeKeeper ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	原因: "newtag" の実行中に予期しないエラーが発生しました。 処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。
122148	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。
122149	ERROR	An error has occurred in utility %s on server %s.LifeKeeper ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	原因: "ins_setstate" の実行中に予期しないエラーが発生しました。 処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。
122150	ERROR	Error creating resource "%s" on server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を作成できませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。
122151	ERROR	Usage:%s %s	原因: "depstoextend" 操作で無効な引数が指定されました。 処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。
122152	ERROR	Usage:%s %s	原因: "extend" 操作で無効なパラメータが指定されました。 処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。
122153	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。
122154	ERROR	Cannot extend resource "%s" to server "%s"	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を拡張できませんでした。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122155	ERROR	Resource with either matching tag "%s" or id "%s" already exists on server "%s" for App "%s" and Type "%s"	<p>原因: リスナーリソースの拡張中に、同じ {tag} または {id} で異なるリソースアプリケーションおよびタイプを使用しているリソースインスタンスが見つかりました。</p> <p>処置: リソース ID は一意のものにする必要があります。Oracle Listener リソースインスタンスに合致する ID のリソースインスタンスを削除してください。</p>
122156	ERROR	Cannot access extend script "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でスクリプト EXTEND が見つからなかったため、リソース階層を拡張できませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122157	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "getConfigIps" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122158	ERROR	The file %s is not a valid listener file.The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: リスナー定義が見つかりませんでした。</p> <p>処置: リスナー定義が listener.ora にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122159	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "getSidListeners" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122160	ERROR	The file %s is not a valid listener file.The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: リスナー定義が見つかりませんでした。</p> <p>処置: リスナー定義が listener.ora にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122161	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "lsn-display" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122162	ERROR	Error getting resource information for resource "%s" on server "%s"	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。</p> <p>処置: LifeKeeper の設定を確認してください。</p>
122163	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: updateHelper 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122164	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を更新できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122166	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "updateHelper" 操作で無効なパラメータが指定されました。</p> <p>処置: パラメータを確認し、操作を再試行してください。</p>
122170	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122171	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122172	ERROR	Usage:%s %s	<p>原因: "updIPDeps" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122173	ERROR	END failed hierarchy "%s" of resource "%s" on server "%s" with return value of %d	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を更新できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122175	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因: "rlslocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122177	ERROR	Unable to "%s" on "%s	<p>原因: "getlocks" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122180	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122181	ERROR	Unable to create a dependency between parent tag %s and child tag %s.	<p>原因: "dep_create" の実行中に予期しないエラーが発生しました。"</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122183	ERROR	The path %s is not a valid file.	<p>原因: listener.ora ファイルがありません。</p> <p>処置: ファイルが存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122185	ERROR	The file %s is not a valid listener file. The file does not contain any listener definitions.	<p>原因: LifeKeeper は有効なリスナー定義の検索に失敗しました。</p> <p>処置: 有効なリスナー定義が listener.ora にあることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122186	ERROR	The value specified for %s cannot be empty. このフィールドに値を指定してください。	<p>原因: 設定および実行 {path} フィールドが空です。</p> <p>処置: 空でない値を {path} に入力し、操作を再試行してください。</p>
122187	ERROR	The path %s is not a valid file or directory.	<p>原因: 定義済み {path} が無効です。</p> <p>処置: {path} が存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122188	ERROR	The path %s is not a valid file or directory.	<p>原因: {path} がありません。</p> <p>処置: {path} が存在していることを確認し、操作を再試行してください。</p>
122189	ERROR	The value specified for %s cannot be empty. このフィールドに値を指定してください。	<p>原因: 設定および実行パスフィールドが空です。</p> <p>処置: フィールドのパスを入力してください。</p>
122190	ERROR	Usage: %s %s	<p>原因: "valid_rpath" 操作で無効な引数が指定されました。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122191	ERROR	The values specified for the target and the template servers are the same.	<p>原因: valid_rpath の無効な引数。</p> <p>処置: 引数を確認し、操作を再試行してください。</p>
122192	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
122193	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122194	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122195	ERROR	Unable to find the configuration file "oratab" in its default locations, /etc/oratab or %s on "%s"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>
122196	ERROR	END failed %s of "%s" on server "%s" due to a "%s" signal	<p>原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {resource} を削除できませんでした。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
122197	ERROR	Unable to find the configuration file "\oratab" in its default locations, /etc/oratab or \$listener::oraTab on \"\$me\"	<p>原因: /etc/oratab または {path} に oratab ファイルがありません。</p> <p>処置: oratab ファイルが {path} にあること、または /etc/default/Lifekeeper の ORACLE_ORATABLOC が有効なパスに設定されていることを確認してください。</p>

Quick Service Protection Recovery Kit メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
134003	ERROR	LK_ERROR:\$tag:catch a \"\$sig\" signal	<p>原因: create処理がシグナルによって中断されました。</p> <p>処置: 前後のログメッセージを確認してください。</p>
134004	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Unable to getlocks on \$server during resource create. Error (\$rc)	<p>原因: リソース階層の作成時に管理ロックの取得に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134005	ERROR	LK_ERROR:\$tag:The service \"\$serviceName\" is not supported on \$server. Error (\$rc)	<p>原因: サービスが存在しないか保護できないサービスです。</p> <p>処置: 適切なサービス名を入力してください。</p>
134006	ERROR	LK_ERROR:\$tag:The service \"\$serviceName\" is already protected on \$server.	<p>原因: すでに保護されているサービスです。</p> <p>処置: このサービスを保護するためのリソースを作成することはできません。</p>
134007	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Error creating resource \$tag. Error (\$rc)	<p>原因: QSPリソースの起動に失敗しました。</p> <p>処置: 保護したいサービスに関連したログを確認して、問題を解決してください。</p>
134011	ERROR	LK_ERROR:\$tag:In-service attempted failed for tag \$tag.	<p>原因: IP アドレスはネットワークの別の場所で使用中的ようです。</p> <p>処置: 別のIP アドレスを選択して使用するか、このIP アドレスを特定して、現在の使用を無効にしてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
134015	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Unable to rlocks on \$server during resource create. Error (\$rc)	<p>原因: QSPリソースの作成後にロックの解除に失敗しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134103	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Template resource \"\$template_tag\" on server \"\$template_sys\" does not exist	<p>原因: テンプレートシステムでリソースを見つけられません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>
134104	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Template resource \"\$template_tag\" on server \"\$template_sys\" is not QSP resource (app=\$ins[1], res=\$ins[2])	<p>原因: テンプレートリソースはQSPリソースではありません。</p> <p>処置: テンプレートリソースと同じタイプに拡張してください。</p>
134105	ERROR	LK_ERROR:\$tag:The service \"\$service\" is not supported on \$me. Error (\$check)	<p>原因: 拡張先のサーバにサービスが存在しません。</p> <p>処置: 拡張先サーバにサービスをインストールしてから拡張してください。</p>
134106	ERROR	LK_ERROR:\$tag:The service \"\$service\" is already protected on \$me.	<p>原因: 拡張先サーバに同じIDのリソースが既にあります。</p> <p>処置: 同じサービスのリソースを作成することはできません。</p>
134203	ERROR	LK_ERROR:\$tag:catch a \"\$sig\" signal	<p>原因: リソース拡張処理がシグナルによって中断されました。</p> <p>処置: 前後のログメッセージを確認してください。</p>
134204	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Template resource \"\$template_tag\" on server \"\$template_sys\" does not exist	<p>原因: テンプレートシステムでリソースを見つけられません。</p> <p>処置: テンプレートシステムで階層が正しいことを確認してから拡張してください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
123059	ERROR	LK_ERROR:\$tag:Error creating resource \"\$tag\" on server \"\$me\"	<p>原因: LifeKeeperが拡張先サーバでリソースインスタンスを作成できませんでした。</p> <p>処置: 前後のログメッセージを確認して、エラーの原因を取り除いてください。</p>
134401	ERROR	An error occurred during creation of LifeKeeper application=comm on %s.	<p>原因: 「app_create」の呼び出し中に障害が発生しました。</p> <p>処置: 関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
123068	ERROR	LK_ERROR:\$tag:timeout \$cmd for \"\$tag\". Forcibly terminating.	<p>原因: サービスの起動処理が規定時間を超えても終了しません。</p> <p>処置: 保護しているサービスについて確認し、restore操作を再実行してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134405	FATAL	LK_FATAL:\$tag:Failed to fork process to execute service command: \$!	<p>原因: forkが失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: forkが失敗する理由を特定してください。</p>
123093	ERROR	the ping list check failed	<p>原因: ping リストのどのアドレスからも応答を受信しませんでした。</p> <p>処置: このノードのネットワーク接続および ping リストの IP が存在するシステムを確認してください。</p>
134407	ERROR	LK_ERROR:\$tag:service command has failed for \"\$tag\"	<p>原因: serviceコマンドの実行に失敗しました。</p> <p>処置: startオプションでserviceコマンドを手動実行するとエラーになります。エラーメッセージを参考にしてエラーの原因を取り除いてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
134501	FATAL	LK_ERROR:\$tag:timeout \$cmd for \"\$tag\". Forcibly terminating.!	<p>原因: サービスの停止処理が規定時間を超えても終了しません。</p> <p>処置: 保護しているサービスについて確認し、remove操作を再実行してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134505	FATAL	LK_FATAL:\$tag:Failed to fork process to execute service command: \$!	<p>原因: forkが失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: forkが失敗する理由を特定してください。</p>
134507	FATAL	LK_ERROR:\$tag:service command has failed for \"\$tag\"	<p>原因: serviceコマンドの実行に失敗しました。</p> <p>処置: stopオプションでserviceコマンドを手動実行するとエラーになります。エラーメッセージを参考にしてエラーの原因を取り除いてください。</p>
134601	ERROR	LK_ERROR:\$tag:timeout \$cmd for \"\$tag\". Forcibly terminating.	<p>原因: サービスの監視処理が規定時間を超えても終了しません。</p> <p>処置: 保護しているサービスについて確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134605	FATAL	LK_FATAL:\$tag:Failed to fork process to execute service command: \$!	<p>原因: forkが失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: forkが失敗する理由を特定してください。</p>
134607	FATAL	LK_FATAL:\$tag:Failed to fork process to execute service command: \$!	<p>原因: forkが失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: forkが失敗する理由を特定してください。</p>
134501	ERROR	LK_ERROR:\$tag:service command has failed for \"\$tag\"	<p>原因: serviceコマンドの実行に失敗しました。</p> <p>処置: statusオプションでserviceコマンドを手動実行するとエラーになります。エラーメッセージを参考にしてエラーの原因を取り除いてください。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
134701	ERROR	LK_ERROR:\$tag:timeout \$cmd for \"\$tag\". Forcibly terminating.	<p>原因: サービスの回復処理が規定時間を超えても終了しません。</p> <p>処置: 保護しているサービスについて確認してください。また、関連するエラーをログで確認し、レポートされている問題を解決してください。</p>
134706	FATAL	LK_FATAL:\$tag:Failed to fork process to execute service command: \$!	<p>原因: forkが失敗しました。これはシステムエラーです。</p> <p>処置: forkが失敗する理由を特定してください。</p>
134708	ERROR	LK_ERROR:\$tag:service command has failed for \"\$tag\"	<p>原因: serviceコマンドの実行に失敗しました。</p> <p>処置: startオプションでserviceコマンドを手動実行するとエラーになります。エラーメッセージを参考にしてエラーの原因を取り除いてください。</p>
134803	ERROR	LK_ERROR:\$tag:tag \"\$tag\" does not exist on server \"\$me\"	<p>原因: 指定されたタグが存在しません。これは内部エラーです。</p>
134804	ERROR	LK_ERROR:\$tag:app type \"\$ins[1]\" is not \$app	<p>原因: 指定されたタグはQSPリソースではありません。これは内部エラーです。</p>
134805	ERROR	LK_ERROR:\$tag:res type \"\$ins[2]\" is not \$res	<p>原因: 指定されたタグはQSPリソースではありません。これは内部エラーです。</p>
134823	ERROR	LK_ERROR:\$tag:tag \"\$tag\" does not exist on server \"\$me\"	<p>原因: 指定されたタグが存在しません。これは内部エラーです。</p>
134824	ERROR	LK_ERROR:\$tag:app type \"\$ins[1]\" is not \$app	<p>原因: 指定されたタグが存在しません。これは内部エラーです。</p>
134825	ERROR	LK_ERROR:\$tag:res type \"\$ins[2]\" is not \$res	<p>原因: 指定されたタグはQSPリソースではありません。これは内部エラーです。</p>
134843	ERROR	LK_ERROR:\$tag:tag \"\$tag\" does not exist	<p>原因: 指定されたタグが存在しません。これは内部エラーです。</p>

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
134844	ERROR	LK_ERROR:\$tag:app type \"\${ins[1]}\" is not \$app	原因: 指定されたタグはQSPリソースではありません。これは内部エラーです。
1348455	ERROR	LK_ERROR:\$tag:res type \"\${ins[2]}\" is not \$res	原因: 指定されたタグはQSPリソースではありません。これは内部エラーです。

SCSI キット メッセージカタログ

Control F を使用して、各カタログの特定のエラーコードを検索します。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
125102	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125103	ERROR	`printf '%s is not shareable with any machine.' \$DEV`	原因: デバイスは他のシステムと共有されていないようです。 処置: デバイスがクラスタ内のすべてのサーバからアクセス可能であることを確認してください。すべての関連ストレージドライバおよびソフトウェアが正常にインストールおよび設定されていることを確認してください。
125104	ERROR	`printf 'Failed to create disk hierarchy for "%s" on "%s"' \$PRIMACH \$DEV`	原因: 物理ディスクを保護するリソースの作成に失敗しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。
125107	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125114	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125120	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125123	ERROR	`printf 'Cannot access depstoextend script "%s" on server "%s"' \$depstoextend \$TargetSysName`	原因: {server} でスクリプト "DEPSTOEXTEND" が見つからなかったため、LifeKeeper はリソース階層に対して拡張前のチェックを実行できませんでした。 処置: LifeKeeper の設定を確認してください。

コード	重大度	メッセージ	原因 / 処置
125126	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$ChildTag \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125129	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTagName \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。
125155	ERROR	SCSI \$DEV failed to lock.	原因: SCSI デバイスをロックする際に問題が発生しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。
125164	ERROR	SCSI \$INFO failed to unlock.	原因: SCSI デバイスをロック解除する際に問題が発生しました。 処置: 隣接するログメッセージで詳細を確認し、レポートされている問題を解決してください。
125181	ERROR	`printf 'Template resource "%s" on server "%s" does not exist' \$TemplateTag \$TemplateSysName`	原因: LifeKeeper は、{server} でリソース {tag} を見つけられませんでした。